工業主ハ始業及終業ノ時刻竝休憩及休日ニ關スル事項ヲ各作業場ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第十二條ノ二　工業主ハ職工ニ就業前豫メ其ノ賃金ノ率及計算方法ヲ明示スヘシ

第十三條　工業主ハ扶助ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ職工ニ周知セシムヘシ

第十四條　職工就業中又ハ工場及附屬建設物內ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ工業主ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第十四條ノ二　工場法施行令第十六條第三項ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一　職工カ一月以上ニ涉リテ歸鄉スルトキ

二　職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ

三　其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第十五條　工場法施行令第十七條ノ給與ノ算出方法ニ關シ契約又ハ慣習ナキ場合ニ於テ年ヲ以テ定メタルトキハ三百六十分シ月ヲ以テ定メタルトキハ三十分ニシテ一日ノ賃金又ハ給與ヲ定ム

第十六條　職工ノ名簿ノ記載ハ樣式第二號ノ定ムル所ニ依ルヘシ

第十七條　職工名簿ノ用紙ハ職工ノ死亡又ハ解雇後五年間之ヲ保存スヘシ

第十八條　工業主カ其ノ職工ニ付工場間ニ又ハ工場ト工場外トノ間ニ所屬ノ移動ヲ行ヒタル場合ニ於テハ職工名簿ノ記載ニ付雇入又ハ解雇アリタルモノト看做ス

第十九條　職工ノ雇入、解雇及扶助ニ關スル書類ハ工場每ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ雇入又ハ解雇ニ關スル書類ハ職工ノ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ三年間、扶助ニ關スル書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三年間之ヲ保存ス

第二十條　工場法施行令第二十三條ノ規定ニ依リ工業主カ賃金ヲ支拂ヒ又ハ職工ノ貯蓄金ヲ返還スヘキ場合左ノ如シ

一　職工カ一月以上ニ涉リテ歸鄉スルトキ

二　職工カ婚禮又ハ葬儀ヲ行フ費用ニ充ツルトキ

三　其ノ他地方長官ノ命令ヲ以テ定メタル場合

第二十一條　工業主工場管理人選任ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ申請書ニ其ノ履歷書ヲ添ヘ之ヲ地方長官ニ差出スヘシ

第二十二條　工業主ハ左ノ場合ニ於テハ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

一　工場法第十八條第三項但書ニ依リ工場管理人ヲ選任シタルトキ

二　工場管理人死亡シ又ハ之ヲ解任シタルトキ

三　第十七條又ハ第十九條第二項ノ規定ニ依リ保存スヘキ書

類ヲ滅失又ハ毀損シタルトキ

第二十三條　削除

第二十四條　常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ニ於ケル職工ノ疾病、負傷又ハ死亡ニ付テハ工業主ハ樣式第三號ノ定ムル所ニ依リ每月取纏メ翌月二十日迄ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十五條　職工就業中又ハ工場若ハ附屬建設物內ニ於テ負傷シ、窒息シ又ハ急性中毒ニ罹リ死亡シタルトキ又ハ療養ノ爲三日以上ノ休業ヲ要スヘキ見込ノトキハ工業主ハ事故發生後遲滯ナク樣式第四號ニ依リ地方長官ニ屆ツヘシ事故發生當時休業三日以內ノ見込ノ者療養ノ爲休業三日以上ニ及ヒタルトキ亦同シ

第二十六條　工場亦ハ附屬建設物內ニ於テ左ニ掲クル事故發生シタル場合ニ於テハ工業主ハ遲滯ナク樣式第五號ニ依リ地方長官ニ屆出ツヘシ

一　火災又ハ爆發

二　汽罐其ノ他壓力ヲ有スル容器ノ破裂

三　勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂

四　起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索ノ切斷又ハ起重機ノ梁若ハ支柱ノ折損

五　工場、附屬建設物、煙突又ハ高架槽ノ倒壞

六　其ノ他一時ニ五人以上ノ死傷者ヲ生シタル事故

第二十六條ノ二　工業主扶助ヲ爲シタルトキ又ハ工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ樣式第六號ニ依リ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十七條　工場法第一條ニ該當セサル工場ニシテ原動力ヲ用ヒ織物又ハ撚絲ノ事業ヲ營ムモノニハ工場法第三條、第四條第七條、第八條、第十四條及第十八條乃至第二十三條竝本則第二條、第四條、第十一條、第十二條第二項、第二十一條及第二十二條ノ規定ヲ適用ス

前項ノ工場ノ工業主ハ十六歲以上ノ職工ニ付其ノ住所、氏名生年月日ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ工場ニ備付クルコトヲ要ス本名簿ハ工業勞働者最低年齡法第三條ニ依ル名簿ト合併スルコトヲ妨ケス

附　則

第二十八條　本則ハ大正五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十九條　本則施行ノ際工場法ノ適用ヲ受クル工場ノ工業主ハ本則施行ノ日ヨリ四月內ハ第十二條、第十三條及第二十四條ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第三十條　工場法施行ノ際十歲以上十二歲未滿ノ者ヲ引續キ就業セシムル工業主ハ大正五年九月三十日迄ニ其ノ氏名、男女別、生年月日及雇入年月ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆出ヲ怠リタル者亦ハ其ノ屆書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタ

ル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十一條　本則中地方長官トアルハ東京府ニ於テハ警視總監トス

大正十五年六月七日內務省令第十三號附則

本令ハ大正十二年法律第三十三號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令（樣式第二號ノ改正規定ヲ除ク）中十六歲トアルハ本令施行後三年間ハ十五歲トス

昭和四年五月十八日內務省令第十六號附則（樣式第一號）

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十七條第一項ノ工場ノ工業主ハ本令施行後二年間ハ十六歲未滿ノ者及女子ノ一日ノ就業時間ヲ十二時間延長スルコトヲ得

昭和五年六月二十四日內務省令第二十四號附則

本令ハ昭和五年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日內務省令第五十三號附則

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第　號　大正　年　月　日交付

官	社會局又ハ廳府縣印
職氏名	

工場法第十四條　當該官吏ハ工場若ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢シ又ハ就業ノ禁止制限ヲ爲スヘキ疾病若ハ傳染ノ虞アル疾病ニ罹レル疑アル職工若ハ徒弟ノ檢診ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ攜帶スヘシ

工場法第二十一條　正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ職工若ハ徒弟ノ診檢ヲ妨ケタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

竪八センチメートル橫十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工場臨檢票」ト記ス

合本

樣式（第二號）

男女	氏名	生年月日	本籍	住所	履歷	雇入	解雇	雜

職工名簿記載心得

一　職工名簿ハ職工每ニ少クトモ用紙一枚ヲ備ヘ其ノ體裁ハカード式其ノ他ノ方式ニ依リ工業主ノ便宜ニ從ヒ之ヲ定ムヘシ

二　工業主ノ都合ニ依リ本樣式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ、各欄內ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルコトヲ妨ケス

各欄ノ位置ハ本樣式ニ揭クル順序ニ依ルヘシ但シ本則施行ノ際使用スル職工名簿ニ付テハ新名簿調製ニ至ル迄ノ間從前ノ順序ニ依ルコトヲ得

三　職工名簿ハ職工ノ業務別、男女別又ハ女工及十六歲未滿ノ男工ト其ノ他ノ職工トヲ區別スル等便宜ニ從ヒ各別ニ之ヲ調製スルコトヲ妨ケス

四　履歷欄ニハ職工ノ學業及業務上ノ履歷ノ概略ヲ記載スヘシ

職工十六歲未滿ノ者ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ敎科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

五　雇入欄ニハ雇入又ハ雇入更新ノ年月日、雇入期間ノ定アルモノハ其ノ期間其ノ他雇入ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

六　解雇欄ニハ解雇ノ年月日、事由其ノ他解雇ニ關シ重要ナル事項ヲ記載スヘシ

職工死亡シタルトキハ本欄ニ其ノ年月日、死亡ノ原因、死亡ニ至ル迄ノ經過ヲ記載スヘシ

七　雜欄ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

イ　女子及十六歲未滿ノ男工カ同一日ニ於テ他工場ニモ就業スル場合ニ於テハ他工場ニ於ケル就業時間（工場法第三條第三項）

ロ　職工カ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ヲ豫告シタルトキハ其ノ氏名、住所、職工トノ關係及豫告ノ年月日（工場法施行令

合本

第十二條但書）

尙本欄ニハ工業主ニ於テ必要ト認ムル雜件ヲ記載スルモノトス

（樣式第三號）

大正　年　月分　職工負傷疾病月報

氏名	生年月	業務別男女別	休業日數	病名又ハ負傷ノ種類	發病又ハ負傷ノ日附	結末 治癒ノ日ノ日	結末 死亡解雇ノ日ノ日	結末 未治癒ノ爲翌月ヘ繰越	場名
								○	
							○		
						○			

（様式第四號）

職工死傷報告

| | | |

ノ合算日數ヲ記入スヘシ

十二　災害ノ原因及發生狀況欄ニハ災害發生前ノ被害者ノ動作操作、災害發生位置ノ高サ又ハ深サ、災害カ機械又ハ設備ニヨリテ發生シタル場合ニ於テハ其ノ大サ、能力、高サ、壓力電壓又ハ温度其ノ他災害ノ原因及狀況ヲ明瞭ナラシムルニ必要ナル事項ヲ擧ケテ其ノ顚末ヲ記載スヘシ但シ動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害ヲ發生シタルトキ左方ノ記入欄ニ記入スル場合ニ於テハ其ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ付テハ簡略ニ記載スヘシ第二十六條ニ規定セル事故ニ依リ死亡者又ハ治療ノ爲休業三日以上ヲ要スヘキ者ヲ生シタルトキハ其ノ原因ヲ簡略ニ記載シ樣式第五號ノ工場災害事故報告トノ關係ヲ明ニスヘシ

十三　動力ニ依リ運轉中ノ機械又ハ動力傳導裝置ニ依リ災害發生シタルトキ記入スヘキ事項欄中

(一)名稱欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ名稱(例ヘハ蒸汽機關、旋盤、圓鋸機、車軸、調帶等ヲ記入スヘシ

(二)大サ又ハ能力欄ニハ機械又ハ動力傳導裝置ノ大サ又ハ能力(例ヘハ何馬力、長サ何米、直徑何糎、幅何糎、厚サ何糎)等ヲ記入スヘシ

(三)災害ヲ生シタル部分欄ニハ例ヘハ曲柄、齒輪、鋸齒、車軸接手、調帶、調帶車等ヲ記入スヘシ

(四)其ノ部分ノ速度、大サ等欄ニハ廻轉數何程、輪周速度何米、長サ何米、幅何糎、厚サ何糎等ヲ記入スヘシ

十四　危害豫防裝置ノ狀況欄ニハ災害ノ發生セル機械、設備其ノ他ノ場所ニ危害豫防裝置(例ヘハ高サ何米ノ木製柵圍、何糎ノ眞鍮丸棒ヲ使用セル高サ何米ノ手欄、金網製掩蓋、機械運轉中ハ開カサル樣爲シタル危險部ヲ蔽ヘル戸等)アルトキハ之ヲ記入スヘシ

十五　災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況其ノ他ニ關シ本欄中ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

十六　災害原因及發生狀況又ハ危害豫防裝置ノ狀況ニ關シテハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

台本

(樣式第五號)

工場災害事故報告

工場名		災害ノ原因及發生狀況	被害ノ狀況								
事業ノ種類			死傷者數		性	災害ニ因ル損害					
工場所在地	職工數		女	男							
	男	女			死亡者	被害建物ノ種類	坪數				
					二週日以上ノ休業ヲ要スル者						
					其ノ他ノ傷者						
					計		損害見積金額				
事故發生日時	年 月 日 午前 後 時 分										
事故發生場所											
豫防施設狀況											
避難施設狀況											

(年 月 日届出)

工業主又ハ工場管理人

工場災害事故報告記載心得

一　本報告用紙ノ一頁ハ美濃紙半折大トス

二　本報告ハ二通差出スヘシ

三　本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ屆出後五年間之ヲ保存スヘシ

四　本報告ハ災害事故一件毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ

五　工業主ノ都合ニ依リ本樣式各欄ノ間隔ヲ伸縮シ各欄內ニ別ニ欄ヲ設ケ又ハ各欄以外ノ欄ヲ設クルヲ妨ケス

六　工業主又ハ工場管理人欄ニハ屆出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ

七　事業ノ種類欄ニハ例ヘハ賣藥製造業、セルロイド加工業、製綿業、機械類修理業、煙草製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ

八　職工數欄ニハ最近ノ調査ニ依ル員數ヲ記入スヘシ

九　事故發生場所欄ニハ事故ノ發生シタル場所ニ於テ行ハルル作業ノ性質ヲ明示シ得ル名稱（例ヘハ汽罐室、瓦斯發生爐前熔接作業場、硝化作業場、原料煮熟罐室、鑄込場、脫水作業場等）ヲ記入シ倉庫ノ場合ニ於テハ其ノ倉庫ニ格納セラルル物品ヲ明示シ得ル名稱（例ヘハ棉花倉庫、石油貯藏庫等）ヲ記入スヘシ

十　災害原因發生狀況欄ニハ左ノ各號ニ從ヒ記載スヘシ

（一）火災ノ場合ニ於テハ發火ノ原因、第一次ニ火氣ヲ傳播セシメタル料品ノ名稱、數量、形態等及之ニ關係セル機械又ハ設備、作業、操作其ノ他ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ尙消火喞筒若ハ消火栓ヲ使用シタル以前ニ消火ノ爲取リタル措置アラハ其ノ狀況ヲ記載スヘシ

爆發ノ場合ニ於テハ爆發シタル料品ノ名稱、數量、爆發ノ原因、爆發ニ關係アル機械、設備、作業、操作其ノ他爆發ノ原因及狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

（二）汽罐其ノ他內壓力ヲ有スル容器ノ破裂ノ場合ニ於テハ其ノ種類、型式、使用ノ目的、製造年月、大サ、常用壓力、附屬壓力計ノ容量、安全弁ノ種類及口徑、破裂當時ノ使用壓力、水壓試驗ヲ行ヒタルモノニ付イテハ其ノ年月及試驗壓力、災害事故ニ關係アル作業操作其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

（三）勢輪又ハ高速廻轉機ノ破裂ノ場合ニ於テハ勢輪又ハ高速廻轉機ノ種類、其ノ使用ノ目的、構成材料、大サ（直徑、厚サ等）常用廻轉數、災害發生當時ノ廻轉數其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスル必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

（四）起重機又ハ昇降機ノ鎖若ハ索切斷シタル場合ニ於テハ其ノ常用荷重及事故發生時ノ荷重、事故ヲ惹起シタル部分（鎖、索、梁又ハ支柱）ノ構造、材料、大サ及製造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

（五）工場、附屬建設物、煙突、高架槽ノ倒壞ノ場合ニ於テハ倒壞ノ直接原因（風、地震等）被害物件ノ構造、材料、構造ノ缺陷、構造年月其ノ他原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

（六）五人以上ノ負傷者（職工以外ヲ含ム）ヲ生シタル場合ニ於テハ前各號ニ倣ヒ災害事故ノ原因及發生狀況ヲ明ニスルニ必要ナル事項ヲ擧ケ其ノ顚末ヲ記載スヘシ

十一　前項ノ記載ニハ成ルヘク寫眞又ハ見取圖ノ類ヲ添付スヘシ

十二　死傷者數欄ニハ職工タルト否トニ拘ラス該當欄ニ記入スヘシ

十三　災害ニ因ル損害欄ニハ被害建物ノ損害ハ其種類別ニ（例ヘハ木造二階建、石造平屋建、木骨亞鉛引鐵板張平屋等）、坪數（延坪）及其ノ損害見積金額ヲ記入シ、機械、設備等ノ損害、原料、材料、製品等ノ損害又ハ災害ニ依ル作業休止ノ損害ハ各總見積金額ヲ記入スヘシ

十四　豫防施設狀況欄ニハ火災ニ對スル消火防火ノ施設（例ヘハ自動撒水裝置、消火喞筒、消火栓、消火器具等ノ種類及配置狀況又ハ防火壁ノ構造、防火戶等）ニ付記載シ特ニ發火ノ場所ニ於ケル施設狀況ヲ明ニスヘシ爆發ニ在リテハ爆發ヲ起シタル場所特ニ壁、圍壁其ノ他ノ豫防施設アラハ之ヲ記載スヘシ他ノ場合ニ於テモ其ノ豫防アラハ之ヲ記載スヘシ

十五　避難施設狀況欄ニハ出入口、昇降口、非常口、階段等ノ配置、構造、扉ノ開閉等ノ不良ナリシ爲避難ニ支障ヲ生シタル場合ニ於テハ其ノ理由ヲ記載シ特ニ避難設備トシテ設ケラレタルモノアラハ種類及配置ニ付記載スヘシ

十六　災害ノ原因及發生狀況、豫防及避難施設ノ狀況其ノ他ニ關シテ本欄ニ記載シ難キトキハ別紙ニ記載シ添付スヘシ

（様式第六號甲）

職工扶助報告

| 事業ノ種類 | | 工場名及工場所在地 | | |

障害扶助料支給延期報告記載心得

一　本報告ノ用紙一頁ハ美濃紙半折大トス

二　本報告ハ工場法施行令第十三條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遲滯ナク之ヲ差出スヘシ

三　本報告ニハ扶助ヲ受クヘキ職工ノ障害扶助料支給延期承諾書ノ寫ヲ添付スヘシ

四　本報告ニ就イテハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後五年間之ヲ保存スヘシ

五　本報告ハ職工一名毎ニ用紙ヲ別ニスヘシ

六　事業ノ種類別ニハ例ヘハ毛織物業、綿絲紡績業、機械製造業、自轉車製造業、造船業、洋傘骨製造業、セメント製造業、製蠟業、菓子製造業等ヲ記入スヘシ二種以上ノ事業ヲ營ム場合ニ於テハ其ノ主要ナル事業名ヲ記入スヘシ

七　工業主又ハ工場管理人欄ニハ屆出人タル工業主又ハ工場管理人ノ氏名ヲ記入シ捺印スヘシ

八　業務又ハ職名欄ニハ扶助ヲ受クヘキ職工ノ擔當業務又ハ職名(例ヘハ旋盤工、修繕工、捺染工、雜役夫等)ヲ記入スヘシ

九　支給延期ノ期間欄ニハ例ヘハ雇傭期間中又ハ昭和年月日迄ト記入スヘシ

●工場危害豫防及衛生規則

(昭和四年六月二十日、内務省令第二十四號　(昭和十三年四月十六日厚生省令第四號改正)

第一條　本令ハ工場法第一條ノ工場ニ之ヲ適用ス

第二條　原動機及動力傳導裝置ノ危害ヲ生スル虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ被覆ヲ設クヘシ

第三條　動力傳導裝置ノ調帶ノ繼目ニハ突出セル金具ヲ使用スルコトヲ得ス但シ露出面カ孤面ヲ爲シ危險ナキモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ適當ナル柵圍若ハ被覆ニ依リ又ハ据附位置ノ關係上接觸ノ虞ナク且運轉中手ニテ取扱フコトナキ調帶又ハ動力弱小若クハ速度緩ニシテ危險ナキ調帶ニ付テ之ヲ適用セス

第四條　動力傳導裝置ノ車軸接手、車軸留輪、聯軸器、調車其ノ他廻轉部分ニ附屬セル「セットスクリユー」、「ボルト」、「ナット」及楔類ノ頭部ハ突出セサルモノヲ用フルヲ要ス但シ露出面カ弧面ヲ爲シ危險ナキトキ、適當ナル被覆ノ設ケアルトキ又ハ作業(掃除、注油、檢査、修繕等ヲ含ム(若ハ通行ニ際シ運轉中接觸ノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

第五條　遊車ヲ使用スルモノ在リテハ運帶裝置ヲ設クヘシ但シ

作業上已ムヲ得サルモノ又ハ危險ノ虞ナキモノハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ運帶裝置ニハ調帶カ不意ニ固定車ニ移ルコトヲ防止スル裝置ヲ爲スヘシ

第六條　調車ト隣接車輪、軸承、車軸接手等トノ間隔狹小ニシテ其ノ間ニ調帶カ脫落シ危害ヲ生スル虞アル場合又ハ車軸ノ運轉中調帶ヲ調車ヨリ時々取除シ置ク場合ニハ適當ナル調帶受ヲ設クヘシ

第七條　注油ノ爲接近スルコト危險ナル動力傳導裝置ニハ安全ナル給油裝置設クヘシ

第八條　作業場所ニハ事故發生ノ場合ニ於テ速ニ原動機又ハ動力傳導裝置ノ運轉ヲ停止シ得ヘキ裝置ヲ設クヘシ但シ作業場所ヨリ原動機据附場所ニ直ニ到達シ得ル場合又ハ係員ヲ常置セル原動機室ニ通スル急停止ノ信號ヲ定メアル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第九條　原動機及動力傳導裝置ノ運轉ヲ開始スル際ニハ之ヲ關係職工　徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ)ニ周知セシムル爲豫メ一定ノ合圖ヲ爲スヘシ

原動機、動力傳導裝置又ハ機械ノ運轉ヲ停止シテ掃除、注油檢査、修繕等ヲ爲シツツアル際ニ他人カ之ヲ運轉シ危害ヲ生スル虞アルトキハ之ヲ防止スル爲適當ナル裝置又ハ處理ヲ爲スヘシ

第十條　動力ニ依リ運轉スル機械ノ危害ヲ生スル虞アル部分ニハ已ムヲ得サル場合ヲ除クノ外柵圍、被覆其ノ他適當ナル危害豫防裝置ヲ設クヘシ

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル機械ノ部分ハ廻轉カ停止スルニ非サレハ開クコト能ハサル裝置ト爲スヘシ

一　綿絲紡績機械ニ於ケル荒打綿機ノ「フアン　ドーア」、打綿機ノ「ピーター　カバー」及「ダート　ドーア」、梳綿機ノ「シリンダー」ノ「フロント　プレート」(但シ眞空掃除器ヲ使用スルモノヲ除ク)、練篠機若ハ粗紡機ノ「ヘツドストツク」ノ「ギーヤリング　カバー」

二　絹絲紡機械ニ於ケル切綿機ノ「シリンダー　カバー」

三　其ノ他前二號ニ準スヘキモノ

第十二條　動力ニ依リ運轉スル機械ニハ各機械毎ニ速ニ運轉ヲ停止シ得ル裝置ヲ設クヘシ但シ連續セル一團ノ機械ニシテ共通ノ動力遮斷裝置ヲ有スル者又ハ危險ノ虞ナキ機械ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　粘性物質ヲ煉捏スル「ローラー」ニシテ危害ヲ生スル虞アルモノニ付テハ事故發生ノ場合ニ於テ被害者カ直ニ運轉ヲ停止シ得ヘキ裝置ヲ設クヘシ

第十四條　運轉中ノ原動機、動力傳導裝置若ハ動力ニ依リ運轉

スル機械ヲ取扱ヒ又ハ之ニ接近シテ作業ニ從事スル爲頭髮又ハ被服カ之ニ捲込マレ危害ヲ受クル虞アル者ニハ危害ヲ防止スルニ適當ナル帽子ハ作業服ヲ著用セシムヘシ

職工ハ作業中前項ノ帽子又ハ作業服ヲ著用スルコトヲ要ス

第十五條　物品ノ揚卸口、槽、車軸道、階段其ノ他從業者ノ墜落シ危害ヲ生スル虞アル箇所ニハ柵圍、扶欄、蓋等適當ナル危害豫防裝置ヲ設クヘシ但シ作業上已ムヲ得サルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　作業用可搬梯子ニハ滑止其ノ他轉倒ヲ防止スルニ適當ナル裝置ヲ爲スヘシ但シ床面其ノ他ノ關係上危險ノ虞ナキ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　機械間又ハ之ト他ノ設備トノ間ニ設クル通路ハ本令施行前既ニ設ケタルモノヲ除クノ外幅二尺六寸以上ナルコトヲ要ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ於テハ警視總監以下之ニ同シ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　危險ナル箇所ニハ適當ナル標示ヲ爲スヘシ

第十九條　職工ハ濫リニ危害豫防裝置ヲ取外シ又ハ其ノ効力ヲ失ハシムル行爲ヲ爲スコトヲ得ス

第二十條　地方長官ハ爆發性、發火性、若ハ引火性料品ノ製造、取扱若ハ貯藏ヲ爲ス場所、瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ爆發ノ虞アル場所其ノ他火災ノ危險著シキ場所ニ於テハ直接作業ニ必要ナル場合ノ外火氣ヲ使用シ又ハ火花ヲ發セシムルヲ得ス但シ安全燈、電燈其ノ他ノ危險ナキモノノ使用ハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ場所ニハ喫煙其ノ他不必要ナル火氣使用禁止ノ旨ヲ掲示スヘシ

第二十二條　油又ハ印刷用インキ類ニ依リ浸染シタル襤褸、紙屑等ハ不燃性ノ容器ニ收メ其ノ他ノ適當ナル處理ヲ爲スヘシ

第二十三條　爆發性、發火性若ハ引火性料品ノ製造若ハ取扱ヲ爲ス作業場又ハ當時五十人以上ノ職工ノ就業スル作業場ニハ火災等ノ場合ニ於テ容易ニ安全ナル場所ニ避難シ得ル爲適當ナル二以上ノ出口ヲ設クヘシ

當時十人以上ノ職工カ二階以上ニ於テ就業スル場合ニハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通スル二以上ノ階段ヲ設クヘシ

二階以上ニ於テ就業スル職工カ當時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

二　勾配ヲ平面ニ對シ四十度以內ト爲スコト

三　高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以內毎ニ踏場ヲ設クルコト

四　幅內法三尺五寸以上ト爲スコト

五　廻段ヲ設ケサルコト

六　外側ニハ二尺七寸以上以上ノ扶欄ヲ設クルコト

七　各段ヨリ高サ五尺七寸以內ニ障碍物ナキコト

作業ノ性質、建設物ノ構造設備等ノ關係上其ノ必要ナキ場合又ハ本令施行前既ニ設ケタル建設物ニ付已ムヲ得サル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前三項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第二十四條　地方長官ハ火災等ノ場合ニ於ケル避難ノ爲作業場ノ通路、階段及出口ノ設備構造ニ付必要ナル事項ヲ命スルコト得

第二十五條　第二十三條ノ規定ニ依ル出口、前條ニ依リ設備ヲ命セラレタル出口及之ニ通スル通路若ハ階段ニシテ常時使用セサルモノニハ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難シ得ル樣有效ニ保持スヘシ

第二十六條　瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衞生上有害ナル場所又ハ爆發ノ虞アル場所ニハ之カ危害ヲ豫防スル爲其ノ排出密閉其ノ他適當ナル設備ヲ爲スヘシ

第二十七條　左ニ揭クル場所ニハ必要アル者以外ノ者ノ立入ルコトヲ禁止シ其ノ旨揭示スヘシ

一　爆發性、發火性又ハ引火性料品ノ製造、取扱又ハ貯藏ヲ爲ス場所

二　毒劇藥、毒劇物又ハ其ノ他ノ有害料品ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス場所

三　瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散シ衞生上有害ナル場所

四　多量ノ高熱物體ヲ取扱フ場所

前項ニ依リ禁止セラレタル場所ニハ職工ハ濫リニ立入ルコトヲ得ス

地方長官ハ第一項ノ場所ニ於ケル作業ニ關シ他種ノ作業ノ禁止其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十八條　研磨機ニ依ル金屬研磨、炭酸含有清涼飲料水ノ罎詰其ノ他物體ノ飛來ノ虞アル作業、高熱物體又ハ毒劇藥毒劇物ノ製造又ハ取扱ヲ爲ス作業、有害光線ニ曝露スル作業、多量ノ粉塵又ハ有害瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル場所ニ於ケル作業其ノ他危害ノ虞アリ又衞生上有害ナル作業ニ於テハ之ニ從事スル職工ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フヘシ

職工ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス

第二十九條　衞生上有害ナル瓦斯、蒸氣又ハ粉塵ヲ發散スル工場ニ於テハ當該職工ノ爲適當ナル食事ノ場所ヲ設クヘシ但シ當該職工カ工場內ニ於テ食事ヲ爲ササル場合ニハ此ノ限ニ在

ラス

毒劇藥、毒劇物其ノ他有害料品ノ取扱ヲ爲ス工場、多量ノ粉塵ヲ發散スル工場其ノ他ノ工場ニシテ作業ノ爲身體ヲ汚染スル工場ニ於テハ適當ナル洗面裝置ヲ設ケ必要品ヲ備フヘシ

前二項ノ工場又ハ高熱物體ヲ取扱フ工場ニ於テ地方長官必要ト認ムルトキハ飲料水ノ供給又ハ食事ノ場所、更衣所、含嗽裝置若ハ浴場ノ設備ヲ命スルコトヲ得

第三十條　織機ノ杼カ杼通ノ爲緒ヲ吸出ス必要アルモノニ在リテハ緒引出具ヲ備フヘシ

工職ハ杼通ノ爲緒ヲ吸出スヘカラス

第三十一條　地方長官ハ衞生又ハ危害豫防上必要ト認ムルトキハ工場及附屬建設物ノ採光、換氣ノ爲窓面ノ增加又ハ照明裝置其ノ他適當ナル處置ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　工場ニハ負傷者ノ救護ニ必要ナル救急用具及材料ヲ備フヘシ但シ作業ノ性質上傷害ノ虞ナキ場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

救急具及材料ノ備付場所及使用方法ハ之ヲ從業員ニ周知セシムヘシ

第三十三條　食堂、炊事場及食器ハ常ニ淸潔ニ保ツヘシ

食堂及炊事場ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レルモノヲ使用スルコトヲ得ス

第三十四條　更衣所及浴場ハ之ヲ男女用ニ區別スヘシ

第三十四條ノ二　工業主安全管理者ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆ツヘシ

常時五十人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ安全管理者ヲ選任スヘシ但シ作業ノ狀況ニ依リ危害又ハ衞生上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セサルコトヲ得

安全管理者ハ工業主ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衞生ニ關スル一切ノ事項ヲ管理ス

安全管理者ハ安全日誌ヲ作成シ危害豫防及衞生ニ關シ爲シタル處置ヲ記載シ置クヘシ

第三十四條ノ三　工業主工場醫ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

常時五百人以上ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ工場醫ヲ選任スヘシ但シ作業ノ狀況ニ依リ衞生上有害ノ虞少キ場合ニ於テハ地方長官ノ許可ヲ受ケ之ヲ選任セサルコトヲ得

地方長官必要アリト認ムルトキハ常時五百人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ニ對シ工場醫ノ選任ヲ命スルコトヲ得

工場醫ハ醫師タルコトヲ要ス

工場醫ハ工業主及安全管理者ノ指揮ヲ承ケ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル衞生ニ關スル事項ヲ掌ル

工場醫ハ每月少クトモ一回工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ衞生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スヘシ

工業主ハ工場醫ヲシテ每年少クトモ一回職工ノ健康診斷ヲ爲サシムヘシ

前項ノ健康診斷ニ關スル記錄ハ三年間之ヲ保存スヘシ

第三十三條ノ四　工業主安全管理者又ハ工場醫ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ安全管理者又ハ工場醫死亡シタルトキ亦同シ

地方長官必要アリト認ムルトキハ工業主ニ對シ安全管理者又ハ工場醫ノ增員又ハ改任ヲ命スルコトヲ得

第三十四條ノ五　工業主ハ工場及其ノ附屬建設物ニ於ケル危害豫防及衞生ニ關スル事項ニ從事セシムル爲安全委員ヲ選任スヘシ但シ常時十人未滿ノ職工ヲ使用スル工場ノ工業主ハ之ヲ選任セサルコトヲ得

安全委員ハ工業主、安全管理者及工場醫ノ指揮ヲ承ケ每日工場及其ノ附屬建設物ヲ巡視シ設備又ハ作業方法ニシテ危害ヲ生ジ又ハ衞生上有害ノ虞アル場合ハ應急處置又ハ適當ナル豫防ノ處置ヲ爲スヘシ

第三十四條ノ六　工業主安全委員會ヲ設ケタルトキハ安全委員會規則ヲ作成シ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ安全委員會規則ヲ變更シタルトキ亦同シ

第三十五條　地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外工場及附屬建物竝設備カ危害ヲ生シ又ハ衞生、風紀其ノ他公益ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ豫防又ハ除害ノ爲必要ナル事項ヲ工業主ニ命スルコトヲ得

第三十六條　第十九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第二十一條ノ場所ニ於テ喫煙ヲ爲シ其ノ他濫リニ火氣ヲ使用シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十六條、第二十八條第一項及第三十條ノ規定ハ本令施行後一年間、第八條、第二十三條第一項乃至第三項、第二十九條第二項及第三十四條ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後一年間、第二條、第三條第一項、第四條乃至第七條第十條乃至第十三條、第十五條、第二十六條及第二十九條第一項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタルモノニ付本令施行後二年間之ヲ適用セス

本令施行前既ニ設ケタルモノニ付第二十三條第四項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ本令施行後四月以內ニ其ノ申請ヲ爲スヘシ

昭和十三年四月十六日厚生省令第四號附則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●工場附屬寄宿舍規則

（昭和二年四月六日　内務省令第二十六號）（昭和四年八月二十三日　内務省令第三十六號改正）

第一條　本令ハ工場法第一條ノ工場ニ附屬スル寄宿舍ニ之ヲ適用ス

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル作業場アルトキハ保安上又ハ衛生上ノ害ヲ避クル爲寄宿舍ノ寢室ハ之ト別建物ト爲スヘシ但シ除害、豫防又ハ避難ノ設備アル場合ニ於テ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ノ許可ヲ受ケタルトキハ別建物ト爲スニトヲ要セス

一　爆發性、發火性若ハ引火性料品又ハ多量ノ易燃性料品ヲ取扱フ作業場

二　窯爐ヲ使用スル作業場

三　瓦斯、蒸氣若ハ粉塵ヲ發散シ衛生上有害ナル作業場

地方長官前項ノ寢室ニシテ保安上危險ノ虞アリ又ハ衛生上有害ナリト認ムルトキハ除害、豫防又ハ避難ノ設備ヲ命シ必要ト認ムルトキハ其ノ全部又ハ一部ノ使用ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第三條　寢室ハ建物ノ三階以上ニ之ヲ設クルコトヲ得ス但シ建物ノ外壁、床、屋根、階段及柱ヲ市街地建築物法施行規則第一條ニ規定スル耐火構造ト爲シタル場合又ハ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條ノ二　常時十五人以上ノ職工カ二階以上ノ寢室ニ居住スル建物ニ在リテハ各階ニ適當ニ配置セラレ容易ニ屋外ノ安全ナル場所ニ通スル二以上ノ階段ヲ設クヘシ但シ二階以上ノ寢室ニ居住スル職工カ當時五十人ニ滿タサル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタル避難斜面其ノ他適當ナル避難設備アルトキハ此ノ限ニ在ラス

二階以上ノ寢室ニ居住スル職工カ常時五十人以上ナルトキハ前項ノ階段ハ左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス但シ建物ノ外壁ニ附セラレタル屋外階段ニ付テハ第五號及第八號ノ規定ヲ適用セス

一　踏面七寸以上蹴上七寸以下ト爲スコト

二　勾配ヲ平面ニ對シ四十度以內ト爲スコト

三　高サ十二尺ヲ超ユル場合ニハ高サ十二尺以內毎ニ踊場ヲ設クルコト

四　踊場ハ長サ三尺五寸以上トナスコト

五　蹴込板又ハ裏板ヲ附スルコト

六　廻段ヲ設ケサルコト

七　外側ニハ二尺七寸以上ノ扶欄ヲ設クルコト

八　幅內法三尺五寸以上ト爲スコト

九　各段ヨリ高サ五尺七寸以內ニ障碍物ナキコト

前二項ノ規定ハ本令施行前既ニ設ケタル建物ニシテ地方長官已ムコトヲ得スト認メ許可シタルモノニ付之ヲ適用セス

第三條ノ三　階段竝之ト連絡スル通路及出口ニシテ當時使用セルモノニ付テハ之ニ適當ナル標示ヲ爲シ何時ニテモ避難ノ用ニ供シ得ル樣有效ニ保持スヘシ

第四條　寄宿舍ノ廊下ヨリ屋外ニ通スル出入口ノ戶ハ外開戶又ハ引戶ト爲スヘシ

寄宿舍ハ何時ニテモ容易ニ外部ニ避難シ得ル樣ニ爲シ置クコトヲ要ス

第五條　寢室、食堂、病室其ノ他ノ職工（徒弟ヲ含ム以下之ニ同シ）ノ居住ノ用ニ供スル室ノ天井高ハ七尺以上ト爲スヘシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六條　寢室及病室ニハ屋根小屋組ヲ露出セル樣天井ヲ設クヘシ但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ防鼠ノ爲屋根小屋組ヲ露出シタルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第七條　寢室及病室ノ外窓ニハ少クトモ兩戶及障子ヲ設ケ又ハ硝子戶及窓掛ヲ設クヘシ寢室及病室ト廊下トノ間ニ戶、障子壁ノ類ノ設ケナキ場合ニ於テ其ノ廊下ノ外窓ニ付亦同シ

寢室及病室ト廊下トノ間ニ紙障子ノミヲ設クル場合ニ於テハ其ノ廊下ノ外窓ニ雨戶又ハ硝子戶ヲ設クヘシ

第八條　食堂及炊事場ノ床ハ土間（石敷又ハ三和土叩ノ類ヲ含マス）ト爲スコトヲ得ス

第九條　寢室ハ收容人員一人ニ付室面積（押入及床ノ間ヲ除ク）〇・七五坪ヲ下ルコトヲ得ス但シ臨時必要アル場合ニ於テ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　寢室ノ收容人員ハ一室ニ付十六人ヲ超ユルコトヲ得ス但シ本令施行ノ際現存スル寄宿舍ニシテ構造上間仕切ヲ爲スコトヲ不適當トスルモノニ付地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

寢室ニハ之ニ收容スル者ノ氏名及定員ヲ入口ニ揭クヘシ

第十一條　交替就業ノ爲メ就眠時間ヲ異ニスル二組以上ノ寄宿職工ヲ同一ノ寢室ニ收容スルコトヲ得ス但シ十六歲未滿ノ者及女子ヲ收容セサルモノニシテ地方長官ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　寄宿舍ニハ職工每ニ專用セシムル爲必要ナル寢具ヲ備附クヘシ

寢具ハ少クトモ其ノ襟部ヲ白布ニテ被包シ且敷布ヲ備フヘシ

寢具ハ常ニ淸潔ニ保チ時々之ヲ日光ニ曝シ且其白布及敷布ハ

時々之ヲ洗濯スヘシ

第十三條　食堂ニハ職工ヲシテ坐食ヲ爲サシムル場合ヲ除クノ外必要ナル腰掛又ハ椅子ヲ備付クヘシ

第十四條　寄宿舍ニ於テ使用スル食器ハ常ニ清潔ニ保チ時々消毒スヘシ

第十五條　寄宿舍ニハ工場法施行規則第八條第一項ノ疾病ニ罹レル者ヲ使用スルコトヲ得ス

第十六條　寄宿舍ニ收容スル職工及寄宿舍ニ使用スル者ニ對シテハ少クトモ一年二回健康診斷ヲ施行スヘシ

前項ノ健康診斷ニ關スル記錄ハ其ノ施行後三年間之ヲ保持スヘシ

第十七條　寄宿舍ニハ液體ヲ入レタル適當箇數ノ唾壺ヲ配置スヘシ

唾壺內ノ唾痰ハ消毒シタル後ニ非サレハ之ヲ投棄スルコトヲ得ス

寄宿舍ニ於テハ唾壺以外ニ唾痰ヲ咯出スルコトヲ得ス

第十八條　寄宿舍ニ於テハ共用手拭ヲ備フルコトヲ得ス

「トラホーム」患者ノ使用スル洗面器ハ之ヲ健康者ニ使用セシムルコトヲ得ス

手洗水ハ流出裝置トスヘシ

第十九條　工場法施行規則第八條第一項第二號乃至第五號（流行性腦脊髓膜炎ヲ除ク）ノ患者ノ使用シタル寢具其ノ他ノ物件ハ之ヲ消毒スルニ非サレハ他ノ者ヲシテ使用セシムルコトヲ得ス第二號ノ患者ノ使用シタル寢室ニ付亦同シ

前項及第十七條第二項ノ規定ニ依ル消毒ノ方法ハ傳染病豫防法施行規則第五章ノ規定ニ依ルヘシ但シ藥物ヲ以テ唾痰ヲ消毒スルニハ鹽酸加石炭酸水（防疫用石炭酸五分鹽酸一分水九十四分）ヲ使用スヘシ

第二十條　寄宿舍ニハ之ニ收容スル職工ノ數ニ應シ適當且十分ナル便所及洗面裝置ヲ設クヘシ

地方長官前項ノ便所又ハ洗面裝置不適當又ハ不十分ト認メタルトキハ期間ヲ定メ變更又ハ增設ヲ命スルコトヲ得

第二十一條　寄宿舍ノ管理ニ關シ規程ヲ設ケタルトキニ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

地方長官必要ト認ムルトキハ前項ノ規定ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十二條　本令竝寄宿舍ノ管理ニ關スル規程ハ之ヲ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第二十三條　本令第二條、第三條、第四條第一項、第五條、第六條、第八條、第十條、第十一條及第十六條ノ規定ハ當時十人未滿ノ職工ヲ收容スル寄宿舍ニ之ヲ適用セス

附　則

本令ハ昭和二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四條及第十三條ノ規定ハ本令施行後一年間、第二條、第七條第八條及第十二條ノ規定ハ本令施行後二年間、第六條及第九條乃至第十一條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

第三條又ハ第五條ノ規定ニ依ル許可ノ申請ハ本令施行ノ日ヨリ二月以內ニ之ヲ爲スヘシ

昭和四年八月二十三日內務省令第三十六號附則

本令ハ昭和四年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第三條ノ二ノ規定ハ本令施行後二年間之ヲ適用セス

●工業勞働者最低年齡法

（大正十二年三月二十九日法律第三十四號）

第一條　本法ニ於テ工業ト稱スルハ左ニ揭クル事業ヲ謂フ

一　鑛業、砂鑛業、石切業其ノ他土地ヨリ鑛物ヲ採取スル事業

二　物品ノ製造、改造、淨洗、修理、裝飾、仕上、販賣ノ爲ニスル仕立、破壞若ハ解體ヲ爲シ又ハ材料ノ變造ヲ爲ス事業（造船業及電氣又ハ各種動力ノ發生、變更及傳導ヲ爲ス事業ヲ含ム）

三　土木、建築其ノ他作物ノ建設、改造、保存、修理、變更解體又ハ其ノ準備若ハ基礎工事

四　道路、鐵道、軌道又ハ平水航路ニ於ケル旅客又ハ貨物ノ運送但シ主トシテ人力ニ依ル運送ヲ除ク

五　船渠、岸壁、波止場又ハ倉庫ニ於ケル貨物ノ取扱

第二條　十四歲未滿ノ者ハ工業ニ之ヲ使用スルコトヲ得ス但シ十二歲以上ノ者ニシテ尋常小學校ノ敎科ヲ修了シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ハ同一ノ家庭ニ屬スル者ノミヲ使用スル事業又ハ官廳ノ認可ヲ受ケ工業ニ關スル學校ニ於テ兒童ニ爲サシムル作業ニ之ヲ適用セス

第三條　十六歲未滿ノ者ヲ工業ニ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及學歷ヲ記載シタル名簿ヲ調製シ作業場ニ備附クルコトヲ要ス但シ工場法施行令又ハ鑛業法ニ依ル名簿ノ備附アル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　當該官吏ハ作業場又ハ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ共ノ證票ヲ携帶スヘシ

第五條　工業ニ就業シ若ハ就業セムトスル者又ハ使用者ハ就業セムトスル者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シテ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第六條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　第三條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ

當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　使用者營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有セサル未成年者若ハ禁治產者ナル場合又ハ法人ナル場合ニ於テ使用者ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス

第九條　使用者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ本法ニ違反スル行爲ヲ爲シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十條　本法ニ於テ使用者ニ關スル規定ハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ工業主ニ、工場管理人アル場合ニ於テハ工場管理人ニ、鑛業ニ在リテハ鑛業權者ニ、鑛業代理人アル場合ニ於テハ鑛業代理人ニ之ヲ適用ス

第十一條　本法ハ罰則ヲ除クノ外國、府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキ者ノ使用者タル場合ニ之ヲ適用ス

附　則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ際十二歲以上ノ者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ其ノ者ニ付第二條ノ規定ハ之ヲ適用セス

●工業勞働者最低年齡法施行規則

（大正十五年六月七日　內務省令第十四號）

第一條　工業勞働者最低年齡法第二條第二項ノ規定スル行政官廳ハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）、鑛業及砂鑛業ニ付テハ鑛山監督局長トス

第二條　工業勞働者最低年齡法第三條ノ規定ニ依ル名簿中學歷ニ付テハ尋常小學校ノ敎科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月ヲ、尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第三條　工業勞働者最低年齡法第四條ノ規定ニ依ル證票ハ別記樣式ニ依ル

附　則

本令ハ工業勞働者最低年齡法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

工業勞働者最低年齡法施行ノ際同法附則第二項ノ規定ニ依リ十二歲以上十四歲未滿ノ者ニシテ尋常小學校ノ敎科ヲ修了セサル者ヲ引續キ使用スル場合ニ於テハ使用者ハ其ノ住所、氏名、生年月日及雇入年月日ヲ本令施行ノ日ヨリ二月以內ニ地方長官又ハ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

合本

前項ノ屆出ヲ怠リタル者又ハ其ノ屆書ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

（別記樣式）

第　號　　大正　年　月　日交付

此會局、廳府縣又ハ鑛山監督局印	官職氏名

工業勞働者最低年齡法第四條　當該官吏ハ作業場又ハ其ノ附屬建設物ニ臨檢スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ證票ヲ携帶スヘシ

工業勞働者最低年齡法第七條　第二條ノ規定ニ違反シタル者又ハ正當ノ理由ナクシテ當該官吏ノ臨檢ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ其ノ尋問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

堅八センチメートル橫十センチメートル中央點線ノ所ヨリ二ツ折ト爲シ表面ニ「工業臨檢章」ト記ス

合本

●鑛夫勞役扶助規則（大正五年八月三日農商務省令第二十一號）

【沿革】大正十五年六月内務省令第十七號、昭和二年五月同第三十號、同三年九月同第三十號、同四年六月同第二十五號、同十一年七月同第二十二號、同十一年十二月同第五十五號改正

第一條　鑛業法第七十五條ノ規定ニ依ル雇傭勞役規則ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載シ鑛業著手前鑛山監督局長ニ其ノ許可ヲ申請スヘシ

一　業務ノ種類
二　雇入ノ手續
三　解雇ノ事由及手續
四　解雇ノ場合ニ於ケル歸鄉旅費支給ニ關スル事項
五　賃金ノ支拂方法及支拂期日
六　石炭鑛業ニ在リテハ檢炭ニ關スル事項
七　鑛夫ノ貯金其ノ他ノ積立金ヲ管理スルトキハ其ノ方法、拂戻ノ事由及手續
八　鑛夫ノ負擔ニ屬スル作業用品目
九　業務別就業時ノ轉換方法
十　休日
十一　尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル學齡兒童ヲ雇傭スルトキハ就學ニ關シ必要ナル事項
十二　賞與及制裁ノ定アルトキハ之ニ關スル事項

雇傭勞役規則ヲ變更セムトスルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　採掘權者ハ變災若ハ變災ノ慮アル爲又ハ避クヘカラサル事由ニ依リ臨時必要アル場合ニ於テハ就業時間、就業時ノ轉換方法及休止ニ關スル事項ニ付雇傭勞役規則ニ依ラザルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ遲滯ナク其ノ事由ヲ具シ鑛山監督局ニ屆出ツヘシ

第三條　鑛業權者鑛夫ヲ雇入レタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　氏名
二　生年月日
三　本籍
四　履歷ノ要領
五　鑛夫十六歲未滿ナル場合ニ於テハ尋常小學校ノ教科ヲ修了シタル者ニ在リテハ其ノ修了シタル尋常小學校名及修了年月、尋常小學校ノ教科ヲ修了セサル者ニ在リテハ其ノ旨
六　業務ノ種類

台本

七　雇入ノ年月日
八　雇傭期間ヲ定メタル者ニ在リテハ其ノ期間ノ前項ノ規定ニ依リ記載シタル事項ニ異動アリタルトキハ（遲滯ナク之ヲ訂正スヘシ

第四條　鑛業權者鑛夫ヲ解雇シ又ハ鑛夫死亡シタルトキハ鑛夫名簿ニ左ニ揭クル事項ヲ記入シ解雇又ハ死亡ノ日ヨリ五箇年以上之ヲ保存スヘシ

一　解雇又ハ死亡ノ年月日
二　解雇ノ事由又ハ死亡ノ原因

第五條　鑛業權者ハ鑛夫ヲシテ一日ニ付十時間ヲ超エテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ監視ヲ主トスル業務又ハ間歇的ナル業務ニ從事スル者ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ依ラサルコトヲ得

第六條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ一日ニ付十一時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ選炭作業ニ從事スル者ニ付テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ前項ノ就業時間ヲ十二時間迄延長スルコトヲ得

第六條ノ二　鑛業權者ハ濕度攝氏三十度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムル場合ニ在リテハ其ノ者ヲシテ他ノ場所ニ於ケル就業時間ト通算シテ一日ニ付八時間ヲ超エテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ温度攝氏三十五度ヲ超ユル坑内ノ場所ニ於テ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

第七條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス石炭鑛業ニ在リテハ十六歲未滿ノ者及女子、其ノ他ノ鑛業ニ在リテハ十六歲以上ノ女子ヲシテ午後十一時迄就業セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ午後十一時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス（和和十一年七月六日内務省令第二十二號改正）

（參考）

改正前

第七條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラス午後十一時迄就業セシムルコトヲ得

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ從事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ第一項ノ

台本

規定ニ拘ラス午後十二時迄就業セシムルコトヲ得
此ノ場合ニ於テ午後十一時後ニ於テ就業セシムルトキハ午後十二時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ鑛夫ヲ三組以上ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ從事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第一項ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

第七條ノ二　坑內ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入リタル時ヨリ坑口ヲ出テタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑內ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條　鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間每ニ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユルトキハ少クトモ一時間ノ休憩時間ヲ就業時間中ニ設クヘシ
此ノ場合ニ於テ午後十一時後ニ於テ就業セシムルトキハ午後十二時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ從事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第一項ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

第七條ノ二　坑內ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入リタル時ヨリ坑口ヲ出テタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑內ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條　鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間每ニ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユル

第十條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲ二組以上ニ分チ午後十一時後ニ於テ就業セシムルトキハ午後十二時ヨリ午前六時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ鑛夫ヲ三組以上ニ分チ交替ニ坑外ニ於ケル選炭作業ニ從事セシムルトキハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケ期間ヲ限リ第一項ノ規定ニ拘ラス就業セシムルコトヲ得

第十一條ノ二　坑內ニ就業スル鑛夫ニ付テハ坑口ニ入リタル時ヨリ坑口ヲ出テタル時迄ノ時間ヲ其ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者一團トシテ入坑出坑スル鑛夫ニ關シ其ノ入坑開始ヨリ入坑終了迄ノ時間ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ第五條第一項ノ規定ノ適用ニ付入坑終了ヨリ出坑終了迄ノ時間ヲ其ノ團ニ屬スル鑛夫ノ就業時間ト看做ス

鑛業權者坑口ニ近キ坑內ノ鑛夫點檢場所ニ關シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第八條　鑛業權者ハ鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ午後十時ヨリ午前五時ニ至ル間ニ於テ就業セシムルトキハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ十日ヲ超エサル期間每ニ就業時ヲ轉換スヘシ

第九條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ニ對シ一日ノ就業時間カ六時間ヲ超ユルトキハ少クトモ三十分、十時間ヲ超ユル

セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應スル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス

第十一條ノ二　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ坑內ニ於テ就業セシムルコトヲ得但シ緊急ノ必要ニ應スル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受クルコトヲ要セス　昭和十一年內務省令第二十二號改正）

前項但書ノ規定ニ依リ就業セシメタルトキハ樣式第四號ニ依リ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

（參考）

改正前

第十一條第一項　鑛業權者ハ變災ノ緊急ノ必要ニ應スル爲ニ就業セシムル場合ニ於テハ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項及第三十五條ノ規定ノ適用ニ付其ノ場所ヲ坑口ト看做ス

第十二條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者及女子ヲシテ左ニ揭クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　原動機、電氣機械其ノ他ノ機械若ハ動力傳導裝置ノ危險ナル部分ノ運轉中ニ於ケル掃除、注油、檢査又ハ修理

二　機械又ハ動力傳導裝置ノ運轉中ニ於ケル調帶若ハ調索ノ危險ナル方法ニ依ル取付取外

三　汽罐ノ焚火、給水竝若ハ阻汽弁ノ開閉又ハ安全弁ノ取扱

四　發電機、電動機、發電機ノ抵抗器、變壓器又ハ「コツトレル」集廛裝置ニ屬スル整流機ノ取扱

五　高壓電線ノ接續

六　機械力ニ依リ運轉セル捲揚機ノ取扱

七　運轉中ノ車輛ノ連結又ハ分離

八　鑛物ノ掘採及岩石ノ掘擊

九　爆發藥ノ裝塡又ハ點火

十　支柱ノ取付又ハ取外

十一　製鍊作業ニ於テ熱灼若ハ熔解セル鑛物又ハ鑛滓ノ取扱

十二　有害ナル煙塵ノ堆積セル煙道又ハ煙突ノ掃除

十三　砒素、水銀、鉛若ハ亞鉛又ハ其ノ化合物其ノ他之ニ準スヘキ有害料品ノ粉塵、蒸氣又ハ瓦斯ヲ發散スル場所ニ於ケル業務

十四　電解精鍊ヲ爲ス場所ニ於ケル業務

十五　鑛石、燃料其ノ他ヲ熔鑛爐ニ裝入スル業務

第十三條　鑛業權者ハ十六歲未滿ノ者ヲシテ左ニ揭クル業務ニ就カシムルコトヲ得ス

一　砒素若ハ水銀又ハ其ノ化合物「チアンカリウム」、硫酸、硝酸、鹽酸、苛性カリ、苛性ナトロン其ノ他之ニ準スヘキ毒性又ハ劇性料品ノ取扱

二　揮發油、二硫化炭素其ノ他之ニ準スヘキ發火性引火性料品ノ取扱

三　土石又ハ鑛物ノ粉塵ヲ著シク飛散スル場所ニ於ケル業務

第十四條　鑛業權者ハ左ニ揭クル疾病ニ罹レル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ第四號又ハ第五號ニ揭クル疾病ニ罹レル者ニ付傳染豫防ノ處置アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　精神病

二　癩、肺結核、喉頭結核

三　丹毒、再歸熱、麻疹、流行腦脊髓膜炎其ノ他之ニ準スヘ

キ急性熱性病

四　黴毒、疥癬其ノ他傳染性皮膚病

五　膿漏性結膜炎、「トラホーム」（著シク傳染ノ虞アルモノ）其ノ他之ニ準スヘキ傳染性眼病

鑛業權者ハ肋膜炎、心臟病、脚氣、關節炎、腱鞘炎、急性泌尿生殖器病其ノ他ノ疾病ニ罹レル者ニシテ就業ノ爲病症增惡ノ虞アル場合ハ之ヲ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ傳染病又ハ重大ナル疾病ニ罹リタル者ニシテ其ノ症候消失シタル後ト雖健康ノ回復セサルモノヲ就業セシムルコトヲ得ス但シ醫師ノ醫見ヲ徵シ支障ナシト認ムル業務ニ就カシムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十五條　鑛業權者ハ四週日以內ニ出產スルコトアルヘキ者休業ヲ求メタルトキハ其ノ者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者ハ產後六週日ヲ經過セサル者ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス但シ產後四週日ヲ經過シタル者就業セムコトヲ求メタル場合ニ於テ醫師ノ支障ナシト認メタル業務ニ就カシムルコトヲ妨ケス

第十六條　生後滿一年ニ適セサル生兒ヲ哺育スル女子ハ就業時間中ニ於テ一日二回各三十分ヲ限リ其ノ生兒ヲ哺育スヘキ時間ヲ求ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テ鑛業權者ハ哺育時間中其ノ女子ヲシテ就業セシムルコトヲ得ス

鑛業權者坑內作業ニ從事スル女子ノ生兒ノ保育ニ關シ必要ナル施設ヲ爲シ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス坑內作業ニ從事スル女子ニ哺育時間ヲ與ヘサルコトヲ得

第十七條　鑛夫業務上負傷シ、疾病ニ罹リ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ本則ノ規定ニ依リ扶助ヲ爲スヘシ但シ扶助ヲ受クヘキ者民法ニ依リ同一ノ原因ニ付損害賠償ヲ受ケタルトキハ鑛業權者ハ扶助金額ヨリ其ノ金額ヲ控除スルコトヲ得

前項扶助ノ義務ハ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外鑛夫ノ解雇ニ因リテ變更セラルルコトナシ

第十八條　鑛夫負傷シ又ハ疾病ニ罹リタルトキハ鑛業權者ハ其ノ費用ヲ以テ療養ヲ施シ又ハ療養ニ必要ナル費用ヲ負擔スヘシ

第十九條　鑛夫療養ノ爲業務ニ服スルコト能ハサルニ因リ賃金ヲ受ケサルトキハ鑛業權者ハ鑛夫ノ療養中一日ニ付賃金百分ノ六十ノ休業扶助料ヲ支給スヘシ

鑛夫ヲ病院ニ收容シタル場合ニ於テ本人ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者ナキトキハ休業扶助料ハ賃金百分ノ二十トス

第二十條　鑛夫ノ負傷又ハ疾病治癒シタル時ニ於テ身體障害存スルトキハ鑛業權者ハ別表ニ揭クル區別ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ但シ從來ノ勞務ニ服スルコト能ハサルトキハ賃金

百八十日分（其ノ金額男子ニ在リテハ百五十圓、女子ニ在リテハ九十圓ニ滿チサルトキハ夫々百五十圓又ハ九十圓）ヲ下ルコトヲ得ス

別表ニ揭クル身體障害二以上存スルトキハ重キ身體障害ノ該當スル等級ニ依リ障害扶助料ヲ支給スヘシ

左ニ揭クル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ依ル等級ヲ左ノ如ク繰上ク但シ其ノ障害扶助料ノ金額ハ各身體障害ノ該當スル等級ニ依ル障害扶助料ノ金額ヲ合算シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　第十三級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　一級

二　第八級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　二級

三　第五級以上ノ身體障害二以上存スルトキ　三級

別表ニ揭クルモノ以外ノ身體障害ヲ存スル者ニ付テハ障害ノ程度ニ應シ別表ニ揭クル身體障害ニ準シ障害扶助料ヲ支給スヘシ

既ニ身體障害ヲ存スル者負傷又ハ疾病ニ因リ同一部位ニ付障害ノ程度ヲ加重セラレタルトキハ其ノ加重セラレタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヨリ既ニ存シタル障害ノ該當スル障害扶助料ノ金額ヲ差引キタル金額ヲ支給スヘシ

第二十條ノ二　鑛夫重大ナル過失ニ因リ負傷シ又ハ疾病ニ罹リ且鑛業權者其ノ事實ニ付鑛山監督局長ノ認定ヲ受ケタル場合ニ於テハ休業扶助料又ハ障害扶助料ヲ支給セサルコトヲ得

第二十一條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ賃金四百日分（其ノ金額男子ニ在リテハ三百二十圓、女子ニ在リテハ二百圓ニ滿チサルトキハ夫々三百二十圓又ハ二百圓）ノ遺族扶助料ヲ支給スヘシ

第二十二條　鑛夫死亡シタルトキハ鑛業權者ハ葬祭ヲ行フ遺族又ハ鑛夫ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニシテ葬祭ヲ行フ者ニ賃金三十日分（其ノ金額三十圓ニ滿チサルトキハ三十圓）ノ葬祭料ヲ支給スヘシ

第二十三條　遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫ノ記偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ遺族扶助料ヲ受クヘキ者ハ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル鑛夫ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キ者ヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十四條　前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戶主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二　男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三　直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女

ト雖之ヲ私生子ヨリ先ニス

四　前二號ニ揭クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十五條　第二十三條ノ規定ニ該當スル者ナキ場合ニ於テハ左ニ揭クル者ノ中一人ニ遺族扶助料ヲ支給スヘシ但シ鑛夫ノ遺言又ハ鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ揭クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一　鑛夫ノ家督相續人又ハ戶主

二　鑛夫ノ兄弟姉妹ニシテ鑛夫死亡當時之ト同一ノ家ニ在ル者

三　鑛夫死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持スル者

鑛業權者ニ對シテ爲シタル豫告ニ依ル指定アリタルトキハ鑛業權者遲滯ナク之ヲ鑛夫名簿ニ記載スヘシ

第二十六條　第十八條ノ規定ニ依リ本人ニ支給スル費用及休業扶助料ハ每月一回以上之ヲ支給スヘシ

障害扶助料ハ鑛夫ノ負傷又ハ疾病ノ治癒後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ但シ鑛業權者カ引續キ雇傭スル場合ニ於テ本人ノ承諾アリタルトキハ雇傭期間內障害扶助料ノ支給ヲ延期スルコトヲ得

遺族扶助料及葬祭料ハ鑛夫ノ死亡後遲滯ナク之ヲ支給スヘシ

鑛業權者鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ前二項ノ規定ニ拘ラス障害扶助料及遺族扶助料ヲ數回ニ分割シテ支給スルコトヲ得

第二十六條ノ二　鑛夫健康保險法（第四十八條第一項第二號ノ規定ヲ除ク）ニ依ル療養ノ給付又ハ療養費ノ支給ヲ受クヘキトキハ其ノ期間第十八條ノ扶助ハ之ヲ爲スコトヲ要セス健康保險法ニ依ル傷病手當金ノ支給ヲ受クヘキトキ休業扶助料ノ支給ニ付亦同シ

鑛夫ノ死亡ニ關シ健康保險法ニ依リ埋葬料ハ埋葬ニ要シタル費用ノ支給アルヘキトキハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

健康保險法第六十二條第一項第二項、第六十四條又ハ第六十五條第二項ノ規定ニ依リ保險給付ヲ受ケサル場合ニ於テハ前二項ノ例ニ依リ第十八條ノ扶助又ハ休業扶助料若ハ葬祭料ノ支給ハ之ヲ爲スコトヲ要セス

第二十七條　第十八條ノ規定ニ依リ扶助ヲ受ケ又ハ健康保險法ニ依リ療養ノ給付若ハ療養費ノ支給ヲ受クル鑛夫療養開始後三箇年ヲ經過スルモ負傷又ハ疾病治癒セサルトキハ鑛業權者ハ賃金五百四十日分（其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十圓、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チサルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓）ノ打切扶助料ヲ支給シ以後本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

第二十七條ノ二　鑛業權者豫メ鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ鑛業權者及鑛夫ノ出捐スル其濟組合ノ爲シタル給付ノ限度ニ於テ相當スル本則ノ扶助ヲ爲スコトヲ要セス

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第二十八條　鑛業權者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ本則ノ規定ニ依ル扶助ヲ爲ササルコトヲ得

一　鑛夫ノ解雇後一箇年ヲ經過シテ扶助ヲ請求スルトキ但シ既ニ受ケタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキハ此ノ限ニ在ラス解雇前ニ又ハ解雇後一箇年內ニ請求シタル扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ノ原因タル負傷又ハ疾病ニ基キ請求スルトキ亦同シ

二　扶助又ハ健康保險法ニ依ル保險給付ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ鑛夫ノ解雇後ニ於テ再發スルトキ

第二十九條　扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ハ左ノ各號ノ金額トス

一　鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タル場合ニ於テハ同法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬ノ日額

二　鑛夫健康保險法ニ依ル被保險者タラサル場合ニ於テハ疾病ニ在リテハ診斷ニ據ル發病ノ日ヲ除キ、發病ノ日明ナラサルトキハ診斷前七日ヲ除キ、負傷又ハ卽死ニ在リテハ事故發生ノ日ヲ除キ其ノ前（賃金締切日アル場合ニ於テハ直前ノ賃金締切日以前）三日間（雇入後三月ニ滿チサルトキハ其ノ期間）ニ於ケル賃金總額ヲ其ノ期間ノ日數ヲ以テ除シタル金額但シ其ノ金額ハ上記賃金總額ヲ該期間中ニ於テ賃金ヲ受ケタル日數ヲ以テ除シタル金額ノ百分ノ六十ヲ下ルコトヲ得ス

前項第二號ニ規定スル期間中ニ左ノ各號ノ一ニ該當スル期間アルトキハ其ノ期間ニ於ケル賃金ハ前項ノ期間及賃金總額ヨリ之ヲ控除ス

一　業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ療養ノ爲休業シタル期間

二　產前又ハ產後ノ女子第十五條ノ規定ニ依リ休業シタル期間

三　試ノ雇傭期間

四　鑛業權者ノ都合ニ依リ鑛夫臨時ニ休業シタル期間

第一項第二號ノ賃金總額ニハ三月ヲ超ユル期間每ニ支給スル賞與及發明善行其ノ他特別ノ行爲ニ對スル賞與又ハ手當ヲ包含セス

第三項ノ規定ニ依リ扶助料及葬祭料算出ノ標準トスヘキ賃金ヲ算出スルコトヲ得サル場合ニ於テ扶助規則ノ定ムル所ニ依ル但シ扶助規則ニ定ナキトキハ鑛山監督局長之ヲ定ム

第三十條　鑛山監督局長ハ職權ヲ以テ又ハ申請ニ因リ鑛夫ノ負傷、疾病又ハ死亡ノ原因、別表ニ揭クル身體障害ノ程度其ノ他扶助ニ關スル事項ニ付之ヲ審査シ及事件ノ調停ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ醫師ヲシテ診斷又ハ檢案セシムルコトヲ得

第三十一條　鑛業權者ハ扶助規則ヲ作成シ扶助ノ金額、手續其ノ他扶助ニ關シ必要ナル事項ヲ定メ鑛業著手前之ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

鑛業權者扶助規則ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

鑛山監督局長必要ト認ムルトキハ扶助規則ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　扶助ニ關ス書類ハ扶助ヲ終リタル日ヨリ三箇年以上之ヲ保存スヘシ

第三十三條　鑛業權者扶助ヲ爲シタルトキ又ハ第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタルトキハ樣式第一號ニ依リ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十四條　鑛夫就業中又ハ事業場內ニ於テ負傷シ、疾病ニ罹リ又ハ死亡シタルトキハ鑛業權者ハ遲滯ナク醫師ヲシテ診斷又ハ檢案ヲ爲サシムヘシ

第三十四條ノ二　採掘權者ハ樣式第二號ニ依リ第一條第一項第四號ノ歸鄉旅費支給ノ狀況ヲ、樣式第三號ニ依リ同條同項第七號ノ貯金其他ノ積立金ノ狀況ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十五條　鑛業權者ハ坑外ニ於テ就業スル鑛夫ニ付始業及終業ノ時刻竝休憩及休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ所ニ揭示スヘシ

鑛業權者ハ坑內ニ於テ就業スル鑛夫ニ付テハ入坑ノ時刻及出坑ノ時刻竝休日ニ關スル事項ヲ定メ見易キ場所ニ揭示スヘシ

第七條ノ二第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テハ前項ノ入坑時刻ハ入坑ノ開始及終了ノ時刻、出坑時刻ハ出坑ノ開始及終了ノ時刻トス

鑛業權者ハ所定ノ入坑時刻又ハ入坑開始時刻前ニ入坑シタル者及所定ノ出坑時刻又ハ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付樣式第五號ニ依リ記錄スヘシ

前項ノ記錄ハ事由ノ發生シタル日ヨリ三年以上之ヲ保存スヘシ

第三十六條　鑛業權者ハ雇傭勞役規則及扶助規則ヲ適當ナル方法ヲ以テ鑛夫ニ周知セシムヘシ

第三十七條　鑛業權者ハ鑛夫ノ雇傭、勞役又ハ扶助ニ關シ紛擾ヲ生シタルトキハ遲滯ナク其ノ事由及狀況ヲ鑛山監督局長ニ屆出ツヘシ

第三十七條ノ二　鑛山監督局長ハ鑛業權者ニ對シ本則施行上必要ナル報告ヲ命スルコト得

第三十八條　雇傭勞役規則ニ違背シタル採掘權者第十一條第二項、第十四條、第十五條、第十六條第一項、第三十一條第一項、第二項若ハ第三十二條ノ規定ニ違反シタル者正當ノ理由ナクシテ第三十四條ノ診斷若ハ檢案ヲ爲サシメサリシ者又ハ第三十一條第三項ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサリシ者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第三十九條　鑛業權者ヲシテ不正ニ扶助義務ノ全部又ハ一部ヲ免レシメ又ハ免レシメムトスル所爲ヲ爲シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十條　第二條第二項第三十三條、第三十四條ノ二乃至第三十七條ノ規定ニ違反シタル者又ハ第三十七條ノ二ノ規定ニ依リ發シタル命令ニ從ハサル者ハ五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第四十一條　鑛業法施行細則第五十四條ノ規定ニ依リ鑛業代理人ヲ置キタルトキハ鑛業權者又ハ法定代理人ニ適用スヘキ本則ノ罰則ハ之ヲ鑛業代理人ニ適用ス但シ其ノ權限ニ屬セサル事項ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四十二條　本則ハ第十七條乃至第三十一條、第三十八條乃至第四十一及第四十七條ノ規定ヲ除クノ外國ノ鑛業ニ之ヲ適用ス

大正十五年六月二十四日內務省令第十七號附則

本令ハ大正十三年法律第二十二號施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前ニ許可ヲ受ケタル屆傭勞役規則ニシテ本令ニ依リ變更ヲ要スルモノハ本令施行ノ日ヨリ二月以內ニ其ノ變更ノ手續ヲ爲スヘシ

本令施行前支給事由ヲ生シタル扶助ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依リ扶助ヲ受クル者本令施行ノ後引續キ扶助ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令施行ノ際現ニ休業扶助料ヲ受クル者本令施行後引續キ休業扶助料ヲ受クルトキハ本令施行後ハ本令ノ規定ニ依リ之ヲ扶助スヘシ本令施行前ニ扶助ヲ受ケテ治癒シタル負傷又ハ疾病カ本令施行後再發シテ扶助ヲ受クルトキ亦同シ

本令ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ昭和三年九月一日內務省令第三十號附則

本令ハ昭和五年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

鑛夫ヲ二組以上ニ分チ交替ニ就業セシムル場合ニ於テハ第七條ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

第十一條ノ二ノ規定ハ本令施行後三年間之ヲ適用セス

昭和四年六月二十六日內務省令第二十五號附則

本令ハ昭和四年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年七月六日內務省令第二十二號附則

本令ハ昭和十三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

昭和十一年十二月二十一日內務省令

第五十五號附則

（別表）

身體障害等級及障害扶助料表

等級		身體障害	障害扶助料
第一級	一	兩眼ヲ失明シタルモノ	賃金六百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百八十圓、女子ニ在リテハ三百圓ニ滿チサルトキハ夫々四百八十圓又ハ三百圓トス
	二	咀嚼及言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	
	三	精神ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	
	四	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ常ニ介護ヲ要スルモノ	
	五	半身不隨ト爲リタルモノ	
	六	兩上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	七	兩上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
	八	兩下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	九	兩下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
第二級	一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	賃金五百三十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ四百三十四、女子ニ在リテハ二百七十圓ニ滿チサルトキハ夫々四百三十圓又ハ二百七十圓トス
	二	兩眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	
	三	兩上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	
	四	兩下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	
第三級	一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	賃金四百七十日分

二	咀嚼又ハ言語ノ機能ヲ廢シタルモノ	
三	精神ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
四	胸腹部臟器ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ終身勞務ニ服スルコトヲ得サルモノ	
五	十指ヲ失ヒタルモノ	
第四級 一	兩眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百八十圓、女子ニ在リテハ二百四十圓ニ滿チサルトキハ夫々三百八十圓又ハ二百四十圓トス
二	咀嚼及言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
三	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ヲ全ク聾シタルモノ	
四	一上肢ヲ肘關節以上ニテ失ヒタルモノ	
五	一下肢ヲ膝關節以上ニテ失ヒタルモノ	
六	十指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	兩足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	賃金四百十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三百三十日、女子ニ在リテハ二百十圓ニ滿チサルトキハ夫々三百三十圓又ハ二百十圓トス
第五級 一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ	賃金三百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百八十圓、子女ニ在リテハ百八十圓ニ滿チサルトキハ夫々二百八十圓又ハ百八十圓トス
二	一上肢ヲ腕關節以上ニテ失ヒタルモノ	
三	一下肢ヲ足關節以上ニテ失ヒタルモノ	
四	一上肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
五	一下肢ノ用ヲ全廢シタルモノ	
六	十趾ヲ失ヒタルモノ	
第六級 一	兩眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ	賃金三百日分但シ其ノ

二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
三	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ	
四	脊柱ニ著シキ畸形又ハ運動障害ヲ殘スモノ	
五	一上肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ	
六	一下肢ノ三大關節中ノ二關節ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ヲ失ヒタルモノ	金額男子ニ在リテハ二百四十圓、女子ニ在リテハ百五十圓ニ滿チサルトキハ夫々二百四十圓又ハ五十圓トス
第七級 一	一眼失明シ他眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ	賃金二百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ二百圓、女子ニ在リテハ百二十五圓ニ滿チサルトキハ夫々二百圓又ハ百二十五圓トス
二	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ兩耳ノ聽力四十糎以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ	
三	精神ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ	
四	胸腹部臟器ノ機能ニ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ	
五	一手ノ拇指及示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ五指又ハ拇指及示指ヲ併セ四指ノ用ヲ廢シタルモノ	
七	一足ヲ「リスフラン」關節以上ニテ失ヒタルモノ	
八	十趾ノ用ヲ廢シタルモノ	
九	女子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ	
十	兩側ノ睾丸ヲ失ヒタルモノ	
第八級 一	一眼ヲ失明シ又ハ一眼ノ視力〇・〇二以下ニ減シタルモノ	賃金二百日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百
二	頸部ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	

三	神經系統ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘シ輕易ナル勞務ノ外服スルコトヲ得サルモノ	六十圓、女子ニ在リテハ百圓ニ滿チサルトキハ夫々百六十圓又ハ百圓トス
四	一手ノ拇指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ	
五	一手ノ拇指及指示又ハ拇指若ハ示指ヲ併セ三指以上ノ用ヲ癈シタルモノ	
六	一下肢ヲ五糎以上短縮シタルモノ	
七	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ癈シタルモノ	
八	一下肢ノ三大關節中ノ一關節ノ用ヲ癈シタルモノ	
九	一上肢ニ假關節ヲ殘スモノ	
十	一下肢ニ假關節ヲ殘スモノ	
十一	一足ノ五趾ヲ失ヒタルモノ	

第九級		
一	兩眼ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ	賃金百五十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ百二十圓、女子ニ在リテハ七十五圓ニ滿チサルトキハ夫々百二十圓又ハ七十五圓トス
二	一眼ノ視力〇・〇六以下ニ減シタルモノ	
三	兩眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ	
四	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ缺損ヲ殘スモノ	
五	鼻ヲ缺損シ其ノ機能ニ著シキ障害ヲ殘スモノ	
六	咀嚼及言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
七	鼓膜ノ全部ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ヲ全ク聾シタルモノ	
八	一手ノ拇指ヲ失ヒタルモノ、示指ヲ併セ二指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ヲ失ヒタルモノ	
九	一手ノ拇指ヲ併セ二指ノ用ヲ癈シタルモノ	
十	一足ノ第一拇ヲ併セ二拇以上ヲ失ヒタルモノ	

十一	一足ノ五趾ノ用ヲ癈シタルモノ	

第十級		
一	一眼ノ視力〇・一以下ニ減シタルモノ	賃金百二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ九十五圓、女子ニ在リテハ六十圓ニ滿チサルトキハ夫々九十五圓又ハ六十圓トス
二	咀嚼又ハ言語ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ	
三	十四齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ	
四	鼓膜ノ大部分ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力耳殼ニ接セサレハ大聲ヲ解シ得サルモノ	
五	一手ノ示指ヲ失ヒタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ヲ失ヒタルモノ	
六	一手ノ拇指ノ用ヲ癈シタルモノ、示指ヲ併セ二指ノ用ヲ癈シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ三指ノ用ヲ癈シタルモノ	
七	一下肢ヲ三糎以上短縮シタルモノ	
八	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ヲ失ヒタルモノ	

第十一級		
一	兩眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ	賃金九十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ七十圓、女子ニ在リテハ四十五圓ニ滿チサルトキハ夫々七十圓又ハ四十五圓トス
二	兩眼ノ眼瞼ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノ	
三	一眼ノ眼瞼ニ著シホ缺損ヲ殘スモノ	
四	鼓膜ノ中等度ノ缺損其ノ他ニ因リ一耳ノ聽力四十糎以上ニテハ尋常ノ話聲ヲ解シ得サルモノ	
五	脊柱ニ畸形ヲ殘スモノ	
六	一手ノ中指又ハ環指ヲ失ヒタルモノ	
七	一手ノ示指ノ用ヲ癈シタルモノ又ハ拇指及示指以外ノ二指ノ用ヲ癈シタルモノ	
八	一足ノ第一趾ヲ併セ二趾以上ノ用ヲ癈シタルモノ	

第十二級	一	一眼ノ眼球ニ著シキ調節機能障害又ハ運動障害ヲ殘スモノ
	二	一眼ノ眼ニ瞼著シキ運動障害ヲ殘スモノ
	三	七齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ
	四	一耳ノ耳殼ノ大部分ヲ缺損シタルモノ
	五	鎖骨、胸骨、肋骨、肩胛骨又ハ骨盤骨ニ著シキ畸形ヲ殘スモノ
	六	一上肢ノ三大關節中ノ一關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
	七	一下肢ノ三大關節ノ機能ニ障害ヲ殘スモノ
	八	長管骨ニ畸形ヲ殘スモノ
	九	一手ノ中指又ハ環指ノ用ヲ廢シタルモノ
	十	一足ノ第二趾ヲ失ヒタルモノ、第二趾ヲ併セ二趾ヲ失ヒタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ヲ失ヒタルモノ
	十一	一足ノ第一趾又ハ他ノ四趾ノ用ヲ廢シタルモノ
	十二	局部ニ頑固ナル神經症狀ヲ殘スモノ
	十三	男子ノ外貌ニ著シキ醜狀ヲ殘スモノ
	十四	女子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ
第十三級	一	一眼ノ視ノ視力〇・六以下ニ減シタルモノ
	二	一眼ニ半盲症、視野狹窄又ハ視野變狀ヲ殘スモノ
	三	兩眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ
	四	一手ノ小指ヲ失ヒタルモノ
	五	一手ノ拇指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ

賃金六十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ五十圓、女子ニ在リテハ三十圓ニ滿チサルトキハ夫々五十圓又ハ三十圓トス	
賃金四十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ三十圓、女子ニ在リテハ二十圓ニ滿チサルトキハ夫々三十圓又ハ二十圓トス	

台本

	六	一手ノ示指ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
	七	一手ノ示指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
	八	一下肢ヲ一糎以上短縮シタルモノ
	九	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ヲ失ヒタルモノ
	十	一足ノ第二趾ヲ併セ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ又ハ第三趾以下ノ三趾ノ用ヲ廢シタルモノ
第十四級	一	一眼ノ眼瞼ノ一部ニ缺損ヲ殘シ又ハ睫毛禿ヲ殘スモノ
	二	三齒以上ニ對シ齒科補綴ヲ加ヘタルモノ
	三	上肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ
	四	下肢ノ露出面ニ手掌面大ノ醜痕ヲ殘スモノ
	五	一手ノ小指ノ用ヲ廢シタルモノ
	六	一手ノ拇指及示指以外ノ指骨ノ一部ヲ失ヒタルモノ
	七	一手ノ拇指及示指以外ノ指ノ末關節ニ屈伸不能ヲ來シタルモノ
	八	一足ノ第三趾以下ノ一趾又ハ二趾ノ用ヲ廢シタルモノ
	九	局部ニ神經症狀ヲ殘スモノ
	十	男子ノ外貌ニ醜狀ヲ殘スモノ

賃金二十日分但シ其ノ金額男子ニ在リテハ十五圓、女子ニ在リテハ十圓ニ滿チサルトキハ夫々十五圓又ハ十圓トス	

台本

備考

一　視力ノ測定ハ萬國式試視力表ニ依ル屈折異狀アルモノニ付テハ矯正視力ニ測定ス

二　指ヲ失ヒタルモノトハ拇指ハ指關節、其ノ他ノ指關節以上ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

三　指ノ用ヲ廢シタルモノトハ指ノ末節ノ半以上ヲ失ヒ又ハ掌指關節若ハ第一指關節（拇指ニ在リテハ指關節）ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

四　趾ヲ失ヒタルモノトハ其ノ全部ヲ失ヒタルモノヲ謂フ

五　趾ノ用ヲ廢シタルモノトハ第一趾ハ末節ノ半以上、其ノ他ノ趾ハ末關節以上ヲ失ヒタルモノ又ハ蹠趾關節

（第一趾ニ在リテハ趾關節）ニ著シキ運動障害ヲ殘スモノヲ謂フ

（樣式第一號）

登錄第　號

扶助月報　大正　年　月分

鑛種	男女別	氏名 年齡	業務ノ種類	事故發生及終了年月日	事故ノ要領	扶助終了年月日	賃金	療養費	休業扶助料 日數	休業扶助料 金額	障害扶助料遺族扶助料又ハ打切扶助料 種別	障害扶助料遺族扶助料又ハ打切扶助料 金額	葬祭料	計	備考	記事

鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人	住所	住所	何	何	某印	某印

鑛業權者又ハ代表者	鑛業代理人	住所	住所	何	何	某印	某印

台本

備考

一　本表ハ毎月一回二十日迄ニ前月分ヲ差出スヘシ

二　本表ニハ扶助ヲ受ケタル者ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ記載スヘシ

（一）死者

（二）障害扶助料ヲ受ケタル者

（三）三十日以上休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受クル者ヲ除ク

（四）健康保險法ノ保險給付期間ヲ超エ療養ノ爲休業扶助料ヲ受ケタル者但シ引續キ受クル者ヲ除ク

三　事故ノ要領ハ死亡ノ原因、別表ニ掲クル身體障害ノ程度、身體障害ナキトキハ負傷ノ程度、病名等ヲ記載スヘシ

四　賃金ハ第二十九條ノ規定ニ依ル扶助料算出ノ標準トスヘキ賃金トス

五　療養費ハ第十八條ノ費用トス

六　障害扶助料ニ付テハ別表ニ掲クル等級ヲ記載スヘシ

七　健康保險法ノ保險期間ヲ超エ休業扶助料ヲ受ケタル者ニ付テハ備考欄ニ「保險給付超過」健康保險ノ給付ヲ受ケ且休業扶助料ノ補給ヲ受クルモノニ付テハ「保險給付補給」ト記載スヘシ

八　法令ノ規定スル場合以外ニ扶助ヲ爲シタルトキハ記事欄ニ之ヲ記載スルヲ妨ケス

九　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

十　鑛夫勞役扶助規則第二十六條第二項但書ノ規定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル場合ニ於テハ障害ヲ殘シタル時及現實ニ支給シタル時何レモ本表ニ記載シ前者ノ場合ニハ延期シタル旨ヲ、後者ノ場合ニハ障害扶助料支給延期報告屆出ノ年月日ヲ備考欄ニ記載スヘシ

台本

（樣式第一號乙）

扶助半年報

自昭和　年　月分
至昭和　年　月

鑛種	鑛業權者又ハ代表者	住所	何某印
位置名稱	鑛業代理人	住所	何某印

登錄第　號	種別		健康保險ノ被保險者ニ非サルニ對スル扶助			健康保險ノ被保險者ニ對スル補給扶助			記事
			扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	扶助人員	扶助延日數	療養費總額	休業扶助料總額	
	負傷	男									
		女									
		計									
	疾病	男									
		女									
		計									
	總計										

台本

備考

一　本表ハ一月一日ヨリ六月三十日迄ノ分ヲ七月三十一日迄ニ、七月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

（樣式第一號丙）

障害扶助料支給延期報告

（昭和　年　月　日届出）

登錄第　號	鑛種		位置名稱		記事
	男女別	氏名			
	年齡				
	業務ノ種類				
	負傷疾病ノ別	事故發生ニ依ル扶助月報	年月日		
		及終了扶助届出	年月日		
	治癒ノ年月日				
	支給延期ノ期間				
	障害扶助料	身體障害ノ部位			
		等級			
		金額			
	備考				

鑛業權者又ハ代表者	住所	何某印
鑛業代理人	住所	何某印

差出スヘシ

二　本表ニハ扶助月報ニテ報告シタルモノヲ除ク

三　療養中ノ者ハ治癒後ニ報告スヘシ

四　療養費ハ第十八條ノ費用トス

五　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

台本

備考

一　本報告ニハ扶助ヲ受クヘキ鑛夫ノ障害扶助料支給延期定ニ依リ障害扶助料ノ支給ヲ延期シタル後遲滯ナク之ヲ承諾書ノ寫ヲ添附スヘシ

三　本報告ニ付テハ其ノ寫ヲ作成シ障害扶助料支給ノ後三年間之ヲ保存スヘシ

四　本報告ハ鑛夫一名伊ニ用紙ヲ別ニスヘシ

（様式第二號）

鑛夫歸郷旅費年報

大正　年　分

登錄第　號					
鑛種		鑛業權者又ハ代表者	住所	何	某印
		鑛業代理人	住所	何	某印
種別	件數	金額			
業務上負傷シ又ハ疾病ニ罹リ解雇セラレ歸郷スル場合					
未成年者又ハ女子鑛業權者ノ都合ニ依リ解雇セラレ歸郷スル場合					
其ノ他ノ場合					
記事					

備考

一　本表ハ一月一日ヨリ十二月三十一日迄ノ分ヲ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ

二　「其ノ他ノ場合」ニ包含スル事由ノ概略ヲ記事欄ニ記載スヘシ

三　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

白本

（様式第三號）

鑛夫貯蓄金年報

大正　年　分

登錄第　號					
鑛種		鑛業權者又ハ代表者	住所	何	某印
		鑛業代理人	住所	何	某印
種別	員數	金額	記事		
男					
女					
計					

白本

備考

一　本表ハ十二月三十一日現在ニ依リ翌年一月三十一日迄ニ差出スヘシ十二月三十一日前ニ休業シタル鑛業ニ在リテハ休業ノ際ノ狀況ニ依リ其ノ旨記事欄ニ記載スヘシ

二　本表ニハ信認金、積立金、其ノ他何等ノ名義ヲ用フルニ拘ラス鑛夫ノ貯蓄金ニシテ鑛業權者ノ管理スルモノヲ記載スヘシ

三　既ニ解雇シタル鑛夫ノ貯蓄金ニシテ住所不明其ノ他ノ事由ニ因リ返還スルコト能ハサルニ依リ之ヲ管理スル場合ニハ其ノ員數及金額ヲ記事欄ニ記載スヘシ

四　鑛業代理人ヨリ差出ス場合ニハ其ノ者ノミ捺印スヘシ

（樣式第四號）

緊急ノ必要ニ因ル臨時就業届

| 登錄第　號 | | |

時刻ヲ記載スヘシ但シ第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シタルモノニ付テハ入坑時刻欄ニハ所定入坑終了時刻ヲ記載スヘシ

六　延長時間欄ニハ其ノ者ノ入坑ヨリ出坑迄ノ時間カ第五條第一項又ハ第六條ノ二第一項ノ時間ヲ超エタル場合ニ於テ其ノ超エタル時間ヲ記載スヘシ

第七條ノ二第二項ノ許可アル場合ニ於テ所定入坑時間内ニ入坑シ所定ノ出坑終了時刻後ニ出坑シタル者ニ付テハ前項ノ延長時間ノ計算ニ關シテハ所定入坑終了時刻ヲ其ノ者ノ入坑時刻トス

七　深夜就業時刻欄ニハ第七條ノ定ムル就業禁止時刻中ニ就業セシメタル十六歳未滿ノ者若ハ女子ニ付其ノ就業時刻ヲ記載スヘシ

八　事由欄ニハ前二號ニ該當スル場所ニ其ノ事由ヲ記載スヘシ

九　第七條ノ二第三項ノ許可アル場合ニハ坑内ノ點檢場所ヲ以テ坑口トス

●鑛夫勞役扶助規則第十一條ノ二ノ特例ニ關スル件

（昭和八年六月五日内務省令第十六號）

鑛業權者ハ主トシテ殘炭ヲ採掘スル石炭坑ニ付鑛山監督局長ノ許可ヲ受ケタルトキハ當分ノ内鑛夫勞役扶助規則第十一條ノ二ノ規定ニ拘ラス十六歳未滿ノ者及女子ヲシテ坑内ニ於テ就業セシムルコトヲ得

附　則

本令ハ昭和八年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

●土石採取場安全及衞生規則

（昭和九年五月三日内務省令第十一號）

第一條　本令ハ勞働者災害扶助法第一條第一項第一號ノ事業ニ之ヲ適用ス但シ砂鑛法ノ適用ヲ受クル事業ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　事業主ハ事業場ニ於ケル危害豫防及衞生ニ關シ一切ノ權限ヲ有スル安全衞生管理人ヲ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ安全衞生管理人ヲ選任シタルトキハ事業主ハ遲滯ナク地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ニ屆出ツヘシ

地方長官ハ必要アリト認ムルトキハ安全衞生管理人ノ改任ヲ命スルコトヲ得

安全衞生管理人ハ本令ノ適用ニ付テハ事業主ニ代ルモノトス

第三條　事業主ハ勞働者ノ爲安全ナル通路ヲ設クヘシ

第四條　竪坑内ノ架設通路ハ堅牢ナル構造ト爲シ且左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　架設通路ノ外側ニハ高七十五糎以上ノ堅牢ナル扶欄ヲ設クルコト

二　架設通路ノ長十五米以上ナルトキハ十米以内毎ニ踏棚ヲ設クルコト

第五條　坑内梯子道ハ堅牢ナル構造ト爲シ且左ノ條件ヲ具備スルコトヲ要ス

一　梯子ハ坑壁トノ間ニ適當ナル間隔ヲ保有セシメ傾斜ハ八十度以内ト爲スコト

二　梯子道ノ長十五米以上ナルトキハ十米以内毎ニ踏棚ヲ設クルコト

三　梯子ノ上端ヲ床ヨリ六十糎以上突出セシムルコト

第六條　坑内ニ於ケル通路又ハ梯子道カ捲揚裝置ニ接近シ危害ヲ生スルノ虞アル場合ニ於テハ事業主ハ板仕切其ノ他ノ隔壁ヲ設クヘシ

第七條　事業主ハ露天採掘場ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　崩壞ノ虞アル表土ハ先ツ之ヲ除去シタル後採掘スルコト

二　浮石ヲ除却スルコト

三　浮石除去ノ作業ニ必要ナル傾斜ヲ保持スルコト

四　砂礫其ノ他崩壞シ易キモノヲ採掘スル場合ニ於テハ危害豫防ノ爲適當ナル段階ヲ附スルカ又ハ安全ナル傾斜ヲ保持スルコト

五　落石ヲ防止スル爲採掘箇所ノ下部ニ柵網其ノ他適當ナル設備ヲ設クルコト但シ採掘箇所ト其ノ他ノ作業箇所又ハ通路トノ間ニ安全ナル間隔ヲ有シ落石ニ因ル危害ヲ生スルノ虞ナキトキハ此ノ限ニ在ラス

事業主適當ナル危害豫防施設ヲ爲シ地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ前項第三號ノ規定ハ之ヲ適用セス

第八條　事業主ハ落盤ノ虞アル場合ニ於テハ支柱其ノ他ノ落盤防止施設ヲ爲スヘシ

採掘又ハ掘進中特ニ落盤ノ虞アル場合ニ於テハ事業主ハ支柱材其ノ他坑内支持ニ必要ナル材料ヲ落盤防止作業上便宜ノ場所ニ豫メ配置スヘシ

第九條　事業主ハ運搬軌道ニ依リ車輛ヲ運轉スル場合ニ於テハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　脫線又ハ顚覆ノ虞ナキヤウ常ニ軌道ヲ完全ニ維持スル事

二　車輛ニハ適當ナル制動裝置ヲ備フルコト但シ專ラ水平軌道ヲ緩行スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三　駐車セル車輛カ逸走ノ虞アル場合ニハ適當ナル逸走防止

裝置ヲ設クルコト

四　墜落ノ虞アル軌道ノ末端ニハ適當ナル車輛墜落防止裝置ヲ設クルコト

第十條　事業主ハ捲揚裝置ニ付左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　安全荷重ヲ標記シ置クコト

二　前號ノ安全荷重ハ捲揚用又ハ牽引用鋼索ノ切斷荷重ノ六分ノ一以下トスルコト但シ人ノ乘用ニ供スヘキ場合ニ在リテハ十分ノ一以下トスルコト

三　鋼索ハ三十糎ノ長ノ間ニ於テ全鋼線數ノ一割以上ノ鋼線カ切斷セルモノヲ使用セサルコト

四　適當ナル制動裝置ヲ設クルコト

五　架臺其ノ他ノ構造物ハ倒壞ノ虞ナキヤウ安全ニ之ヲ支持スルコト

六　捲揚裝置ノ運轉手ヲ指定シ其ノ氏名ヲ運轉箇所ニ揭示シ置クコト

事業主ハ捲揚裝置ニ依ル運搬作業ニ從事スル者ヲシテ安全荷重ヲ超エテ負荷セシムルコトヲ得ス但シ已ムヲ得サル場合ニ於テ當該捲揚裝置ニ關シ十分ナル知識ヲ有スル係員ノ監視ノ下ニ其ノ支障ナシト認メタル限度ニ於テ安全荷重ヲ超過スルコトヲ妨ケス

捲揚裝置ニ依ル運搬作業ニ從事スル者ハ前項但書ノ場合ヲ除クノ外安全荷重ヲ超エテ負荷スルコトヲ得ス

第十一條　捲揚裝置ヲ設ケタル竪坑又ハ坑道ニハ人墜ヲ以テ合圖シ得ル場合ヲ除クノ外適當ナル信號裝置ヲ設クヘシ

第十二條　火藥又ハ爆藥ヲ取扱フ者ハ左ノ各號ノ規定ヲ遵守スヘシ

一　「ダイナマイト」其ノ他ノ「ニトログリセリン」爆發藥ニシテ凍結シタルモノハ火氣ニ接近セシメ又ハ直接蒸氣ニ接觸セシムル等危險ナル方法ヲ以テ融解セサルコト

二　火藥又ハ爆藥ヲ裝塡スルニハ鐵製具ヲ使用セサルコト

三　點火ハ豫メ附近ノ者ニ警告シ、完全ニ避難セシメタル後ニ非サレハ之ヲ爲ササルコト

四　點火後爆發セサルトキハ電氣點火法ニ依リタル場合ハ發破母線ヲ點火器ヨリ取離シタル後、其ノ他ノ方法ニ依リタル場合ハ少クトモ十五分ヲ經過シタル後ニ非サレハ發破箇所ニ近寄リ又ハ附近ノ者ヲ近寄ラシメサルコト

五　裝藥ガ不發ノ場合ニ於テハ當該係員ノ指揮ヲ受ケ不意ニ爆發ノ虞ナカラシムル爲メ注水其ノ他適當ナル處置ヲ爲スコト

第十三條　事業主ハ發破ノ際勞働者カ危害ノ虞ナキ遠距離ニ避難シ得ル場合ヲ除クノ外前面及上部ヲ堅固ニ防護セル避難所ヲ設クヘシ

第十四條　竪坑ノ坑口其ノ他墜落ノ虞アル箇所ニハ蓋、柵圍其ノ他ノ墜落防止施設ヲ爲スヘシ

第十五條　事業主ハ竪坑內、四十度以上ノ斜面又ハ架空索道ノ支柱上其ノ他墜落ノ虞アル場所ニ於テ勞働者ヲ作業セシムル場合ニ於テハ腰綱其ノ他ノ墜落防止方法ヲ講スヘシ

第十六條　事業主ハ原動機、捲揚裝置其ノ他ノ機械設備ノ危害ヲ生スルノ虞アル部分ニハ適當ナル柵圍又ハ安全裝置ヲ設クヘシ但シ作業上已ムヲ得サル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第十七條　事業主ハ著シク粉塵ヲ發散スル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ注水其他ノ粉塵防止施設ヲ爲スヘシ但シ已ムヲ得サル場合ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

事業主ハ前項但書ノ場合又ハ石片飛來ノ虞アル作業ヲ爲サシムル場合ニ於テハ之ニ從事スル勞働者ニ使用セシムル爲適當ナル保護具ヲ備フヘシ

勞働者ハ作業中前項ノ保護具ヲ使用スルコトヲ要ス

第十八條　事業主ハ事業場ノ安全ニ關スル事項ヲ掌ラシムル爲安全係員又ハ安全委員ヲ選任シ每日事業場ニ於ケル採掘箇所、通路、軌道其ノ他危害ヲ生スルノ虞アル場所ヲ巡視シ浮石其ノ他危險ノ有無ヲ檢査セシメ應急處置又ハ適當ナル危害豫防ノ處置ヲ爲サシムヘシ

第十九條　地方長官ハ前各條ニ定ムルモノノ外勞働者ノ安全及衛生ノ爲必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十條　事業主本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十一條　事業主未成年者若ハ禁治產者ナルトキ又ハ法人ナルトキハ之ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ法定代理人又ハ法令ノ規定ニ依リ法人ヲ代表スル者ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十二條　事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ本令又ハ本令ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十三條　本令中安全衛生管理人ニ關スル規定及事業主ニ適用スヘキ罰則ハ國、道府縣、市町村其ノ他之ニ準スヘキモノニ之ヲ適用セス

第二十四條　第十條第三項及第十二條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

前項ノ規定ニ依リ勞働者ヲ罰スヘキ場合ニ於テハ其ノ監督者モ亦百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ監督上相當ノ注意ヲ爲シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

附　則

本令ハ昭和九年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

第七條第一號及第三號ノ規定ハ本令施行ノ際現ニ存スル事業場ニ付地方長官必要アリト認メタルトキハ本令施行後一年以內其ノ適用ヲ猶豫スルコトヲ得

●退職積立金及退職手當法

（昭和十一年六月二日）
（法律第四十二號）

第一章　總則

第一條　本法ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル事業ニシテ常時五十人以上ノ勞働者ヲ使用スルモノニ之ヲ適用ス

一　工場法ノ適用ヲ受クル工場

二　鑛業法ノ適用ヲ受クル事業

主務大臣ハ事業ノ種類又ハ規模ヲ限リ本法ノ適用ヲ除外スルコトヲ得

第二條　本法ノ適用ヲ受クル事業カ規模ノ縮少其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テ事業主其ノ旨ヲ行政官廳ニ屆出ツル迄ハ前條ノ規定ニ拘ラス仍本法ヲ適用ス

第三條　第一條第一項各號ノ事業ニシテ本法ノ適用ヲ受ケサルモノノ事業主退職積立金、退職手當積立金又ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ事業ニ使用セラルル勞働者ノ中左ニ揭クル者ニハ本法ヲ適用セス但シ第一號若ハ第二號ニ該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ適用ス

一　六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　日日雇入レラルル者

三　季節的事業ニ使用セラルル者

前項第三號ノ季節的事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

第四條　營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ勞働者カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ其ノ勞働者ト從前ノ事業主トノ間ニ本法ニ依リテ生シタル法律關係ハ承繼人ニ移轉ス

前項ノ場合ニ於テ積立金ノ承繼ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　本法ノ適用ヲ受クル事業ニ使用セラルル勞働者ノ中左ニ揭クル者ニハ本法ヲ適用セス但シ第一號若ハ第二號ニ該當スル者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキ又ハ第三號ニ該當スル者一年ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ本法ヲ適用ス

一　六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者

二　日日雇入レラルル者

三　季節的事業ニ使用セラルル者

前項第三號ノ季節的事業ノ範圍ハ主務大臣之ヲ定ム

第六條　賃金及標準賃金ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ

定ム

第七條　行政官廳ハ事業主ニ對シ本法ニ依ル積立金ノ積立若ハ運用、退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給其ノ他本法ノ施行ニ關スル事項ニ付必要ナル檢查ヲ爲シ又ハ事業主ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第八條　本法ニ依リ事業主ノ積立ツヘキ退職手當積立金及準備積立金ノ額ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ七ニ相當スル額以下トス

第九條　本法ノ適用ヲ受クル事業カ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テ退職積立金支拂又ハ退職手當支給ノ完了ニ至ル迄ハ之ニ必要ナル限度ニ於テ仍本法ヲ適用ス

第十條　本法ハ政府ノ事業ニ之ヲ適用セス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ事業ニ關シテハ本法ノ適用ニ付勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第二章　退職積立金

第十一條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ勞働者ノ賃金ノ中ヨリ其ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ各勞働者ニ代リ其ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ積立ツヘシ

災害其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラス積立ヲ爲サス又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十二條　勞働者退職（解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同シ）其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ非サレハ前條ノ退職積立金ノ支拂ヲ受クルコトヲ得ス

第十三條　事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル上勞働者ノ同意ヲ得タルトキハ其ノ勞働者ノ退職積立金ヲ運用スルコトヲ得

行政官廳ハ前項ノ許可ヲ爲ス場合ニ於テ必要ト認ムル額ノ國債ヲ供託スヘキコトヲ命スルコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ前項ノ國債ノ增額ヲ命スルコトヲ得

勞働者ハ事業主ノ運用シタル退職積立金ニ關シ前二項ノ規定ニ依リ供託シタル國債ニ付他ノ債權者ニ先チテ辨濟ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第十四條　前條第一項ノ規定ニ依リ退職積立金ヲ運用シタル場合ニ於テ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ事業主ハ運用シタル金額ニ前條第一項ノ利子ヲ附シタルモノヲ退職積立金トシテ其ノ勞働者ニ支拂フヘシ

第十五條　退職積立金ノ支拂ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第三章　退職手當

第十六條　事業主ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滯ナク積立ツヘシ

災害其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ事業主ハ行政官廳ノ許可ヲ受ケ前項ノ規定ニ拘ラス積立ヲ爲サス又ハ減額シテ積立ツルコトヲ得

第十七條　事業主ハ前條ノ退職手當積立金ノ外勅令ノ定ムル所ニ依リ毎年一回以上一定ノ期間末ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以內ニ於テ行政官廳ノ認可ヲ受ケタル金額ヲ退職手當積立金トシテ遲滯ナク積立ツヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　前二條ノ退職手當積立金ハ計算期毎ニ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ勞働者別ニ計算ヲ明ニスヘシ但シ前條ノ退職手當積立金ニ限リ事業主豫メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勤務年限、勤務狀態其ノ他ニ依リ異ル率ヲ以テ勞働者別ニ計算スルコトヲ得

第十九條　事業主ハ退職手當積立金ヨリ生シタル利子（第二種所得稅又ハ資本利子稅ヲ課セラレタルトキハ之ヲ差引キタル金額）及第二十一條第一項ノ規定ニ依リ退職手當積立金ヲ運用シタル場合ニ於テハ同條同項ノ利子ヲ退職手當積立金トシテ遲滯ナク積立ツヘシ

前項ノ場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ヲ明ニスヘシ

第二十條　退職手當積立金ノ積立ハ命令ノ定ムル所ニ依リ他ノ財產ト分別シテ左ノ方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

一　郵便貯金
二　銀行ヘノ預金
三　金錢信託
四　登錄國債

第二十一條　事業主豫メ確實ナル方法及利子ノ定率ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ退職手當積立金ヲ運用スルコトヲ得

第十三條第二項乃至第五項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十二條　本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ハ所得稅法、營業收益稅法及臨時利得稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ總損金又ハ必要ノ經費ト看做ス

道府縣及市町村其ノ他之ニ準スヘキモノハ本法ニ依リ退職手當積立金トシテ積立ツル金額ヲ標準トシテ課稅スルコトヲ得ス

第二十三條　退職手當積立金ノ拂戻又ハ償還ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス但シ本法ニ依ル退職手當ヲ受クヘキ者第二十四條第一項第一號ノ金額又ハ第二十六條第一項ノ特別手當ノ金額ニ付差押フルコトヲ妨ケス

第二十四條　勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ事業主ハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ其ノ全部又ハ一部ヲ支給セサルコトヲ得

一　第十八條、第十九條第二項及第二十八條第二項ノ規定ニ依リ其ノ勞働者ノ計算ニ屬スル金額

二　第十六條第一項ノ規定ニ依ル積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額

前項第一號ノ金額ノ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給シ退職手當積立金ヲ以テ之ヲ支給スルコト能ハサルトキハ事業主ノ他ノ財產ヨリ之ヲ支給スヘシ

第一項第二號ノ金額ハ退職手當積立金ノ中ヨリ之ヲ支給スルコトヲ得ス

勞働者死亡シタル場合ニ於テハ退職手當ハ命令ノ定ムル所ニ依リ遺族又ハ勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給スヘシ

第二十五條　前條第一項但書ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セサル金額ヲ生シタルトキハ事業主ハ第二十六條第一項ノ特別手當ニ充ツル爲ノ積立金（特別手當積立金トシテ之ヲ保留スヘシ

第二十六條　事業主事業ノ都合ニ依リ勞働者ヲ解雇シタルトキハ退職手當トシテ第二十四條第一項ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ特別ノ事由アル場合ニ於テハ加算スルコトヲ要セス

一　勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二　勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クヘキ者二人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金カ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラサルトキハ其ノ支給ヲ受クヘキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額ト爲スヘシ

第二十四條第二項ノ規定ハ特別手當ノ支給ニ之ヲ準用ス

第二十七條　事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ特別手當積立金ノ限度ヲ定メタルトキハ其ノ限度ヲ超ユル金額ハ第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ金額ニ之ヲ充當スヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ變

更スルコトヲ得

第二十八條　事業主ハ第十九條第二項ノ計算期ニ於テ退職手當積立金ノ缺損ヲ塡補シ餘剩ヲ積立ツヘシ

前項ノ規定ニ依リ餘剩ヲ積立ツル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ勞働者別ニ計算ヲ明ニスヘシ

第二十九條　本法ニ依ル退職手當ヲ受クルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第三十條　事業主退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル規程ノ廢止又ハ變更ハ行政官廳ノ許可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

事業主ハ第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル場合ニ於テ勞働者退職事由其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタルトキハ少クトモ勤續一年ニ付標準賃金十二日分ニ相當スル退職手當（事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分、勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ）ヲ支給スヘシ此ノ場合ニ於テハ第二十四條第一項但書及第二十六條第一項但書ノ規定ヲ準用ス

第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ第一項ノ準備積立金ニ、第二十四條第四項、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ第一項ノ退職手當ニ之ヲ準用ス

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消シ又ハ準備積立金ノ增額ヲ命スルコトヲ得

第四章　退職金審査會

第三十一條　退職積立金ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ニ付民事訴訟ヲ提起スルニハ退職金審査會ノ審査ヲ經ルコトヲ要ス

前項ノ審査ノ請求ハ時效ノ中斷ニ關シテハ裁判上ノ請求ト看做ス

第三十二條　退職金審査會ノ組織及審査ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　罰　則

第三十三條　事業主第二十一條第一項（第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ許可ヲ受ケスシテ退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキハ一年以下ノ禁錮又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

事業主法人ナル場合ニ於テ前項ノ許可ヲ受ケサルニ拘ラス其理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員退職手當積立金又ハ準備積立金ヲ處分シタルトキ其ノ者ニ付亦前項ニ同シ

第三十四條　事業主左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第三條第二項、第十一條第一項、第十四條、第十六條第一項、第十七條、第十八條、第十九條、第二十條（第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第二十四條第一項第四項（第三十條第四項ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第二十五條、第二十六條第一項、第二十七條第一項、第二十八條（第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）又ハ第四十一條第二項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第十三條第二項第三項（第二十一條第二項、第三十條第四項又ハ第四十二條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第十七條又ハ第三十條第五項ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサルトキ

三　第三條第一項、第三十條第一項又ハ第四十二條ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタル準備積立金ノ積立ヲ爲ササルトキ

四　第三十條第三項ノ規定ニ依リ支給スヘキ退職手當トシテ勤續一年ニ付標準賃金十二日分以內ニ相當スル金額（事業ノ都合ニ依ル解雇ノ場合ニ於テハ勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分以內、勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分以內ニ相當スル金額ヲ加算シタルモノ）ヲ支給セサルトキ

第三十五條　第七條ノ規定ニ依ル檢查ヲ拒ミ、妨ケ若ハ忌避シ又ハ報告ヲ爲サス若ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　事業主ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第三十七條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ事業主ニ適用スヘキ罰則ハ其ノ者カ法人ナルトキハ理事、取締役其ノ他法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附　則

第三十八條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（昭和十一年十一月三十日勅令第四百十三號ヲ以テ昭和十二年一月一日ヨリ施行）

第三十九條　第十六條又ハ第十七條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ最初ノ積立金ニ付テハ勅令ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得

第四十條　勞働者第十六條ノ規定ニ依ル本法適用後ノ積立ノ最初ノ期間中ニ退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサル

ニ至リタル場合ニ於テハ第二十四條第一項第二號ノ金額ハ本法適用後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額トス

第四十一條　事業主及勞働者ノ出捐ニ係ル組合カ本法施行ノ際現ニ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ第十一條ニ規定スル退職積立金竝ニ第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲ササルコトヲ得

前項ノ組合カ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ本法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ支給スヘキ金額ヲ支給セサルトキハ事業主ハ組合ノ支給セサル金額ニ相當スル金額ヲ勞働者ニ支給スヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ第一項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十二條　事業主本法施行ノ際現ニ使用スル勞働者ノ本法施行前ノ勤務ニ對スル退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ定メ行政官廳ノ許可ヲ受ケタル時ハ第二十條乃至第二十三條及第二十八條第一項ノ規定ハ準備積立金ニ、第二十九條及第三十一條ノ規定ハ退職手當ニ之ヲ準用ス

第四十三條　本法ノ適用ヲ受クル事業ニ於ケル本法適用前ノ退職手當規程ハ本法ノ適用ニ依リ廢止又ハ變更セラルルコトナシ

但シ本法適用後ノ勤務ニ對シ本法ニ依ル退職手當ヲ支給スル場合ニ於テハ從前ノ規程ニ依リ支給スヘキ退職手當ハ其ノ差額ヲ支給スルヲ以テ足ル

第四十四條　國稅徵收法第十六條ニ左ノ一項ヲ加フ

退職積立金及退職手當ニ依ル退職手當積立金及準備積立金ニ付亦前項ニ同シ

第四十五條　郵便貯金法第四條ニ左ノ一號ヲ加フ

五　退職積立金又退職手當法ニヨル積立金ノ預入金

●退職積立金及退職手當法施行令

（昭和十一年十一月三十日勅令第四百十四號）

〔沿革〕昭和十三年一月十日勅令第二十號改正

第一章　總則

第一條　退職積立金及退職手當法ノ賃金ノ範圍ハ當時又ハ定期ニ受クル給與其ノ他ノ利益トス但シ左ニ揭クルモノヲ除ク

一　三月ヲ超ユル期間毎ニ支給スル賞與又ハ手當

二　通勤手當

三　住居ニ關スル利益又ハ住宅料ニシテ賃金ノ額ノ決定ニ影響ナキモノ

四　其ノ他厚生大臣ノ指定スルモノ

賃金ノ全部又ハ一部カ金錢以外ノ給與其ノ他ノ利益ナル場合ニ於テハ其ノ價額ハ健康保險法施行令第二條第一項及第二項ノ規定ニ依リ定ムル標準價格ニ依リ之ヲ算定ス但シ同條第三項ノ規定ニ依リ別段ノ定ヲ爲シタル健康保險組合ノ被保險者タル勞働者ニ付テハ其ノ定ニ依リ之ヲ算定ス

第二條　退職積立金及退職手當法又ハ同法ニ基キテ發スル命令ノ規定ニ依リ一定ノ期間中ノ賃金ノ計算ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ期間中ニ支拂ハルヘキ賃金ニ依リ之ヲ爲スモノトス

事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ勞働者ノ各一月ノ賃金ハ前項ノ規定ニ拘ラス健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ當該勞働者ニ付算定シタル金額ノ三十倍ト爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テ一月中當該勞働者ニ支拂ハルヘキ賃金ナキトキハ其ノ一月ニ於ケル其ノ者ノ賃金ハ之ヲナキモノト爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第三條　退職積立金及退職手當法ノ標準賃金ハ健康保險法施行令第三條乃至第五條ノ規定ニ依リ被保險者ノ標準報酬日額ヲ定ムル方法ニ依リ算定シタル金額トス

前項ノ規定ニ依ル金額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シテ事業主適當ナル金額ヲ定ムヘシ

第四條　退職積立金及退職手當法第八條ノ期間ノ末日ニ於ケル勞働者ノ其ノ期間中ノ賃金

一　退職積立金及退職手當法第八條ノ期間中ニ退職　解雇及死亡ヲ含ム以下之ニ同シ）其ノ他ノ事由ニ因リ同法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル勞働者ノ賃金ニシテ退職手當積立金及準備積立金ノ積立ノ基準ト爲シタル金額

第五條　道府縣又ハ道府縣ト勞働者トノ出捐ニ係ル組合カ退職積立金及退職手當法ニ準スル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テハ道府縣ハ同法第十一條ニ規定スル退職積立金若ハ同法第十六條及第十七條ニ規定スル退職手當積立金ノ積立ヲ爲サス又ハ同法第十一條若ハ第十六條及第十七條ニ規定スル率ト異ナル率ノ積立ヲ爲スコトヲ得

市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ又ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノト勞働者トノ出捐ニ係ル組合カ退職積立金及退職手當法ニ準スル退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程ヲ有スル場合ニ於テ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキ亦前項ニ同シ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第六條　事業主ハ退職積立金、退職手當積立金及準備積立金竝ニ退職手當ニ關シ計算ヲ爲ス場合ニ於テ一錢未滿ノ端數アルトキハ之ヲ切捨ツルモノトス

第七條　本令中行政官廳トアルハ工場法ノ適用ヲ受クル工場ニ在リテハ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

第二章　退職積立金

第八條　退職積立金トシテ積立ツヘキ金額ノ計算ハ豫メ事業主ノ定メタル一月以內ノ一定ノ期間中ノ賃金ニ依リ之ヲ爲スモノトス

事業主ハ退職積立金トシテ積立ツヘキ金額ヲ前項ノ期間毎ニ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スヘシ但シ其ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコト能ハサルトキハ其ノ次ノ期間中ノ賃金ヨリ控除スルコトヲ得

第九條　退職積立金ノ積立ハ前條第二項ノ規定ニ依ル控除ノ都度遲滯ナク之ヲ爲スヘシ但シ行政官廳ノ許可ヲ受ケタルトキハ一定ノ時期ニ取纏メ積立ヲ爲スコトヲ得

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十條　退職積立金ノ積立ハ事業主行政官廳ノ許可ヲ受ケ勞働者ノ他ノ財產ト分別シテ郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託登錄國債其ノ他確實ナル方法ニ依リ之ヲ爲スヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ許可ヲ取消シ又ハ積立ノ方法ヲ指定スルコトヲ得

郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ支拂ニ付事業主ノ證明ヲ必要トスル方法ニ依リ之ヲ爲シ通帳又ハ證書ハ事業主之ヲ保管スヘシ登錄國債ノ方法ニ依リ退職積立金ノ積立ヲ爲ス場合ニ於テハ登錄ノ變更又ハ除却等其ノ登錄國債ニ關スル請求ハ事業主之ヲ爲シ其ノ登錄國債ノ元利金ノ支拂又ハ登錄除却ノ場合ニ於ケル證券ノ引渡ハ日本銀行之ヲ事業主ニ爲スヘシ

第十一條　退職積立金ノ積立ハ郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲スコトヲ以テ、登錄國債ノ方法ニ依ル場合ニ在リテハ甲種國債登錄簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スコトヲ以テ之ヲ爲ス

郵便貯金、銀行ヘノ預金又ハ金錢信託ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ郵便官署、銀行又ハ信託會社其ノ受入又ハ引受ヲ爲シタルトキハ事業主ノ請求ニ依リ通帳又ハ證書ニ退職積立金タルコトノ表示ヲ爲シ尙貯金原簿又ハ之ニ準スヘキ

帳簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スヘシ

登錄國債ノ方法ニ依ル退職積立金ノ積立ニ付テハ日本銀行ハ事業主ノ請求ニ依リ甲種國債登錄簿ニ退職積立金タル旨ノ記載ヲ爲スヘシ

第十二條　勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テハ事業主ハ勞働者カ退職積立金ノ支拂ヲ受クルニ必要ナル事業主ノ爲スヘキ手續ヲ遲滯ナク完了スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ事業主ハ退職積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スヘシ

第十三條　事業主ハ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ニ於テ其ノ勞働者ノ賃金ヨリ控除シタル金額ニシテ積立ヲ爲ササルモノアルトキハ之ヲ支拂フヘシ

第三章　退職手當

第十四條　事業主ハ退職積立金及退職手當法第十六條ノ規定ニ依ル退職手當積立金ノ積立ニ關スル計算ノ期間ヲ定メ豫メ行政官廳ニ屆出ツヘシ

行政官廳必要アリト認ムルトキハ前項ノ計算ノ期間ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十五條　退職積立金及退職手當法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ退職手當積立金ノ額ハ左ノ各號ヲ標準トスルモノトス

一　法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル割合カ年百分ノ五ヲ超エ年百分ノ七・五以內ナルトキハ賃金ノ百分ノ一、年百分ノ七・五ヲ超エ年百分ノ十以內ナルトキハ賃金ノ百分ノ二、年百分ノ十ヲ超ユルトキハ賃金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ利益配當金額カ拂込株金額又ハ出資額ノ年百分ノ五ノ割合ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度トスルコトヲ得

二　個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額カ一萬圓ヲ超エ二萬圓以內ナルトキハ賃金ノ百分ノ一、二萬圓ヲ超エ三萬圓以內ナルトキハ賃金ノ百分ノ二、三萬圓ヲ超ユルトキハ賃金ノ百分ノ三ニ相當スル金額但シ純益金額ノ百分ノ六十カ六千圓ヲ超ユル金額ノ十分ノ一ヲ限度ト

スルコトヲ得

前項ノ事業年度ハ當該事業年度又ハ直前ノ事業年度、曆年ハ當該曆年トシ事業主ノ選擇スル所ニ依ル但シ選擇シタル事業年度又ハ曆年ハ勞働者ノ不利益ニ之ヲ變更スルコトヲ得ス

行政官廳事業主ノ爲シタル利益配當金額純益金額又ハ積立ノ金額ノ算定不當ナリト認ムルトキハ積立ノ金額ヲ更正シテ認可スルコトヲ得

詐僞其ノ他不正ノ行爲ニ因リ認可ヲ受ケタル者ニ對シテハ行政官廳ハ其ノ認可シタル金額ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十八條　第十一條ノ規定ハ退職手當積立金及準備積立金ニ之ヲ準用ス

第十九條　郵便貯金、銀行ヘノ預金、金錢信託又ハ登錄國債ノ方法ニ依リ積立ヲ爲シタル退職手當積立金又ハ準備積立金カ退職手當積立金又ハ準備積立金タラサルニ至リタルトキハ事業主ハ退職手當積立金又ハ準備積立金ニ關スル表示又ハ記載ノ抹消ヲ請求スヘシ

第二十條　法人タル事業主ニ在リテハ事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ曆年終了後其ノ期間中ニ於ケル賃金、退職手當積立金及準備積立金ノ積立額竝ニ賃金ニ對スル積立額ノ比率ヲ記シタル計算書ヲ所得稅又ハ營業收益稅ニ關スル申告ノ際稅務署ニ提出スヘシ

第四條ノ規定ハ前項ノ賃金ニ之ヲ準用ス

第二十一條　退職積立金及退職手當法第二十四條第四項又ハ第三十條第四項ノ規定ニ依リ退職手當ヲ受クヘキ者ハ勞働者ノ配偶者トス

配偶者ナキ場合ニ於テ退職手當ヲ受クヘキ者ハ勞働者死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル勞働者ノ直系卑屬又ハ直系尊屬トシ其ノ順位ハ親等ノ近キモノヲ先ニシ卑屬ト尊屬ト親等相同シキトキハ卑屬ヲ先ニス

第二十二條　前條第二項ニ定メタル同順位者ノ間ニ在リテハ其ノ順位ハ左ノ規定ニ依ル

一　勞働者ノ家督相續人又ハ戶主ハ之ヲ他ノ者ヨリ先ニス

二　男ハ之ヲ女ヨリ先ニス

三　直系卑屬ニ付テハ男又ハ女ノ間ニ在リテハ嫡出子ヲ先ニシ嫡出子、庶子及私生子ノ間ニ在リテハ嫡出子及庶子ハ女ト雖モ之ヲ私生子ヨリ先ニス

四　前二號ニ揭クル事項ニ付相同シキ者ノ間ニ在リテハ年長者ヲ先ニス

第二十三條　第二十一條ノ規定ニ該當スルモノナキ場合ニ在リテハ左ニ揭クル者ノ中一人ニ限リ退職手當ヲ支給スヘシ但シ勞働者ノ遺言又ハ事業主ニ對シテ爲シタル豫告ニ依リ左ニ揭クル者ノ中一人ヲ特ニ指定シタルトキハ之ニ從フヘシ

一　勞働者ノ家督相續人又ハ戶主

二　勞働者ノ兄弟姉妹ニシテ勞働者ノ死亡當時之ト同一ノ家ニ在リタル者

三　勞働者ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者

第四章　退職金審査會

第二十四條　退職金審査會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ退職積金立ノ支拂又ハ退職手當ノ支給ニ關スル事項ヲ審査ス

第二十五條　退職金審査會ノ管轄區域ハ道府縣ノ區域トシ其ノ名稱及位置ハ厚生大臣之ヲ定ム

第二十六條　退職金審査會ハ會長一人及委員九人以內ヲ以テ之ヲ組織ス

第二十七條　會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

委員ハ關係各廳高等官又ハ學識經驗アル者ノ中ヨリ厚生大臣之ヲ命ス

學識經驗アル者ノ中ヨリ命セラレタル委員ノ任期ハ三年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

第二十八條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ地方長官ノ指名シタル委員其ノ職務ヲ代理ス

第二十九條　退職金審査會ニ幹事及書記ヲ置ク關係各廳ノ官吏中ヨリ地方長官之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第三十條　審査ハ勞働者退職其ノ他ノ事由ニ因リ退職積立金及退職手當法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル際其ノ使用セラレタル事業ノ所在地ヲ管轄スル退職金審査會ニ於テ之ヲ爲ス

前項ノ事業ノ所在地數府縣ニ亙ル場合ニ於テハ之ヲ管轄スル退職金審査會ハ厚生大臣之ヲ指定ス

第三十一條　審査ノ請求ハ請求ノ趣旨ヲ明ニシテ之ヲ爲スヘシ

前項ノ請求ハ文書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得

第三十二條　審査ノ委員半數以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第三十四條　審査ハ之ヲ公開セス

第三十五條　工場監督官、鑛務監督官其ノ他ノ關係官吏ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十六條　審査請求人又ハ關係人ハ退職金審査會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ事件ニ關スル說明ヲ爲スコトヲ得

第三十七條　退職金審査會審査ノ請求ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄遠ナルトキハ會長ハ之ヲ所轄退職金審査會ニ移送スヘシ

第三十八條　審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第三十九條　退職金審査會ハ前條ノ決定書ノ謄本ヲ作成シ遲滯ナク之ヲ審査請求人ニ交付スヘシ審査請求人ニ對シ決定書ノ謄本ヲ交付スルコト能ハサルトキハ退職金審査會ハ其ノ決定書ノ謄本ヲ掲示板ニ掲示スヘシ

第四十條　審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求ノ手續ヲ受繼クモノトス

附　則

本令ハ退職積立金及退職手當法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年一月一日ヨリ施行）

退職積立金及退職手當法適用後初テ第八條第二項ノ規定ニ依リ賃金ヨリ控除スヘキ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

退職積立金及退職手當法適用後初テ同法第十六條及第十七條ノ規定ニ依リ積立ツヘキ退職手當積立金ノ額ハ同法適用後ノ勤務ニ對スル賃金ニ依リ之ヲ計算スルコトヲ得

●退職積立金及退職手當法施行規則

（昭和十一年十一月三十日　内務省令第四十六號）

第一條　退職積立金及退職手當法（以下法ト稱ス）第一條ノ規定ニ依リ法ノ適用ヲ受クルニ至リタル事業ノ事業主ハ左ニ掲クル事項ヲ十日以內ニ地方長官（東京府ニ在リテハ警視總監以下之ニ同シ）ニ屆出ツヘシ第一號又ハ第二號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ニ付亦同シ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所（法人タル事業主ニ在リテハ其ノ名稱、主タル事務所ノ所在地及代表者ノ氏名以下之ニ同シ）

三　常時使用勞働者數

四　法ノ適用ヲ受クルニ至リタル年月日

第二條　事業主其ノ事業ヲ廢止シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三條　法第二條ノ屆出ハ左ニ掲クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　常時使用勞働者數

四　法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル事由

五　退職積立金及退職手當積立金ノ現在高竝ニ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ヲ有スルモノニ在リテハ準備積立金ノ現在高及支給スヘキ退職手當ノ金額

第四條　法第三條第一項ノ許可ノ申請ハ退職積立金、退職手當積立金又ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ掲クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　常時使用勞働者數

法第三條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ掲クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　規定ヲ廢止又ハ變更セントスル理由

二　規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程及前條第五號ノ事項、規程ヲ變更セントスル場合ハ其ノ規程

第五條　營業ノ讓渡其ノ他ノ事由ニ因リ事業ノ承繼アリタル場合ニ於テ勞働者ノ全部カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ積立金ノ全部ニ付、勞働ノ一部カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ左ノ各號ノ積立金ニ付從前ノ事業主及承繼人ハ名義ノ變更其ノ他必要ナル手續ヲ爲スヘシ

一　引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ニ屬スル退職積立金

二　退職手當積立金中勞働者別ニ計算ヲ明ニシタルモノニ付テハ引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ノ計算ニ屬スル金額

三　退職手當積立金中特別手當積立金トシテ保留シタルモノニ付テハ各勞働者ノ標準賃金ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ニ付得タル金額

四　準備積立金ニ付テハ各勞働者ノ標準賃金ニ勤續年數ヲ乘シタル額ニ之ヲ按分シ引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者ニ付得タル金額

前項ノ場合ニ於テ勞働者ノ一部カ引續キ承繼人ニ使用セラルルトキハ法第十九條第二項又ハ法第二十八條ノ規定ニ依ル計算又ハ積立ハ事業ノ承繼アリタル日ヲ以テ計算又ハ積立ノ期日到來シタルモノト看做シ之ヲ爲スヘシ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合亦同シ

第六條　承繼人ハ從前ノ事業主トノ連署ヲ以テ左ニ掲クル事項ヲ事業ノ承繼アリタル日ヨリ十日以內ニ地方長官ニ屆出ツヘシ

連署スルコト能ハサルトキハ其ノ旨ヲ附記スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主(事業ノ承繼人及從前ノ事業主)ノ氏名及住所
三　事業ノ承繼ノ事由及全部承繼又ハ一部承繼ノ別
四　引續キ承繼人ニ使用セラルル勞働者數
五　承繼シタル積立金

第七條　退職積立金及退職手當法施行令(以下令ト稱ス)第二條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　使用勞働者現在數
四　標準報酬日額ノ平均額
五　勞働者一人當リ一日ノ勞働ニ對スル賃金ノ平均額
六　報酬日額四圓ヲ超ユル勞働者數

第八條　事業主ハ毎年二月十五日迄ニ前年ニ於ケル退職積立金退職手當積立金及準備積立金ノ積立竝ニ退職積立金ノ支拂及退職手當又ハ之ニ代ルヘキモノノ支給ノ狀況ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九條　法ノ適用ヲ受クル事業カ事業ノ廢止其ノ他ノ事由ニ因リ法ノ適用ヲ受ケサルニ至リタル場合ハ事業主ハ遲滯ナク退職積立金ノ支拂及退職手當ノ支給ヲ完了シタル上其ノ顚末ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第十條　令第五條第二項ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業經營ノ主體
三　常時使用勞働者數
四　退職積立金又ハ退職手當ニ關スル規程
五　組合ノ組織(組合規約又ハ之ニ準スヘキモノヲ添附スルコト)
六　退職積立金ニ代ルヘキ事項
七　退職手當ノ支給ニ代ルヘキ事項

令第五條第二項ノ規定ニ依リ許可ヲ受ケタルモノハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ヲ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第十一條　事業主ハ退職積立金臺帳ヲ調整シ勞働者別ニ左ニ揭クル事項及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　退職積立金トシテ控除シタル金額
二　退職積立金トシテ積立テタル金額
三　退職積立金ヨリ生シタル利子
四　積立方法別金額
五　退職積立金ヲ運用シタル金額及退職積立金ヘ積戻シタル金額

第十二條　法第十一條第二項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ

具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　災害其ノ他已ムヲ得サル事由ノ具體的事項及積立ノ程度

第十三條　法第十三條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　運用セントスル金額及期間
四　支拂又ハ積戻ノ確保ニ關スル方法
五　利　率

第十四條　法第十三條第二項又ハ第三項ノ規定ニ依リ供託ヲ命セラレタル事業主ハ事業ノ所在地ニ於テ供託ヲ爲スヘシ

前項ノ事業主供託ヲ爲シタルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書ノ寫ヲ添附シ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

地方長官法第十三條第四項ノ權利ノ實行ニ關シ必要アリト認ムルトキハ供託國債受入ノ記載アル供託書又ハ退職積立金ニ關スル帳簿ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十五條　事業主ハ退職手當積立金臺帳ヲ調製シ左ニ揭クル事項及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　法第十六條ノ規定ニ依リ退職手當積立金トシテ積立テタル金額
二　法第十七條ノ規定ニ依リ退職手當積立金トシテ積立テタル金額
三　退職手當積立金ヨリ生シタル利子及餘剩ヲ積立テタル金額
四　退職手當積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額
五　積立方法別金額
六　退職手當積立金ヲ運用シタル金額及退職手當積立金ヘ積戻シタル金額

第十六條　事業主ハ退職手當積立金勞働者別明細簿ヲ調製シ勞働者毎ニ法第十六條、法第十七條及法第十九條ノ積立金(法第二十八條ノ積立金ヲ含ム)別ニ積立タル金額及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十七條　事業主ハ特別手當積立金明細簿ヲ調製シ特別手當積立金トシテ保留シタル金額、特別手當トシテ支給シタル金額及退職手當積立金ニ充當シタル金額竝ニ其ノ年月日ヲ記載スヘシ

第十八條　第十二條ノ規定ハ法第十六條第二項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十九條　法第十七條ノ認可ノ申請ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後

一月以內ニ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ認可ノ申請ハ當該事業年度又ハ曆年終了前ニ豫メ之ヲ爲スコトヲ得

第二十條　前條第一項ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　期間末ニ於ケル勞働者數及其ノ期間中ノ賃金ノ額

四　積立テントスル退職手當積立金ノ金額及前號ノ賃金ノ額ニ對スル割合

五　法人タル事業主ニ在リテハ事業年度ニ於ケル拂込株金額又ハ出資金額、利益配當金額及利益配當金額ヲ拂込株金額又ハ出資金額ニ依リ除シタル年割合、個人タル事業主ニ在リテハ曆年ニ於ケル事業ノ純益金額

前條第二項ノ認可申請書ニハ前項第一號及第二號ノ事項竝ニ退職手當積立金ノ額ヲ定ムル標準ヲ記載スヘシ

第二十一條　事業主第十九條第二項ノ規定ニ依リ法第十七條ノ認可ヲ受ケタル場合ハ法人タル事業主ニ在リテハ當該事業年度、個人タル事業主ニ在リテハ當該曆年終了後遲滯ナク前條第一項各號ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二十二條　法第十七條但書ノ許可ノ申請ハ第二十條第一項第一號乃至第三號及第五號ノ事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

第二十三條　法第十八條但書ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地

二　事業主ノ氏名及住所

三　勞働者別計算ノ標準

第二十四條　事業主ハ豫メ法第十九條第二項ノ一定ノ計算期ヲ定メ地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ計算期ハ每年一回以上タルコトヲ要ス

法第十九條第一項ノ退職手當積立金ニシテ勞働者別ニ計算ヲ明ニセサル金額ハ當該計算期ニ於ケル勞働者ノ直前ノ計算期ニ於テ勞働者別ニ計算ノ明ナル退職手當積立金ノ額及直前ノ計算期ニ於ケル特別手當積立金ノ額ニ之ヲ按分シテ計算ヲ明ニスヘシ

第二十五條　第十三條ノ規定ハ法第二十一條第一項ノ許可ノ申請ノ場合ニ之ヲ準用ス

第二十六條　第十四條ノ規定ハ法第二十一條第二項、法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第十三條第二項乃至第五項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十七條　勞働者左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ事業ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第二十八條　勞働者勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

一　事業ノ風紀ヲ甚シク紊シタルコト

二　業行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勞務ニ不熱心又ハ勞務ニ就カサルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

勞働者勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スルコトヲ得

第二十九條　勞働者勤續三年未滿ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトヲ得

勞働者勤續三年以上十年未滿ニシテ自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ法第二十四條第一項ノ退職手當ハ之ヲ減額シテ支給スルコトヲ得但シ二分ノ一ヲ超エテ減額スルコトヲ得ス

勞働者退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前二項ノ規定ハ之ヲ適用セス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲業務ニ堪ヘサルトキ

二　就業規則又ハ之ニ準スヘキモノニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女子勞働者カ結婚スルトキ

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第三十條　勞働者禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルニ依リ又ハ第二十七條各號若ハ第二十八條第一項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ法第二十六條第一項ノ特別手當ハ

之ヲ加算スルコトヲ要セス

第三十一條　法第二十七條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數
四　特別手當積立金ノ限度ト爲サントスル金額
五　健康保險法ニ依リ使用勞働者ニ付定メタル標準報酬日額ノ合計額

法第二十七條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ常時使用勞働者數ニ著シキ增加アリタルトキハ前項第三號及第五號ノ事項ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十二條　第二十四條第三項ノ規定ハ法第二十八條第一項ノ規定ニ依リ餘剩ヲ積立ツル場合ニ之ヲ準用ス

第三十三條　法第三十條第一項ノ許可ノ申請ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ準備積立金ニ關スル規程ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業主ノ名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數

法第三十條第二項ノ許可ノ申請ハ前項各號ノ事項ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　規程ヲ廢止又ハ變更セントスル理由
二　規程ヲ廢止セントスル場合ハ其ノ廢止ニ關スル規程及準備積立金ノ現在高、規程ヲ變更セントスル場合ハ其ノ規程

第三十四條　第二十七條乃至第三十條ノ規定ハ法第三十條第三項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十五條　第十三條ノ規定ハ法第三十條第四項又ハ法第四十二條ノ規定ニ依リ法第二十一條ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條　第二十四條第一項及第二項ノ規定ハ法第三十條第四項ノ規定ニ依リ法第二十八條第一項ノ規定ヲ準用スル場合ニ之ヲ準用ス

第三十七條　法第四十一條第一項ノ許可ノ申請ハ左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數
四　退職手當ニ關スル規程
五　組合ノ組織（組合規約又ハ之ニ準スヘキモノヲ添附スルコト）
六　退職積立金ニ代ルヘキ事項

七　退職手當ノ支給ニ代ルヘキ事項

法第四十一條第一項ノ許可ヲ受ケタル事業主ハ前項第四號乃至第七號ノ事項ニ變更アリタルトキハ其ノ事項ヲ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

第三十八條　法第四十二條ノ許可ノ申請ハ退職手當及之カ支給ニ充ツル爲ノ標準積立金ニ關スル規程ノ外左ニ揭クル事項ヲ具シ地方長官ニ之ヲ爲スヘシ

一　事業ノ名稱、種類及所在地
二　事業主ノ氏名及住所
三　常時使用勞働者數
四　法施行前ヨリ引續キ使用スル勞働者數

第三十九條　事業主ハ準備積立金臺帳ヲ調製シ左ニ揭クル事項及其ノ年月日ヲ記載スヘシ

一　準備積立金トシテ積立テタル金額
二　準備積立金ヨリ生シタル利子及餘剩ヲ積立テタル金額
三　準備積立金中ヨリ退職手當トシテ支給シタル金額
四　積立方法別金額
五　準備積立金ヲ運用シタル金額又準備積立金ヘ積戻シタル金額

第四十條　事業主ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事項ノ要領ヲ平易ニ記述シ適宜ノ方法ヲ以テ之ヲ勞働者ニ周知セシムヘシ

第四十一條　第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ帳簿ハ之ヲ合併スルコトヲ妨ケス

第四十二條　退職積立金及退職手當ニ關スル帳簿其ノ他重要ナル書類ハ事業每ニ之ヲ備置クヘシ

前項ノ帳簿又ハ書類ハ退職積立金及退職手當ニ關スル事業主ノ義務ヲ完了シタル日ヨリ三年間之ヲ保存スヘシ

第四十三條　事業主ハ法又ハ法ニ基ク命令ノ規定ニ依リ事業主ノ爲スヘキ事業ニ付豫メ代理人ヲ選任シタルトキハ其ノ旨ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四十四條　本令中地方長官トアルハ鑛業法ノ適用ヲ受クル事業ニ在リテハ鑛山監督局長トス

第四十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

一　第一條、第二條、第六條、第八條、第十四條第二項（第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第二十一條、第二十四條第一項（第三十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）、第三十一條第二項又ハ第三十七條第二項ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ若ハ其ノ屆出ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者
二　第五條ノ規定ニ依ル手續ヲ怠リタル者
三　第十一條、第十五條乃至第十七條又ハ第三十九條ノ規定

ニ依ル帳簿ノ調製若ハ記載ヲ怠リ又ハ虛僞ノ記載ヲ爲シタル者

四　第十四條第三項（第二十六條ニ於テ準用スル場合ヲ含ム）ノ規定ニ依ル命令ニ從ハサル者

五　第四十條又ハ第四十二條ノ規定ニ違反シタル者

附　則

本令ハ法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス（昭和十二年一月一日ヨリ施行）

●退職積立金及退職手當法ニ關スル事務取扱方針

退職積立金及退職手當法

第十一條第二項

一　積立ノ減額又ハ免除ハ客觀的ニ明ナル具體的事由ニ付テハ豫メ許可ヲ爲スコトヲ得ルコト

二　抽象的ナル事由ニ付テハ豫メ許可ヲ爲ササルコト

備　考

(1)　一月ノ勞働日數十日以下（事業ノ狀況ニ依リ七日以下又ハ五日以下等適宜縮少スルコト）ナル場合ニ付テハ積立ヲ爲ササルコトハ豫メ許可ヲ爲シ得ルコト

(2)　「災害」、「其ノ他ノ已ムヲ得サル事由」ノ如ク抽象的ナル事由ニ對シテハ豫メ許可ヲ爲ササルコト

第十三條

一　運用ノ許可ノ場合利子ノ定率ハ工場法施行令第二十四條ノ强制貯蓄ノ利率ニ依ルコト但シ特別ノ事由アル場合ハ其ノ利率ヲ低下スルコトヲ認メ得ルコト此ノ場合ニ於テハ勞働部ニ協議スルコト

二　國債ノ供託ハ額面金額ニ依リ之ヲ命スルコト

三　供託スヘキ國債ノ額ハ事業ノ實情ニ依リ之ヲ決定シ必スシモ運用金ノ全額ト同額（時價）ノ供託ヲ命スルヲ要セサルコト、確實ナル保證人ノアル場合ハ供託額ヲ減シ又ハ之ヲ命セサルコトヲ得ルコト

四　運用ノ許可ハ金額ヲ限リ之ヲ爲スコト、將來積立テラルヘキ退職積立金ヲ含マシムルコトヲ得ルコト

第十六條第二項

許可ハ災害又ハ之ニ準スヘキ事由ニ因リ積立ヲ困難ト認ムル場合ニ限リ之ヲ爲シ單ニ缺損ヲ事由トシテ之ヲ爲ササルコト

第十七條

一　認可ハ施行令第十七條ノ標準ニ依リ豫メ之ヲ爲シ得ルコト

（個人タル事業主ニ在リテハ純益金額ハ事業主ノ算定スル所ニ依リ積立ヲ爲シ稅務署ノ決定シタル金額ニ照シ積立金ニ不足アル場合ハ遲滯ナク其ノ額ヲ積立ツヘキ旨ヲ定メシムルコト）

二　但書ノ許可ハ事業年度（又ハ曆年）毎ニ受クルコトヲ要スルコトトシ豫メ許可ヲ爲ササルコト

第十八條

但書ノ許可ハ法第十七條ノ退職手當積立金ノ少クトモ半額ヲ標準報酬日額ニ比例シ殘餘ヲ勤務年限、勤務狀態等ニ依リ勞働者別ニ計算ヲスル場合ニ限リ之ヲ爲スコト

第二十一條

一　法第十三條ノ取扱方針一乃至四ニ準スルコト

二　退職手當積立金カ退職手當ノ支給ニ支障ヲ來ササル樣運用ノ金額ヲ制限スルコト

第二十七條

一　特別手當積立金ノ限度ニ付テハ使用勞働者ノ標準報酬日額二十日分ノ合計額以上ヲ標準トシテ許可スルコト

二　特別手當ヲ支給スル場合僅少ナル事業ハ其ノ經營堅實ナルモノニ限リ右ノ標準ヲ下ケテ許可スルコトヲ得ルコト

第三十條

一　既存ノ退職手當ノ規程ハ成ルヘク之ヲ本條ニ依ル規程ニ取入レシムルコト

二　勤續年數ノ計算ハ月割計算トスルコト

三　退職手當規程ハ從來ノ規程カ定額賃金ニ依リ支給日數ヲ定メタルトキハ便宜之ヲ認ムルコト但シ退職手當支給額カ標準賃金ニ換算シテ法第三十條第三項ノ標準ヲ下リタルトキハ其ノ額迄補給スル旨ヲモ規定セシムルコト

四　同一ノ事業主ノ工場又ハ鑛山カ他府縣ニモ在ル場合ニ於テ同一ノ退職手當規程ヲ定メントスル希望アル場合ハ勞働部ニ協議ノ上許可スルコト

五　準備積立金規程ニ定ムル積立率ハ概ネ賃金ノ百分ノ三・三以上トスルコト

六　第三十條ノ準備積立金ト第四十二條ノ準備積立金トハ退職手當規程カ共通ナル場合ニハ其ノ計算モ之ヲ共通ニスルコトヲ得ルコト、但シ此ノ場合ニハ成ルヘク第四十二條ニ依リ積立テタル金額ヲ法適用前ノ勤務ニ對スル退職手當ニ充當スル方針ニ依リ準備積立金ノ現在高ニ付留意スルコト右ノ場合ニ於テ各準備積立金ノ率ハ別ニ之ヲ定ムルコト

第四十一條

一　退職手當ニ關スル規程ニハ勞働者ノ負擔部分カ本法ノ退職積立金ニ相當シ、事業主ノ負擔部分カ法第三十條ノ退職手當（第三十條ノ取扱方針參照）ニ相當スルモノヲ定ムルコトヲ要スルコト

二　許可ニ付テハ意見ヲ附シ勞働部ニ協議スルコト

退職積立金及退職手當法施行令

第九條

第一項但書ノ規定ニ依ル積立ノ許可ハ通常ノ事業ニ在リテハ二月又ハ三月ニ一度ヲ標準トスルコト、特ニ確實ナル事業ニ在リテ特別ノ事情アル場合ニハ更ニ延長ヲ認メ得ルコト

第十條

一　郵便貯金ノ方法ヲ許可スル際ニハ積立期ヲ三月ニ一度トスルコトヲ原則トシ郵便局ニ於テ支障ナキ場合ハ之ヲ短縮スルコトヲ認ムルコト

二　銀行預金又ハ金錢信託ノ方法ノ許可ノ申請書ニハ銀行名又ハ信託會社名ヲ記載セシムルコト

三　「其ノ他確實ナル方法」ハ當分ノ間之ヲ許可セサルコト

四　支拂ニ關スル事業主ノ證明ハ事業主個人ノ氏名ニ依ラシテ事業主タルコトヲ表示シ得ル抽象的名稱（例ヘハ「〇〇株式會社〇〇工場」）ニ依ルコトヲ得ルコト

五　登錄國債ノ方法ハ百圓以上ノ金額ニ非サレハ之ヲ許可セサルコト

第十七條

一　積立金額ノ更正認可ハ法人タル事業主ニ在リテハ認可申請書ニ記載シタル配當率カ事實ニ相違シ又ハ利益配當金額カ所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額ニ照シ相違アリト認ムルトキニ於テ之ヲ爲シ、個人タル事業主ニ在リテハ認可申請書ニ記載シタル純益金額カ營業收益稅法ニ依リ決定シタル純益金額（鑛業ニ在リテハ所得稅法ニ依リ決定シタル所得金額）ニ照シ相違アリト認ムルトキニ於テ之ヲ爲スコト

二　認可ノ際利益配當金額又ハ純益金額ニ付疑アルトキハ積立金額ノ變更ヲ命スルコトアルヘキ旨ノ條件ヲ附スルコト

退職積立金及退職手當法施行規則

第一條乃至第三條

第一條ノ適用屆、第二條ノ事業廢止屆又ハ第三條ノ適用廢止屆アリタルトキハ其ノ屆出事項ノ要領ヲ取纏メ稅務監督局長ニ通知スルコト

第八條

一　屆出ハ樣式第一號ニ依ラシムルコト（共濟組合ノ給與ヲ以テ本法ノ制度ニ代フル場合ハ其ノ支給狀況ヲ樣式第一號ニ準シテ屆出テシムルコト）

二　法第九條ニ依リ法ノ適用ヲ受クル事業主ハ本條ノ適用ヲ受クルモノナルコト

第九條

屆出ハ樣式第一號ニ依ラシムルコト（此ノ場合ニ於テハ其ノ年ノ一月以降ノ狀況ヲ記載セシムルコト）

第十一條

退職積立金臺帳ハ樣式第二號ヲ參考トシテ適當ナルモノヲ作成セシムルコト

第十五條　退職手當積立金臺帳ハ樣式第三號ヲ參考トシテ適當ナルモノヲ作成セシムルコト

第十六條　退職手當積立金勞働者別明細簿ハ樣式第四號ヲ參考トシテ適當ナルモノヲ作成セシムルコト

第十七條　特別手當積立金明細簿ハ樣式第五號ヲ參考トシテ適當ナルモノヲ作成セシムルコト

第二十七條及第二十八條

第二十七條第五號ニ該當スル「背信行爲」及第二十八條第五號ニ該當スル「特ニ不都合ナル行爲」ニ付事業主退職手當規程ニ具體的ニ之ヲ列擧スルコトヲ認ムヘキ事項ハ勞働部ニ協議スルコト

第二十九條

一　女子勞働者カ結婚スルトキ退職スルモノト認ムヘキハ退職後六ケ月以內ニ結婚スル場合ニ限ルモノトスルコト但シ事業主ニ於テ特別ノ事情アリト認メタルトキハ其ノ期間ヲ延長スルコトヲ得ルコト

二　事業主ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ヲ要求シ得ルコト

第三十九條

準備積立金及退職手當積立金臺帳ハ樣式第六號ヲ參考トシテ適當ナルモノヲ作成セシムルコト

第四十條

退職積立金及退職手當ニ關スル事項ノ要領中ニハ少クトモ左ノ事項ヲ記載セシムルコト

イ　退職積立金トシテ積立ツヘキ金額及之ヲ賃金ヨリ控除スル期日

ロ　退職手當ノ支給額

ハ　退職手當ヲ支給セサル場合又ハ減額シテ支給スル場合

第四十一條

第十一條及第十六條ノ帳簿ノ合併ニ付テハ參考樣式參照ノコト、他ノ帳簿ヲ合併スル場合ニ於テモ參考樣式ニ準シ相互ノ記載事項ハ明確ニ分別スルコトヲ要スルコト

●退職積立金及退職手當法ニ關スル規程準則

準則第一

退職積立金及退職手當規程

第一章　總則

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル退職積立金ノ積立、退職手當積立金ノ積立及退職手當ノ支給ハ本規程ニ依リ之ヲ爲ス

第二條　本規程ハ當會社（工場）（鑛山）ニ使用セラルル職工（鑛夫）ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日々雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第二章　退職積立金

第三條　當會社ハ職工ノ每月ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル每月○日ニ支拂ハルヘキ賃金ヨリ控除シ職工（鑛夫）ノ名義ヲ以テ退職積立金トシテ每年三月、六月、九月及十二月ニ取纏メ郵便局（○○銀行ニ）預入ル

通帳（證書）ハ當會社ニ於テ之ヲ保管ス

第四條　一月ノ勞働日數○日以下ナルトキハ其ノ月ノ退職積立金ノ控除ヲ爲サス

災害其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキハ許可ヲ受ケ退職積立金ノ控除ヲ爲サス又ハ減額シテ控除スルコトアルヘシ

第五條　職工退職（解雇ヲ含ム）又ハ死亡シタルトキハ遲滯ナク通帳ヲ返還ス

第三章　退職手當

第六條　當會社ハ每事業年度末（六月末日及十二月末日）ニ於ケル職工其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額及其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ三以內ニ於テ認可ヲ得タル金額ヲ退職手當積立金トシテ郵便局（○○銀行）ニ預入ル

第七條　退職手當積立金ハ六月末日及十二月末日ニ於テ其ノ期間中ノ賃金ニ比例シテ職工別ニ計算ヲ明ニス

第八條　職工退職又ハ死亡シタルトキハ左ノ各號ノ金額ヲ退職手當トシテ支給ス

一　第七條ノ規定ニ依リ其ノ職工ノ計算ニ屬スル金額

二　第六條ノ積立ノ最後ノ期間後ノ賃金ノ百分ノ二ニ相當スル金額

第九條　勤續三年未滿ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

勤續三年以上（十年未滿）ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第十條　職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ト看做サス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二　當會社ノ定ムル就業規則（雇傭勞役規則）ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク（尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ）

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第十一條　職工勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第八條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルトキ

第十二條　職工勤續三年以上十年未滿ニシテ前各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第八條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第十三條　第九條、第十一條又ハ第十二條ノ規定ニ依リテ支給スルコトヲ要セサル金額ヲ生シタルトキハ特別手當積立金トシテ之ヲ保留ス

第十四條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ退職手當トシテ第八條ノ金額ノ外特別手當積立金ノ存スル限度ニ於テ左ノ各號ノ一ニ達スル迄ノ金額（特別手當）ヲ加算シテ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第十一條第一項各號及第十二條各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ之ヲ加算セサルコトアルヘシ

一　勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二　勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

特別手當ヲ受クヘキ者一人以上アル場合ニ於テ特別手當積立金カ前項各號ノ金額ヲ支給スルニ足ラサルトキハ其ノ支給ヲ受クヘキ者ノ前項各號ノ金額ニ按分シ特別手當ノ金額トス

第十五條　勤續期間ノ計算ハ職工傭入ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ本規程施行前ヨリ引續キ使用セラルル者ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ起算ス

第十六條　職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金及退職手當法施行令ノ定ムル順位ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

附　則

本規定ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

準則第二

退職手當及準備積立金規程（其ノ一）

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル當會社（工場）（鑛山）ノ退職手當ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　本規程ハ當會社ニ使用セラルル職工（鑛夫）ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第三條　本規程ニ於テ標準賃金トハ退職時ニ於テ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ヲ謂フ

前項ノ標準報酬日額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シ適當ナル額ヲ當會社ニ於テ定ム

第四條　職工退職又ハ死亡シタルトキハ勤續一年ニ付標準賃金〇〇日分ニ相當スル退職手當ヲ支給ス

前項ノ退職手當ハ在職中功勞アリタル職工ニハ之ヲ增額スルコトアルヘシ

第五條　勤續三年未滿ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

勤續三年以上十年未滿（六年未滿）ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第六條　職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ニ依ル退職ト看做サス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二　當會社ノ定ムル就業規則（雇傭勞役規則）ニ依リ定ムル停

年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク（倘當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ）

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第七條　職工勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　工場ノ風紀ヲ甚シク素シタルコト

二　素行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勤務ニ不熱心又ハ勤務ニ就カサルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル行爲アリタルコト

職工勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一ニ迄減額スルコトアルヘシ

第八條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ依リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第九條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ左ノ特別手當ヲ加算シテ之ヲ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第七條第一項各號、第八條各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ之ヲ加算セサルコトアルヘシ

一　勤續一年以上三年未滿ノ者ニ付テハ標準賃金二十日分ニ相當スル金額

二　勤續三年以上ノ者ニ付テハ標準賃金三十五日分ニ相當スル金額

第十條　勤續期間ノ計算ハ職工傭入ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ本規程施行前ヨリ引續キ使用セラルル者ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ起算ス

勤續期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十一條　職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金及退職手當

法施行令ノ定ムル所ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十二條　當會社ハ退職手當支給ニ充ツル爲準備積立金トシテ每事業年度末（六月末日及十二月末日）ニ於ケル職工ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ〇ニ相當スル金額ヲ郵便局（〇〇銀行）ニ預入ル

前項ノ準備積立金ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ運用スルコトアルヘシ

附　則

本規程ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規程職工ノ勤務ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ退職手當ヲ支給ス

準則第三

退職手當及準備積立金規程（其ノ二）

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル當會社（工場）（鑛山）ノ退職手當ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　本規程ハ當會社ニ使用セラルル職工（鑛夫）ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第三條　本規程ニ於テ標準賃金トハ退職時ニ於テ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ヲ謂フ

前項ノ標準報酬日額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ從前ノ報酬日額其ノ他ヲ斟酌シ適當ナル額ヲ當會社ニ於テ定ム

第四條　職工死亡シタルトキハ別表第一號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス但シ第五條又ハ第七條乃至第九條ニ規定スル場合ハソノ規定ニ依ル

第五條　職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ別表第二號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス

第六條　職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ニ依ル退職ト看做サス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二　當會社ノ定ムル就業規則（雇傭勞役規則）ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

二　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但シ退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク（尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ）

五　其ノ他已ムヲ得サル事由アルトキ

第七條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ別表第三號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス

一　工場風紀ヲ甚シク素シタルコト

二　素行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勤務ニ不熱心又ハ勤務ニ就カサルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

第八條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ退職手當ヲ支給セス

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナル事

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第九條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ別表第四號表ニ依リ退職手當ヲ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第七條各號及前條各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十條　職工在職中功勞アリタル場合又ハ同情スヘキ事由アリト認メタル場合ハ前六條ノ規定ニ拘ラス退職手當ヲ增額シ又ハ特ニ支給スルコトアルヘシ

第十一條　勤續期間ノ計算ハ職工傭入ノ日ヨリ之ヲ起算ス但シ本規程施行前ヨリ引續キ使用セラルル者ニ在リテハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ計算ス

勤續期間一年未滿ノ端數ハ月割ヲ以テ之ヲ計算ス

第十二條　職工死亡シタル場合ニ於テハ退職積立金又退職手當法施行令ノ定ムル所ニ依リ退職手當ハ遺族又ハ職工ノ死亡當時其ノ收入ニ依リ生計ヲ維持シタル者ニ之ヲ支給ス

第十三條　當會社ハ退職手當支給ニ充ツル爲準備積立金トシテ每事業年度末（六月末日及十二月末日）ニ於ケル職工ノ其ノ期間中ノ賃金ノ百分ノ〇ニ相當スル金額ヲ郵便局（〇〇銀行）ニ預入ル

前項ノ準備積立金ハ監督官廳ノ許可ヲ受ケ之ヲ運用スルコトアルヘシ

附　則

本規程ハ昭和十二年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規程施行前ノ職工ノ勤務ニ對シテハ別ニ定ムル所ニ依リ退職手當ヲ支給ス

第一號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
一年未滿	一日ニ付一・二五ノ割合	
滿一年	一五	
同二年	三〇	
同三年	四五	一・二五
同四年	六〇	
同五年	七五	
同六年	九〇	
同七年	一〇五	
同八年	一二三	
同九年	一四一	
同十年	一五九	一・五〇
同十一年	一七七	（七年ヲ超ユル部分）
同十二年	一九五	
同十三年	二一三	
同十四年	二三一	

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
滿十五年	二五五	
同十六年	二七九	
同十七年	三〇三	
同十八年	三二七	
同十九年	三五一	
同二十年	三七五	
同二十一年	三九九	
同二十二年	四二三	二・〇〇
同二十三年	四四七	（十四年ヲ超ユル部分）
同二十四年	四七一	
同二十五年	四九五	
同二十六年	五一九	
同二十七年	五四三	
同二十八年	五六七	
同二十九年	五九一	

台本

第二號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
一年未滿	—	
滿一年	—	—
同二年	—	
同三年	二二・五	
同四年	三〇	
同五年	三七・五	〇・六二五
同六年	四五	
同七年	五二・五	
同八年	一二三	
同九年	一四一	
同十年	一五九	一・五〇
同十一年	一七七	（七年ヲ超ユル部分）
同十二年	一九五	
同十三年	二一三	
同十四年	二三一	

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
滿十五年	二五五	
同十六年	二七九	
同十七年	三〇三	
同十八年	三二七	
同十九年	三五一	
同二十年	三七五	
同二十一年	三九九	
同二十二年	四二三	二・〇〇
同二十三年	四四七	（十四年ヲ超ユル部分）
同二十四年	四七一	
同二十五年	四九五	
同二十六年	五一九	
同二十七年	五四三	
同二十八年	五六七	
同二十九年	五九一	

台本

第三號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數
一年未滿	一	一
滿一年	一	
同二年	一	
同三年	二二・五	〇・六二五
同四年	三〇	
同五年	三七・五	
同六年	四五	
同七年	五二・五	
同八年	六〇	
同九年	六七・五	
同十年	一五〇	一・二五
同十一年	一六五	
同十二年	一八〇	
同十三年	一九五	
同十四年	二一〇	
滿十五年	二二五	一・二五
同十六年	二四三	一・五〇（十五年ヲ超ユル部分）
同十七年	二六一	
同十八年	二七九	
同十九年	二九七	
同二十年	三一五	
同二十一年	三三九	二・〇〇（二十年ヲ超ユル部分）
同二十二年	三六三	
同二十三年	三八七	
同二十四年	四一一	
同二十五年	四三五	
同二十六年	四五九	
同二十七年	四八三	
同二十八年	五〇七	
同二十九年	五三一	

第四號表

勤續年數	支給日數	一月當リ支給日數（特別手當ヲ除ク）
一年未滿	（一月ニ付一・二五ノ割合）	一・二五
滿一年	三五	
同二年	五〇	
同三年	八〇	
同四年	九五	
同五年	一一〇	
同六年	一二五	
同七年	一四〇	
同八年	一五八	一・五〇（七年ヲ超ユル部分）
同九年	一七六	
同十年	一九四	
同十一年	二一二	
同十二年	二三〇	
同十三年	二四八	
同十四年	二六六	
滿十五年	二九〇	二・〇〇（十四年ヲ超ユル部分）
同十六年	三一四	
同十七年	三三八	
同十八年	三六二	
同十九年	三八六	
同二十年	四一〇	
同二十一年	四三四	
同二十二年	四五八	
同二十三年	四八二	
同二十四年	五〇六	
同二十五年	五三〇	
同二十六年	五五四	
同二十七年	五七八	
同二十八年	六〇二	
同二十九年	六二六	

準則第四

退職手當及準備積立金規程（其ノ三）

（法第三十條及法第四十二條ノ許可ヲ受ケ本法施行前ノ勤務ト本法施行後ノ勤務ニ對シ同一規程ニ依リ退職手當ヲ支給スル場合）

第一條　退職積立金及退職手當法ニ依ル當會社（工場）（鑛山）ノ退職手當ハ本規程ニ依リ之ヲ支給ス

第二條　本規程ハ當會社ニ使用セラルル職工（鑛夫）ニ之ヲ適用ス但シ六月以內ノ期間ヲ定メテ使用セラルル者及日日雇入レラルル者ヲ除外ス

前項但書ノ者六月ヲ超エテ引續キ使用セラルルニ至リタルトキハ其ノ時ヨリ其ノ者ニ付本規程ヲ適用ス

第三條　本規程ニ於テ標準賃金トハ退職時ニ於テ健康保險法ニ基キ其ノ者ニ付定メタル標準報酬日額ヲ謂フ

前項ノ標準報酬日額カ負傷、疾病、老衰其ノ他ノ事由ニ因リ從前ニ比シ著シク低額ナルトキハ從前ノ標準報酬日額其ノ他ヲ斟酌シ適當ナル額ヲ當會社ニ於テ定ム

第四條　職工退職又ハ死亡シタルトキハ勤續一年ニ付標準賃金〇〇日分ニ相當スル退職手當ヲ支給ス

前項ノ退職手當ハ在職中功勞アリタル職工ニハ之ヲ增額スルコトアルヘシ

第五條　勤續三年未滿ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

勤續三年以上十年未滿（七年未滿）ノ職工自己ノ都合ニ依リ退職シタルトキハ前條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一ニ減額スルコトアルヘシ

第六條　職工退職ヲ申出テタル場合ト雖モ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ前條ノ自己ノ都合ニ依ル退職ト看做サス

一　負傷、疾病又ハ老衰ノ爲メ業務ニ堪ヘサルトキ

二　當會社ノ定ムル就業規則（雇傭勞役規則）ニ依リ定ムル停年ニ達シタルトキ

三　陸海軍ニ徵集又ハ召集セラレタルトキ

四　女工結婚スルトキ但退職後六月以內ニ結婚セサルトキヲ除ク（尙當會社ニ於テ必要アリト認ムルトキハ結婚ノ事實ノ證明ヲ求メ場合ニ依リテハ戶籍謄本又ハ戶籍抄本ノ提出ヲ求ムルコトアルヘシ）

五　其ノ他己ムヲ得サル事由アルトキ

第七條　職工勤續三年未滿ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　工場ノ風紀ヲ著シク紊シタルコト

二　素行著シク不良ナルコト

三　戒告數回ニ及フモ仍出勤常ナラサルコト

四　戒告數回ニ及フモ仍怠慢ニシテ勤務ニ不熱心又ハ勤務ニ就カサルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ特ニ不都合ナル行爲アリタルコト

職工勤續三年以上十年未滿ニシテ前項各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ之ヲ二分ノ一迄減額スルコトアルヘシ

第八條　職工左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ヲ支給セサルコトアルヘシ

一　重要ナル經歷ヲ詐リ其ノ他詐術ヲ用ヒテ雇傭セラレタルモノナルコト

二　營業ノ秘密ヲ漏洩シ又ハ漏洩セントシタルコト明ナルコト

三　故意ニ工場ノ設備又ハ器具ヲ破壞シタルコト

四　正當ノ理由ナクシテ無斷缺勤引續キ十四日以上ニ及ヒタルコト

五　其ノ他前各號ニ準スル程度ノ背信行爲アリタルコト

第九條　職工事業ノ都合ニ依リ解雇セラレタルトキハ第四條ノ退職手當ハ左ノ特別手當ヲ加算シテ之ヲ支給ス但シ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ又ハ第七條第一項各號及前條各號ノ一ニ該當スル事由ニ因リ解雇セムレタルトキハ之ヲ加算セサルコトア

第四編　國民健康保險

社會保險法規輯覽目次

第四編　國民健康保險

第一款　國民健康保險法令

○國民健康保險法……（昭和一三年四月法律六〇號）……一
○國民健康保險法施行規則……（昭和一三年六月厚令一〇號）……七
○國民健康保險國庫補助金交付規則……（昭和一三年六月厚令一一號）……一七
○國民健康保險委員會規程……（昭和一三年六月勅令四三四號）……一八
○國民健康保險委員會規程施行規則……（昭和一三年六月厚令一二號）……二二
○國民健康保險委員會職員旅費手當支給規則……（昭和一三年六月勅令四三五號）……二三
○國民健康保險委員會ニ出頭又ハ出席シタル者ニ對スル旅費支給ノ件……（昭和一三年六月厚令一三號）……二四
○國民健康保險組合規約例……二五
(一)普通國民健康保險組合規約例……二五
(二)特別國民健康保險組合規約例（同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル組合ノ場合）……二九
(三)特別國民健康保險組合規約例（同種ノ業務ニ從事スル者ヲ以テ組織スル組合ノ場合）……三三

○國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ產業組合定款變更例……三八
○國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ產業組合國民健康保險規程例……三八

第二款　國民健康保險關係例規及通牒

第一項　國民健康保險組合ノ設立

○國民健康保險組合設立認可後至急措置セシムヘキ事項ニ關スル件…（昭和一三年六月二二日社發六四〇號）……四三
○國民健康保險組合ノ事業計畫書及保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面ニ關スル件……（昭和一三年六月三〇日社發六八五號）……四三
○國民健康保險組合ノ設立手續ニ關スル件……（昭和一三年七月一日社發六八六號）……五〇
○國民健康保險法施行規則第五條ノ解釋ニ關スル件……（昭和一三年一〇月一三日社國第五六號）……五三

第二項　國民健康保險組合ノ事業

第一目　保險給付

○國民健康保險ノ診療ニ關シ診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ爲サシメサルコトニ關スル件……（昭和一三年六月二四日保社六二號）……五四
○診療錄閱覽ニ關スル件……（昭和一三年六月二七日保社六四號）……五四
○國民健康保險組合ノ診療組織ニ關スル件……（昭和一三年七月四日社發七〇二號）……五五
○國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依ル認可申請手續ニ關スル件…（昭和一三年七月八日社發七二四號）……六二
○國民健康保險組合ノ保險給付ノ標準ニ關スル件……（昭和一三年七月一三日社發七四〇號）……六四

○國民健康保險組合ノ指定醫ノ指定取消ニ關シ內議アリタル場合ノ之カ措置ニ關スル件……（昭和一三年七月二二日社發七八八號）……七一
○組合ト齒科醫師會トノ間ニ於ケル治療規約ニ關スル件……（昭和一三年一一月九日社國第七五號）……七二
○組合ト藥劑師會トノ間ニ於ケル藥劑支給契約例ニ關スル件……（昭和一三年一二月二一日社發第一四二二號）……七八

第二目　保險料

○國民健康保險組合ノ保險料ニ關スル件……（昭和一三年七月一五日社發七三九號）……八二

第三項　國民健康保險組合ノ管理

○國民健康保險組合ノ組合會及役員ニ關スル件……（昭和一三年八月六日社發八四〇號）……八四
○國民健康保險組合ノ財務ノ取扱ニ關スル件……（昭和一三年七月一三日社發七三六號）……九〇

第四項　國民健康保險組合ノ代行

○國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ關スル件……（昭和一三年七月一五日社發七三七號）……一一四
○國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ產業組合ノ定款變更例及國民健康保險規程例ニ關スル件……（昭和一三年一月一五日社發第二〇三號）……一一七

第五項　國民健康保險委員會

○國民健康保險委員會委員等ノ人選方針及內申報告方ニ關スル件……（昭和一三年六月二九日社發六七〇號）……一一八
○國民健康保險委員會ノ事務取扱ニ關スル件……（昭和一三年七月一一日社發七二八號）……一二〇
○國民健康保險委員會議規則ニ關スル件……（昭和一三年七月一二日社發七二九號）……一二二

第六項　雜

○國民健康保險組合及國民健康保險組合聯合會臺帳備付ノ件……（昭和一三年六月二三日保社五七號）……一二四
○國民健康保險法第十三條ノ規定ニ依ル普通國民健康保險組合ノ指定ニ關スル件……（昭和一三年七月五日社發七一三號）……一二四
○國民健康保險組合ノ組合員及被保險者ノ取扱ニ關スル件……（昭和一三年七月七日社發七一二號）……一二五
○事業報告財產目錄及每月事業狀況報告ノ樣式ニ關スル件……（昭和一三年九月五日社發九七九號）……一二七

第三款　國民健康保險關係法規

○市　制……（明治四四年法律六八號）……一三五
○町村制……（明治四四年法律六九號）……一七〇
○市制町村制施行令……（大正五年勅令二〇一號）……二〇〇
○產業組合法……（明治三三年法律三四號）……二二〇
○產業組合法施行規則……（明治四二年農令三五號）……二三六

第四編　國民健康保險

第一款　國民健康保險法令

國民健康保險法（昭和十三年四月一日法律第六十號）

第一章　總　則

第一條　國民健康保險ハ相扶共濟ノ精神ニ則リ疾病、負傷、分娩又ハ死亡ニ關シ保險給付ヲ爲スヲ目的トスルモノトス

第二條　國民健康保險ハ國民健康保險組合（以下組合ト稱ス）之ヲ行フ

第三條　保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ徵收シ又ハ其ノ還付ヲ受クル權利及保險給付ヲ受クル權利ハ一年ヲ經過シタルトキハ時效ニ因リテ消滅ス

前項ノ時效ノ中斷、停止其ノ他ノ事項ニ關シテハ民法ノ時效ニ關スル規定ヲ準用ス

組合カ規約ノ定ムル所ニ依リテ爲ス保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ徵收ノ告知ハ民法第百五十三條ノ規定ニ拘ラス時效中斷ノ效力ヲ有ス

第四條　國民健康保險ニ關スル書類ニハ印紙稅ヲ課セス

第五條　保險給付トシテ支給ヲ受ケタル金品ヲ標準トシテ租稅其ノ他ノ公課ヲ課セス

第六條　保險給付ヲ受クル權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ差押フルコトヲ得ス

第七條　組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ保險給付ヲ受クヘキ者ハ被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ戶籍ニ關シ戶籍事務ヲ管掌スル者又ハ其ノ代理者ニ對シ無償ニテ證明ヲ求ムルコトヲ得

第八條　保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

市町村カ前項ノ請求ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ其ノ處分ニ着手セス又ハ九十日以內ニ之ヲ結了セサルトキハ組合ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ處分スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ町村制第百十一條第一項及第四項ノ規定ヲ準用ス

第一項ニ規定スル徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次キ他ノ公課ニ先ツモノトス

第二章　國民健康保險組合

第一節　總　則

第九條　組合ハ左ノ二種トス

合本

一　普通國民健康保險組合
二　特別國民健康保險組合

組合ハ法人トス

第十條　普通國民健康保險組合ハ其ノ地區內ノ世帶主ヲ組合員トシ、特別國民健康保險組合ハ同一ノ事業又ハ同種ノ業務ニ從事スル者ヲ組合員トシ之ヲ組織ス

第十四條第一項但書ノ規定ニ依リ被保險者タル資格ナキ者ハ組合員タルコトヲ得ス但シ其ノ世帶ニ被保險者タル資格アル者アルトキハ此ノ限ニ在ラス

普通國民健康保險組合ノ地區ハ市町村ノ區域ニ依ル但シ特別ノ事由アルトキハ此ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

第十一條　組合ヲ設立セントスルトキハ發起人ハ規約ヲ作リ組合員タラントスル者ノ同意ヲ得テ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

組合ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第十二條　組合ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱
二　事務所ノ所在地
三　組合ノ地區（特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍）
四　組合員ノ加入及脫退ニ關スル事項
五　被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項
六　其ノ他重要ナル事項

第十三條　普通國民健康保險組合ニ付其ノ組合員タル資格ヲ有スル者ノ三分ノ二以上組合員タル場合ニ於テ地方長官必要アリト認メ其ノ組合ヲ指定シタルトキハ組合員タル資格ヲ有スル者（特別ノ事由アル者ニシテ命令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク）ハ總テ組合員ト爲ルモノトス

第十四條　組合ハ組合員及組合員ノ世帶ニ屬スル者ヲ以テ其ノ被保險者トス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　健康保險ノ被保險者
二　他ノ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者
三　特別ノ事由アル者ニシテ規約ヲ以テ定ムルモノ

前項ノ規定ニ拘ラス組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ世帶ニ屬スル者ヲ包括シテ被保險者ト爲ササルコトヲ得

第十五條　組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ規約違反者ヨリ過怠金ヲ徵收スルコトヲ得

第十六條　組合ハ事業ニ支障ナキ場合ニ限リ被保險者ニ非サル者ヲシテ組合ノ施設ヲ利用セシムルコトヲ得

組合ハ前項ノ規定ニ依リ組合ノ施設ヲ利用スル者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ依リ利用料ヲ請求スルコトヲ得

第十七條　本法ニ規定スルモノノ外組合ノ管理、財產ノ保管及

利用方法其ノ他組合ニ關シ必要ナル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二節　事業

第十八條　組合ハ被保險者ノ疾病又ハ負傷ニ關シテハ療養ノ給付、分娩ニ關シテハ助產ノ給付、死亡ニ關シテハ葬祭ノ給付ヲ爲ス但シ特別ノ事由アル組合ハ助產ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ササルコトヲ得

組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ前項ノ給付ニ併セテ其ノ他ノ保險給付ヲ爲スコトヲ得

特別ノ事由アル組合ハ規定ノ定ムル所ニ依リ第一項ノ給付ニ代ヘテ療養費、助產費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトヲ爲スコトヲ得

第十九條　療養ノ給付、助產ノ給付又ハ葬祭ノ給付ヲ爲ス組合其ノ給付ヲ爲スコト困難ナル場合其ノ他必要アル場合ニ於テハ其ノ都度之ニ代ヘテ療養費、助產費又ハ葬祭費ヲ支給スルコトヲ得

第二十條　組合ハ療養ノ給付ニ要スル費用ノ一部ヲ其ノ給付ヲ受クル者（給付ヲ受クル者組合員ニ非サル場合ニ於テハ其ノ屬スル世帶ノ組合員）ヨリ徵收スルコトヲ得

第二十一條　組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持增進スル爲左ノ施設ヲ爲スコトヲ得

一　疾病又ハ負傷ノ豫防ニ關スル施設
二　健康診斷ニ關スル施設
三　保養ニ關スル施設
四　其ノ他健康ノ保持增進ニ關スル施設

第二十二條　組合ハ其ノ事業ニ要スル費用ニ充ツル爲組合員ヨリ保險料ヲ徵收ス

組合ハ特別ノ事由アル者ニ對シ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

第二十三條　組合ハ命令ノ定ムル所ニ依リ一定期間保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帶ノ組合員（組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケサリシ組合員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ一部ヲ拂戾スコトヲ得

第二十四條　保險給付ノ種類範圍支給期間及支給額、保險料ノ額徵收方法及減免其ノ他保險給付及保險料ニ關シ必要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第三節　管理

第二十五條　組合ニ組合會ヲ置ク

組合ハ組合會議長及組合會議員ヲ以テ之ヲ組織ス

組合會議長ハ理事長ヲ以テ之ニ充ツ理事長故障アルトキハ其ノ代理者議長ノ職務ヲ行フ

組合會議員ハ組合員ニ於テ之ヲ互選ス

第二十六條　組合會ノ議決スヘキ事項左ノ如シ

一　收入支出ノ豫算

二　事業報告及決算

三　收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄

四　準備金其ノ他重要ナル財產ノ處分

五　組合債

六　規約ノ變更

七　其ノ他重要ナル事項

前項第一號及第四號乃至第六號ニ揭クル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第二十七條　組合會ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閱シ、理事ノ報告ヲ請求シ又ハ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢查スルコトヲ得

組合會ハ議員中ヨリ委員ヲ選擧シ前項ノ組合會ノ權限ニ屬スル事項ヲ行ハシムルコトヲ得

第二十八條　組合ニ理事數人ヲ置ク

理事ハ組合ニ於テ組合員中ヨリ之ヲ選任ス但シ特別ノ事由アルトキハ組合員ニ非サル者ノ中ヨリ之ヲ選任スルコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ其ノ選任ニ付地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

普通國民健康保險組合ニ在リテハ特別ノ事由ナキ限リ前項ノ規定ニ拘ラス理事中ニ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲ加フルモノトス

第二十九條　理事ノ中一人ヲ理事長トス

理事長ハ理事ニ於テ之ヲ互選ス但シ前條第三項ノ規定ニ依ル理事アルトキハ持別ノ事由ナキ限リ之ニ付選任ス

理事長ハ組合ヲ代表ス

理事長故障アルトキハ規約ノ定ムル所ニ依リ他ノ理事其ノ職務ヲ代理ス

第三十條　組合會成立セス又ハ其ノ議決スヘキ事項ヲ議決セサルトキハ理事ハ地方長官ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事項ヲ處置スルコトヲ得

第三十一條　組合會ニ於テ議決スヘキ事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ理事之ヲ專決スルコトヲ得

第三十二條　前二條ノ規定ニ依リ處置ヲ爲シタルトキハ理事ハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ

第三十三條　組合ハ規約ノ定ムル所ニ依リ理事長及理事以外ノ役員ヲ置クコトヲ得

第四節　分合及解散

第三十四條　組合分割、合併又ハ解散ヲ爲サントスルトキハ組合會ニ於テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十五條　合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立シタル組合ハ合併ニ因リテ消滅シタル組合ノ權利義務ヲ承繼ス

分割ニ因リテ成立シタル組合ハ分割ニ因リテ消滅シタル組合又ハ分割後存續スル組合ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

前項ノ規定ニ依リ承繼スル權利義務ノ限度ハ分割ノ議決ト共ニ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十六條　組合ハ解散ノ後ト雖モ清算ノ目的ノ範圍內ニ於テハ仍存續スルモノト看做ス

第三十七條　組合解散シタルトキハ理事清算人ト爲ル

前項ノ規定ニ依リテ清算人タル者ナキトキハ地方長官清算人ヲ選任ス清算人ハ組合ヲ代表シ清算ヲ爲スニ必要ナル一切ノ行爲ヲ爲ス權限ヲ有ス

清算方法及財產處分ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

地方長官必要アリト認ムルトキハ清算方法及財產處分ノ變更ヲ命シ又ハ清算人ヲ解任スルニトヲ得

第三章　國民健康保險組合聯合會

第三十八條　組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲國民健康保險組合聯合會（以下組合聯合會ト稱ス）ヲ設立スルコトヲ得

組合聯合會ハ法人トス

第三十九條　組合聯合會ヲ設立セントスルトキハ規則ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

組合聯合會ハ設立ノ認可ヲ受ケタル時ニ成立ス

第四十條　組合聯合會ノ規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　組合聯合會ノ目的及事業

二　組合聯合會ノ名稱

三　事務所ノ所在地

四　加入及脫退ニ關スル事項

五　經費ノ分賦ニ關スル事項

六　其ノ他重要ナル事項

第四十一條　組合聯合會ニ總會、理事長及理事ヲ置ク

總會ノ組織竝ニ理事長及理事ノ選任ニ關スル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第四十二條　第十五條乃至第十七條、第二十六條、第二十七條第二十九條第三項第四項及第三十條乃至第三十七條ノ規定ハ組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第四章　監督及補助

第四十三條　主務大臣及地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ對シ其ノ事業及財產ニ關シ報告ヲ爲サシメ、其ノ狀況ヲ檢查シ、規約ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第四十四條　組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ役員ニ欠缺若ハ故障アルトキ又ハ其ノ役員其ノ執行スヘキ職務ヲ執行セサルトキハ地方長官ハ官吏又ハ其ノ他ノ者ヲ指定シテ其ノ職務ヲ執行セシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ負擔トス

第四十五條　地方長官ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ決議又ハ役員ノ行爲が法令、規約、主務大臣若ハ地方長官ノ命令若ハ處分ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキ又ハ其ノ事業若ハ財產ノ狀況ニ依リ事業ノ繼續ヲ困難ナリト認ムルトキハ決議ヲ取消シ、役員ヲ解職シ又ハ組合若ハ組合聯合會ノ解散ヲ命シ若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ第五十四條ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第四十六條　組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第四十七條　國庫ハ豫算ノ範圍內ニ於テ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

道府縣及市町村ハ組合及組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ補助金ヲ交付スルコトヲ得

第五章　國民健康保險委員會、訴願及訴訟

第四十八條　保險給付ニ關スル決定ニ不服アル者ハ國民健康保險委員會ニ審查ヲ請求シ其ノ決定ニ不服アルトキハ民事訴訟ヲ提起スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ其ノ職務ノ執行ニ要スル費用ハ組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ノ負擔トス

第四十九條　第四十六條ノ規定ニ依ル認可ノ申請アリタルトキハ地方長官ハ國民健康保險委員會ノ意見ヲ徵シ之カ處分ヲ爲スヘシ

第五十條　組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ト醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者又ハ其ノ團體トノ間ニ於ケル保險給付ニ關スル契約ニ關シ紛爭ヲ生シタルトキハ國民健康保險委員會ハ當事者ノ請求ニ依リ其ノ解決ニ付斡旋ヲ爲スコトヲ得

第五十一條　本法ニ規定スルモノノ外國民健康保險委員會ニ關シ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第五十二條　組合ノ爲シタル保險料其ノ他本法ノ規定ニ依ル徵收金ノ賦課若ハ徵收ノ處分又ハ第八條ノ規定ニ依ル滯納處分ニ不服アル者ハ地方長官ニ訴願シ其ノ裁決ニ不服アル者ハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合ニ關スルモノニ在リテハ主務大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルモノトス

台本

前項ノ規定ニ依ル訴願ニ關シテハ組合ヲ訴願法ノ規定ニ依ル行政廳ト看做ス

第五十三條　本章ニ規定スル審查ノ請求、訴ノ提起又ハ訴願若ハ行政訴訟ノ提起ハ處分又ハ決定ノ通知ヲ受ケタル日ヨリ三十日以內ニ之ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ審查ノ請求ニ付テハ訴願法第八條第三項ノ規定ヲ、訴ノ提起ニ付テハ民事訴訟法第百五十八條第二項及第百五十九條ノ規定ヲ準用ス

第六章　雜則

第五十四條　營利ヲ目的トセサル社團法人ニシテ其ノ社員ノ爲ニ醫療ニ關スル施設ヲ爲スモノハ命令ノ定ムル所ニ依リ地方長官ノ許可ヲ受ケ組合ノ事業ヲ行フコトヲ得

第五十五條　本法中地方長官トアルハ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會ニ付テハ之ヲ主務大臣トス

第五十六條　本法中町村又ハ町村長トアルハ町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノトス

第五十七條　組合若ハ組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ組合聯合會第三十七條第五項又ハ第四十三條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シ又ハ處分ヲ拒ミ若ハ妨ケタルトキハ其ノ役員又ハ清算人ヲ百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準用ス

附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

（昭和十三年六月二十二日勅令第四百三十三號ヲ以テ昭和十三年七月一日ヨリ施行）

●國民健康保險法施行規則

（昭和十三年六月二十二日厚生省令第十號）

第一章　國民健康保險組合

第一節　設立

第一條　組合設立ノ發起人ハ七人ヲ下ルコトヲ得ス

第二條　組合設立ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　規約

二　事業計畫書

三　保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面

四　組合員タラントスル者ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類

第三條　組合ハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合ナル文字ヲ用フヘシ

國民健康保險組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ國民健康保險

組合ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第四條　初年度ノ收入支出ノ豫算ハ發起人之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　組合設立ノ認可申請ハ組合設立ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ前項ノ認可申請ニハ組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ組合ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ發起人之ヲ定メ組合設立ノ認可申請ト同時ニ認可申請ヲ爲スヘシ

第六條　組合ノ設立ヲ認可シタルトキハ地方長官ハ左ノ事項ヲ告示スヘシ其ノ告示シタル事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一　組合ノ名稱
二　事務所ノ所在地
三　組合ノ地區（特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍）
四　認可ノ年月日

第七條　組合設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク規約ヲ公示スヘシ

第八條　組合設立ノ認可アリタルトキハ發起人ハ遲滯ナク組合會ヲ招集シ組合設立ノ經過、初年度ノ收入支出ノ豫算及被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍其ノ他重要ナル事項ヲ報告スヘシ

第九條　組合設立後理事就職ニ至ル迄ハ發起人理事ノ職務ヲ行フ

第十條　組合ノ設立ニ要スル費用ハ組合設立ノ後組合ノ負擔トス

第二節　事業

第十一條　國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依ル醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ニハ被保險者ノ通常利用シ得ヘキ醫師齒科醫師又ハ藥劑師ヲ包含スルコトヲ要ス

第十二條　組合ハ特別ノ事由ナキ限リ國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依リ認可ヲ受ケタル範圍內ノ總テノ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ヲシテ被保險者ニ對スル診療又ハ藥劑ノ支給ニ當ラシメ且被保險者ヲシテ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ選定ヲ自由ナラシムヘシ

第十三條　組合被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師齒科醫師又ハ藥劑師ヲ定メタルトキハ之ヲ公示スヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

前項ノ規定ハ診療又ハ藥劑ノ支給以外ノ給付ノ支給ニ當ル者ニ付之ヲ準用ス

第十四條　組合ハ國民健康保險法第十八條第二項ノ規定ニ依リ療養又ハ分娩ノ爲勞務ニ服スルコト能ハサル被保險者ニ對シ規約ノ定ムル所ニ從ヒ傷病手當金又ハ出產手當金ヲ支給スル

コトヲ得

第十五條　組合ハ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ就キ療養ノ給付ニ關シ帳簿書類ヲ閱覽シ、說明ヲ求メ又ハ報告ヲ徵スルコトヲ得

第十六條　組合ハ一年間保險給付ヲ受クル者ナカリシ世帶ノ組合員（組合員ノミヲ被保險者トスル組合ニ在リテハ保險給付ヲ受ケサリシ組合員）ニ對シ其ノ期間ノ保險料ノ四分ノ一以內ヲ拂戾スコトヲ得但シ第五十七條ノ規定ニ依リ準備金ヲ積立テ仍剩餘金アル場合ニ限ル

第三節　會議

第十七條　組合會議員ノ定數ハ十人ヲ下ルコトヲ得ス

第十八條　議員ノ任期ハ四年トシ總選擧ノ日ヨリ之ヲ起算ス補缺議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ議員タルコトヲ得ス

一　未成年者
二　禁治產者又ハ準禁治產者
三　破產者ニシテ復權ヲ得サル者
四　六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
五　六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

第二十條　議員ノ選擧ニ付テハ規約ヲ以テ選擧區ヲ設クルコトヲ得

選擧區ノ區域、各選擧區ヨリ選擧スヘキ議員ノ數其ノ他選擧區ニ關シ必要ナル事項ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第二十一條　議員中缺員ヲ生シタルトキハ第三十二條ノ例ニ依ル

前項ノ規定ノ適用ヲ受クル者ナク又ハ前項ノ規定ニ依ルモ仍缺員アルトキハ補缺選擧ヲ行フヘシ

第二十二條　理事ハ選擧ノ期日前七日目迄ニ選擧會場、投票及開票ノ日時竝ニ選擧スヘキ議員ノ數ヲ公示スヘシ

第二十三條　理事ハ選擧長ト爲リ選擧會ヲ開閉シ其ノ取締ニ任ス

理事ハ組合員中ヨリ選擧立會人二人乃至四人ヲ指名スヘシ

第二十四條　議員ノ選擧ハ無記名投票ニ依リ之ヲ行フ

投票ハ一人一票ニ限ル

第二十五條　組合員ハ選擧ノ當日投票時間內ニ自ラ選擧場ニ到リ投票用紙ニ被選擧人一人ノ氏名ヲ記載シテ投函スヘシ

投票用紙ハ理事ノ定メタル一定ノ式ヲ用フヘシ

第二十六條　左ノ投票ハ之ヲ無效トス

一　成規ノ用紙ヲ用ヒサルモノ
二　現ニ議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
三　一投票中二人以上ノ被選擧人ノ氏名ヲ記載シタルモノ

四　被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
五　議員タル資格ヲ有セサル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
六　被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ限ニ在ラス
七　被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第二十七條　投票ノ效力ハ選舉立會人之ヲ決定ス可否同數ナルトキハ選舉長之ヲ決スヘシ

第二十八條　議員ノ選舉ハ有效投票ノ最多數ヲ得タル者ヲ以テ當選者トス但シ議員ノ定數ヲ以テ有效投票ノ總數ヲ除シテ得タル數ノ六分ノ一以上得票アルコトヲ要ス
前項ノ規定ニ依リ當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取リ年齡同シキトキハ選舉長抽籤シ之ヲ定ムヘシ

第二十九條　選舉長ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉ノ顚末ヲ記載シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名スヘシ
選舉錄ハ投票及關係書類ト共ニ議員ノ任期間理事ニ於テ之ヲ保存スヘシ

第三十條　當選者定マリタルトキハ理事ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ
當選者當選ヲ辭セントスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以內ニ之ヲ理事ニ申立ツヘシ

第三十一條　議員就職シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ公示スヘシ

議員退職又ハ死亡シタルトキ亦同シ

第三十二條　當選者當選ヲ辭シタルトキ、選舉ノ期日後ニ於テ議員タル資格ヲ有セサルニ至リタルトキ若ハ組合員タラサルニ至リタルトキ又ハ死亡者ナルトキハ第二十八條第一項但書ノ得票者ニシテ當選ト爲ラサリシ者ヲ以テ順次當選者トス

第三十三條　選舉スヘキ議員ノ數ニ足ル當選者ヲ得ルコト能ハサルトキハ其ノ不足ノ員數ニ付三月以內ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ

第三十四條　議員ノ選舉法令又ハ規約ニ違反シ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スルノ虞アル場合ニ於テハ組合員ハ選舉ニ關シテハ選舉ノ日ヨリ當選ニ關シテハ第三十一條ノ公示ノ日ヨリ三十日以內ニ選舉又ハ當選ノ取消ヲ地方長官ニ申立ツルコトヲ得
組合員前項ノ申立ヲ爲ストキハ組合ヲ經由シテ申立書ヲ地方長官ニ差出スヘシ此ノ場合ニ於テハ組合ハ意見ヲ附シ七日以內ニ地方長官ニ之ヲ進達スヘシ
議員ハ選舉又ハ當選ノ取消アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第三十五條　選舉ノ取消アリタルトキハ三月以內ニ更ニ選舉ヲ行フヘシ
當選ノ取消アリタルトキハ第三十二條及第三十三條ノ例ニ依リ更ニ當選者ヲ定ムヘシ

第三十六條　本令ニ規定スルモノノ外議員ノ定數、資格及選舉ニ關スル事項ハ規約ノ定ムル所ニ依ル

第三十七條　組合會ハ理事之ヲ招集ス
議員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ノ目的タル事項ヲ示シテ組合會招集ノ請求ヲ爲シタルトキハ理事ハ七日以內ニ之ヲ招集スヘシ
組合會ノ招集ハ會議ノ目的タル事項ヲ示シ急施ヲ要スル場合ヲ除クノ外開會ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ爲スヘシ
組合會開會中急施ヲ要スル事項アルトキハ理事ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得
組合會ハ理事之ヲ開閉ス

第三十八條　組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第四十一條ノ除斥ノ爲半數ニ滿チサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十九條　組合會ノ議事ハ出席議員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第四十條　組合ノ分割、合併若ハ解散又ハ規約變更ノ議事ハ議員定數ノ四分ノ三以上ノ多數ヲ以テ之ヲ決ス

第四十一條　議長及議員ハ其ノ一身上ニ關スル事項ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得ス但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第四十二條　議員ハ自ラ會議ニ出席シ表決ヲ爲スヘシ但シ病氣其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ會議ニ出席スルコト能ハサル議員ハ豫メ書面ヲ以テ出席議員ニ委任シテ表決ヲ爲スコトヲ妨ケス此ノ場合ニ於テハ之ヲ會議ニ出席シタルモノト看做ス

第四十三條　組合員ハ組合會ノ會議ヲ傍聽スルコトヲ得但シ組合會ニ於テ傍聽禁止ノ議決アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第四十四條　議長ハ會議錄ヲ調製シ出席議員二人以上ト共ニ之ニ署名スヘシ

第四十五條　組合會ハ會議規則ヲ設クヘシ

第四節　役員

第四十六條　理事ノ定數ハ三人ヲ下ルコトヲ得ス

第四十七條　國民健康保險法第二十八條第三項ノ規定ニ依ル理事以外ノ理事ノ任期ハ四年トシ選任ノ日ヨリ之ヲ起算ス
補缺理事ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス
理事ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄仍其ノ職務ヲ行フモノトス

第四十八條　組合ノ事務ハ規約ニ別段ノ定ナキトキハ理事ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ理事長ノ決スル所ニ依ル

第四十九條　理事ハ規約、財產目錄、事業報告、組合原簿及組合會ノ會議錄ヲ事務所ニ備フヘシ組合員前項ノ書類ノ閱覽ヲ

求メタルトキハ理事ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第五十條　國民健康保險法第四十五條ノ規定ニ依リ解職セラレタル者ハ二年間組合ノ役員タルコトヲ得ス

第五十一條　第十九條、第三十一條及第三十六條ノ規定ハ理事長及理事ニ之ヲ準用ス

第五節　財務

第五十二條　組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第五十三條　組合ハ毎會計年度收入支出ノ豫算ヲ調製シ前年度二月末日迄ニ認可申請ヲ爲スヘシ豫算ヲ更正又ハ追加シタルトキハ其ノ都度認可申請ヲ爲スヘシ

豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス

豫算ニ定メタル各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

第五十四條　聯合ハ組合會ノ議決ヲ經テ繼續費ヲ設クルコトヲ得

第五十五條　組合ハ豫算超過ノ支出ニ充ツル爲豫備費ヲ設クヘシ

豫備費ハ規約ヲ以テ定メタル費途以外ノ費途ニ之ヲ充ツルコトヲ得ス

第五十六條　組合ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス

第五十七條　組合ハ少クトモ保險給付ニ要シタル費用ノ前三年度ノ平均年額ニ相當スル額ニ達スル迄毎年度ノ剩餘金中ヨリ該平均年額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（剩餘金カ該平均年額ノ百分ノ五ニ達セサルトキハ其ノ全額）ヲ準備金トシテ積立ツヘシ

前項ノ限度內ノ準備金ハ保險給付ニ要スル費用ニ不足ヲ生シタルトキニ非サレハ之ヲ使用スルコトヲ得ス

第五十八條　準備金其ノ他ノ財產ノ管理方法ハ規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第五十九條　組合ハ支拂上現金ニ不足ヲ生シタルトキハ準備金ニ屬スル現金ヲ繰替使用シ又ハ一時借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ繰替使用シタル金額及一時借入金ハ當該會計年度內ニ之ヲ返還スヘシ

第六節　分合及解散

第六十條　組合合併ノ認可申請書ニハ合併スル各組合ノ名稱及組合員ノ員數竝ニ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ成立スル組合ノ名稱ヲ記載シ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　合併後ニ於ケル事業計畫書

二　認可申請前一月以內ノ現在ニ於テ調製シタル各組合ノ財產目錄

合併後存續スル組合アル場合ニ於テハ合併ニ伴フ規約變更ノ

認可申請ハ合併ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第六十一條　合併ニ因リテ成立スル組合ノ規約及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規約ノ認可申請書ニハ保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ認可申請ハ合併ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

合併ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ各組合ニ於テ選任シタル者共同シテ之ヲ定メ合併ノ認可申請ト同時ニ認可申請ヲ爲スヘシ

第六十二條　組合分割ノ認可申請書ニハ分割スル組合、分割後存續スル組合及分割ニ因リテ成立スル組合ノ名稱及組合員ノ員數ヲ記載シ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　分割後ニ於ケル各組合ノ事業計畫書

二　認可申請前一月以內ノ現在ニ於テ調製シタル分割スル組合ノ財產目錄

第六十條第二項ノ規定ハ分割後存續スル組合ノ分割ニ伴フ規約變更ノ認可申請ニ之ヲ準用ス

第六十三條　分割ニ因リテ成立スル組合ノ規約及初年度ノ收入支出ノ豫算ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ者ニ於テ選出シタル者之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ規約ノ認可申請書ニハ保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添附スヘシ

第一項ノ認可申請ハ分割ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

分割ニ因リテ成立スル組合ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ其ノ組合ノ組合員タルヘキ者ニ於テ選出シタル者之ヲ定メ分割ノ認可申請ト同時ニ認可申請ヲ爲スヘシ

分割ニ因リテ成立スル組合ニ於テ承繼スル權利義務ノ限度ノ認可申請ハ分割ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第六十四條　組合解散ノ認可申請書ニハ認可申請前一月以內ノ現在ニ於テ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第六十五條　組合員ノ缺亡ニ因リ組合解散シタルトキハ組合ノ名稱解散ノ年月日ヲ理事タリシ者ニ於テ遲滯ナク地方長官ニ屆出ツヘシ

前項ノ屆書ニハ解散ノ日ノ現在ニ依リ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第六十六條　組合ノ分割又ハ合併ノ認可ヲ爲シタルトキハ地方長官ハ分割又ハ合併ニ因リテ成立又ハ消滅シタル組合ニ付左ノ事項ヲ告示スヘシ

一　組合ノ名稱

二　事務所ノ所在地
三　組合ノ地區（特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ範圍）
四　認可ノ年月日

組合解散シタルトキハ地方長官ハ前項ノ例ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第六十七條　第七條乃至第九條ノ規定ハ合併又ハ分割ニ因リテ成立シタル組合ニ之ヲ準用ス但シ同條中發起人トアルハ第六十一條又ハ第六十三條ノ規定ニ依リ選任又ハ選出セラレタル者トス

第六十八條　組合合併又ハ分割シタル場合ニ於テハ理事又ハ理事タリシ者ハ其ノ合併又ハ分割ニ因リ成立シ又ハ存續スル組合ノ理事ニ對シ遲滯ナク其ノ事務ノ引繼ヲ爲スヘシ

事務引繼完了シタルトキハ引繼ヲ爲シタル者及引繼ヲ受ケタル者連署ノ上完了ノ日ヨリ五日以內ニ其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第六十九條　淸算結了シタルトキハ淸算人ハ其ノ結果ヲ遲滯ナク地方長官ニ届出ツヘシ

第七節　雜　則

第七十條　左ニ揭クル者ハ國民健康保險法第十三條ノ規定ニ依リ組合ヲ指定スル場合ニ於テ組合員ト爲ルヘキ者ノ範圍ヨリ之ヲ除外ス。

一　多額ノ收入アル者
二　貧困ノ爲法令ニ依ル救護ヲ受クル者
三　其ノ他地方長官ニ於テ特別ノ事由アリト認メタル者

前項第一號ニ規定スル者ノ範圍ハ地方ノ事情ヲ參酌シテ地方長官之ヲ定ム

第七十一條　地方長官國民健康保險法第十三條ノ指定ヲ爲シタルトキハ左ノ事項ヲ告示スヘシ第四號ノ事項ヲ變更シタルトキ亦同シ

一　組合ノ名稱
二　事務所ノ所在地
三　組合ノ地區
四　組合員ト爲ルヘキ者ノ範圍ヨリ除外スル者
五　指定ノ年月日

第七十二條　國民健康保險法又ハ本令ノ規定ニ依リ組合ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受クヘキ事項カ組合會ノ議決ヲ經タルモノナルトキハ申請書ニ其ノ會議錄ノ寫ヲ添附スヘシ

認可申請ヲ爲スヘキ事項カ理事專決シタルモノナルトキハ申請書ニ專決ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ添附スヘシ

第七十三條　組合ノ地區又ハ組合員ノ範圍ノ變更ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニハ規約變更後ニ於ケル事業計畫書ヲ添附

スヘシ

第七十四條　保險料變更ニ關スル規約變更ノ認可申請書ニハ算出ノ基礎ヲ示シタル書面ヲ添附スヘシ

第七十五條　規約變更ノ認可アリタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ公示スヘシ

第七十六條　事業報告及決算ハ年度經過後四月以內ニ組合會ノ認定ニ付スシ

事業報告及決算ハ組合會ノ認定ヲ經タル後遲滯ナク之ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

前二項ノ規定ニ依リ事業報告ヲ組合會ノ認定ニ付シ又ハ地方長官ニ届出ツル場合ニ於テハ之ニ年度末現在ニ依リ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第七十七條　組合ハ事業報告ニ付組合會ノ認定ヲ經タルトキハ年度末現在ニ依リ調製シタル財產目錄ト共ニ之ヲ公示スヘシ

第七十八條　組合ハ被保險者臺帳、歲入簿、歲出簿及現金出納簿ヲ備フヘシ

第七十九條　組合ハ每月ノ事業狀況ヲ翌月十五日迄ニ地方長官ニ報告スヘシ

第八十條　組合ニ於テ組合員ノ權利義務ニ關スル規定ヲ定メ又ハ改廢シタルトキハ遲滯ナク之ヲ地方長官ニ報告シ且組合員ニ周知セシムヘシ

第八十一條　理事長及理事就職、退職又ハ死亡シタルトキハ組合ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ地方長官ニ届出ツヘシ

第八十二條　本章中地方長官トアルハ二以上ノ道府縣ニ跨ル組合ニ付テハ之ヲ厚生大臣トス

第二章　國民健康保險組合聯合會

第八十三條　組合聯合會設立ノ認可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　規約
二　事業計畫書

第八十四條　組合聯合會ハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合聯合會ナル文字ヲ用フヘシ

國民健康保險組合聯合會ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ國民健康保險組合聯合會ナル文字ヲ用フルコトヲ得ス

第八十五條　初年度ノ收入支出ノ豫算ハ組合聯合會ヲ設立セントスル組合及組合ノ事業ヲ行フ法人共同シテ之ヲ定メ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

前項ノ認可申請ハ組合聯合會設立ノ認可申請ト同時ニ之ヲ爲スヘシ

第八十六條　第六條、第十條、第四十四條、第四十九條、第五十條、第五十二條乃至第五十六條、第五十八條乃至第六十九條、第七十二條、第七十五條乃至第七十八條及第八十條乃至

第八十二條ノ規定ハ組合聯合會ニ之ヲ準用ス

第三章　國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人

第八十七條　地方長官ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニシテ左ノ各號ニ該當スルモノニ限リ同條ノ許可ヲ爲スコトヲ得

一　特別ノ事由ナキ限リ一町村ノ區域ヲ其ノ地區トスルモノ

二　事業ノ成績及收支ノ狀況良好ニシテ且醫療ニ關スル施設ノ適當ナルモノ

前項ノ許可ハ地方ノ事情及地區內世帶主ノ加入狀況等ヲ參酌シテ之ヲ爲スヘシ

第八十八條　國民健康保險法第五十四條ノ許可申請書ニハ左ニ揭クル書類ヲ添附スヘシ

一　定款又ハ規約ノ變更ニ關スル總會又ハ總代會ノ會議錄ノ寫

二　國民健康保險組合ノ事業ヲ行フコトニ關シ必要ナル規程（以下國民健康保險規程ト稱ス）

三　事業計畫書

四　保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面

五　事業及收支ノ狀況ニ關スル書類

六　醫療ニ關スル施設ノ內容ヲ記載シタル書類

第八十九條　國民健康保險組合ノ事業ヲ行フコトニ關シ必要ナル規程ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スヘシ

一　組合ノ名稱

二　事務所ノ所在地

三　許可ノ年月日

第九十一條　組合ノ事業ヲ行フ法人ノ其ノ事業ニ關スル收入支出ハ他ノ事業ニ關スル會計ト區分シ之ヲ經理スヘシ

第九十二條　組合ノ事業ヲ行フ法人ノ其ノ事業ニ關スル左ニ揭クル事項ハ總會又ハ總代會ノ會議ヲ經ヘシ

一　收入支出ノ豫算

二　事業報告及決算

三　收入支出ノ豫算ヲ以テ定ムルモノノ外新ナル義務ノ負擔又ハ權利ノ拋棄

四　準備金其ノ他重要ナル財產ノ處分

五　借入金（一時借入金ヲ除ク）

合本

六　國民健康保險規程ノ變更

七　其ノ他重要ナル事項

前項第六號ニ揭クル事項ノ議決ハ當該法人ノ定款又ハ規約ノ變更ニ關スル議決ノ例ニ依ルヘシ

第一項第一號及第四號乃至第六號ニ揭クル事項ノ決議ハ地方長官ノ認可ヲ受クルニ非サレハ其ノ效力ヲ生セス

第九十三條　前條第一項各號ニ揭クル事項ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ總會若ハ總代會成立セサルトキ又ハ之ヲ招集スルノ暇ナキトキハ定款又ハ規約ノ定ムル所ニ依リ理事之ヲ專決スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ專決ヲ爲シタルトキハ理事ハ次ノ總會又ハ總代會ニ之ヲ報告スヘシ

第九十四條　組合ノ事業ヲ行フ法人ハ地方長官ノ許可ヲ受クルニ非サレハ組合ノ事業ヲ廢止スルコトヲ得ス

第九十五條　組合ノ事業ヲ行フ法人前條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ廢止ノ許可ヲ受ケントスルトキハ總會又ハ總代會ノ議決ヲ經テ地方長官ニ申請ヲ爲スヘシ

前項ノ許可申請書ニハ理由書及許可申請前一月以內ノ現在ニ於テ調製シタル財產目錄ヲ添附スヘシ

第九十六條　地方長官組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ第九十四條ノ規定ニ依リ其ノ事業ノ廢止ノ許可ヲ爲シ又ハ國民健康保險法第四十五條ノ規定ニ依リ同法第五十四條ノ許可ノ取消ヲ爲シタルトキハ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第九十七條　組合ノ事業ヲ行フ法人國民健康保險法第四十五條ノ規定ニ依リ同法第五十四條ノ許可ヲ取消サレタルトキ又ハ其ノ事業ヲ廢止シ若ハ解散シタルトキハ當該法人ノ代表者又ハ淸算人ハ組合ノ事業ニ關スル收支ノ計算及財產處分ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九十八條　第四條、第五條、第七條、第十一條乃至第十六條第四十九條、第五十二條乃至第五十九條、第七十二條及第七十四條乃至第八十二條ノ規定ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ノ其ノ事業ニ付之ヲ準用ス但シ第四條、第五條及第七條中發起人トアルハ當該法人トシ第十四條、第四十九條、第五十五條、第五十八條、第七十四條及第七十五條中規約トアルハ國民健康保險規程トス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民健康保險國庫補助金交付規則

（昭和十三年六月二十二日厚生省令第十一號）

第一條　國民健康保險法第四十七條第一項ノ規定ニ依ル國民健

康保險組合及國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對スル國庫補助金ハ本令ニ依リ之ヲ交付ス

第二條　補助金ノ交付ヲ受ケントスルトキハ毎年四月三十日迄ニ前年四月ヨリ其ノ年三月ニ至ル各月末ニ於ケル被保險者ノ員數ノ平均數ヲ具シ厚生大臣ニ申請ヲ爲スヘシ

年度中ニ組合ヲ設立シ又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人其ノ事業ヲ開始シタル爲前項ノ申請ヲ爲スコト能ハサリシトキハ組合ノ設立又ハ組合ノ事業ノ開始後一月以內ニ被保險者ノ員數ヲ具シテ申請ヲ爲スヘシ

第三條　組合員ノ資力乏シキ爲特ニ補助金ノ增額交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ年一月ヨリ十二月ニ至ル每月末ニ於ケル被保險者ノ員數ノ平均數ヲ具シ申請ノ理由ヲ明ニスヘキ書類ヲ添附シテ翌年一月三十一日迄ニ厚生大臣ニ申請ヲ爲スヘシ

第四條　災害ノ爲又ハ流行病、地方病若ハ傳染病流行ノ爲著シク保險給付費ノ增嵩ヲ來シ又ハ其ノ他ノ事由ニ因リ特ニ補助金ノ增額交付ヲ受ケントスルトキハ其ノ年一月ヨリ十二月ニ至ル期間ノ事項ニ關シ交付ヲ受ケントスル金額及其ノ事由ヲ具シ翌年一月三十一日迄ニ厚生大臣ニ申請ヲ爲スヘシ

第五條　組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ補助金ヲ交付セス、補助金ヲ減額シ又ハ既ニ交付シタル補助金ノ全部若ハ一部ノ返還ヲ命スル事アルヘシ

一　補助金交付ノ條件ニ違反シタルトキ

二　不當ニ補助金ノ交付ヲ受ケ又ハ受ケントスルノ所爲アリタルトキ

三　事業ノ經營著シク不適當ナルトキ

四　被保險者ノ員數著シク減少シタルトキ

第六條　組合解散シ又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人解散若ハ其ノ事業ヲ廢止シタル場合ニ於テハ當該年度ニ於ケル補助金ノ全部又ハ一部ノ返還ヲ命スルコトアルヘシ

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

國民健康保險委員會規程

（昭和十三年六月二十二日勅令第四百三十四號）

第一章　組　織

第一條　國民健康保險委員會ハ厚生大臣ノ監督ニ屬シ國民健康保險法第四十八條ノ審査、同法第四十九條ノ意見ノ答申及同法第五十條ノ斡旋ヲ爲ス

第二條　國民健康保險委員會ノ管轄區域ハ道府縣ノ區域トシテ其ノ名稱及位置ハ厚生大臣之ヲ定ム

第三條　國民健康保險委員會ハ會長及委員ヲ以テ之ヲ組織ス

第四條　會長ハ地方長官ヲ以テ之ニ充ツ

第五條　委員ハ左ニ揭クル者ヲ以テ之ニ充ツ

一　官　吏　二人

二　國民健康保險組合、國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ國民健康保險組合聯合會ノ役員　二人

三　國民健康保險ノ被保險者　二人

四　醫師、齒科醫師及藥劑師　各二人

前項ニ揭クル者ノ外斡旋ノ場合ニ於テ事件ノ種類カ醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ニ關係セサルモノナルトキハ事件ノ種類ニ應シ關係アル者ノ中ヨリ其ノ都度臨時委員二人ヲ置ク

第六條　審査ノ場合ニ於テハ前條第一項第四號ノ委員ハ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第七條　意見答申ノ場合ニ於テハ左ニ揭クル委員ハ議事ニ參與スルコトヲ得ス

一　第五條第一項第三號ノ委員

二　第五條第一項第四號ノ委員中醫師タル委員、齒科醫師タル委員及藥劑師タル委員各一人

第八條　斡旋ノ場合ニ於テハ左ニ揭クル委員ハ議事ニ參與スルコトヲ得ス

一　第五條第一項第三號ノ委員

二　第五條第一項第四號ノ委員中事件ノ種類ニ應シ關係アル醫師タル委員、齒科醫師又ハ藥劑師タル委員又ハ藥劑師タル委員二人ヲ除キ其ノ他ノ委員

第五條第二項ノ規定ニ依リ臨時委員ヲ置キタルトキハ同條第一項第四號ノ委員ハ議事ニ參與スルコトヲ得ス

第九條　第五條第一項第四號ノ委員ニシテ前二條ノ規定ニ依リ議事ニ參與スルコトヲ得サルモノハ會長其ノ都度之ヲ定ム

第十條　國民健康保險委員會ノ委員及臨時委員ハ厚生大臣之ヲ命ス

第十一條　委員ノ任期ハ官吏トシテ委員タル者ヲ除クノ外三年トス

臨時委員ハ當該事件ニ關スル斡旋終了シタルトキハ退任ス

委員及臨時委員ハ特別ノ事由アル場合ニ於テハ前二項ノ規定ニ拘ラス之ヲ解任スルコトヲ得

第十二條　會長ハ會務ヲ總理シ會議ノ議長ト爲ル

會長事故アルトキハ地方長官ノ指名スル委員其ノ職務ヲ代理ス

第十三條　國民健康保險委員會ニ幹事及書記ヲ置ク

幹事及書記ハ廳府縣ノ官吏又ハ待遇官吏ノ中ヨリ地方長官之ヲ命ス

幹事ハ會長ノ指揮ヲ承ケ庶務ヲ整理ス

書記ハ會長及幹事ノ指揮ヲ承ケ庶務ニ從事ス

第二章　審査ノ手續

第十四條　審査ハ保險給付ニ關スル決定ヲ爲シタル國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル國民健康保險委員會ニ於テ之ヲ爲ス

第十五條　審査ハ第五條第一項第一號乃至第三號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ同一ノ事件ニ付招集再回ニ及フ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十六條　審査ハ出席委員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

第十七條　審査ハ文書ニ就キ之ヲ爲ス但シ必要アリト認ムルトキハ口頭審問ヲ爲スコトヲ妨ケス

前項ノ但書ノ規定ニ依リ口頭審問ヲ爲ス爲出頭ヲ命セラレタル場合ニ於テ已ムコトヲ得サル事故ノ爲出頭スルコトヲ得サルトキハ當事者ハ其ノ法定代理人、親族又ハ同居者ヲシテ代リテ出頭セシムルコトヲ得

口頭審問ノ爲出頭シタル當事者及之ニ代リテ出頭シタル者ニ對シテハ命令ノ定ムル所ニ依リ旅費ヲ給スルコトヲ得

第十八條　審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ審査ノ請求ヲ爲スヘカラサルモノナルトキ又ハ審査ノ請求カ適法ノ手續ニ違反シタルモノナルトキハ國民健康保險委員會ハ決定ヲ以テ之ヲ却下スヘシ

審査ノ請求アリタル場合ニ於テ其ノ事件カ管轄違ナルトキハ會長ハ之ヲ所轄國民健康保險委員會ニ移送スヘシ

審査ノ請求ニシテ手續ノ方式ニ欠缺アルモノハ會長之ヲ補正セシムヘシ

第十九條　審査ハ之ヲ公開セス但シ口頭審問ハ之ヲ公開ス

口頭審問ヲ爲ス場合ニ於テ議長必要アリト認ムルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス傍聽ヲ制限又ハ禁止スルコトヲ得

第二十條　關係アル官吏又ハ待遇官吏ハ國民健康保險委員會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述フルコトヲ得

第二十一條　國民健康保險委員會ハ審査ノ爲必要アリト認ムルトキハ利害關係人又ハ參考人ニ對シ出席說明ヲ求メ又ハ參考書類ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第十七條第三項ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ國民健康保險委員會ニ出席シタル利害關係人又ハ參考人ニ之ヲ準用ス

第二十二條　事件ノ一部カ審査ノ決定ヲ爲スニ熟スルトキハ其ノ部分ニ付先ツ決定ヲ爲スコトヲ得

第二十三條　審査ノ決定ハ理由ヲ附シ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二十四條　審査請求人審査ノ決定前ニ死亡シタルトキハ其ノ承繼人ニ於テ審査請求手續ヲ受繼クモノトス

第二十五條　本章ニ規定スルモノノ外審査ニ關シ必要ナル事項ハ厚生大臣之ヲ定ム

第三章　意見答申ノ手續

第二十六條　意見答申ハ國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル國民健康保險委員會ニ於テ之ヲ爲ス

第二十七條　意見答申ノ議事ハ第五條第一項第一號及第二號ノ委員各一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第十五條但書ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十一條　當事者ハ國民健康保險委員會ノ請求ニ依リ又ハ其ノ承認ヲ受ケ會議ニ出席シ意見ヲ述ヘ又ハ參考書類ヲ提示スルコトヲ得

第三十二條　國民健康保險委員會幹旋ヲ終了シタルトキハ其ノ顚末ノ要旨ヲ公表スヘシ但シ紛爭ノ解決シタル場合ニ於テ當事者ノ一方又ハ雙方カ豫メ反對ノ意思ヲ表示シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條　第十六條、第十八條、第十九條第一項本文、第二十條、第二十一條及第二十五條ノ規定ハ幹旋ノ手續ニ之ヲ準用ス

第四章　幹旋ノ手續

第二十九條　幹旋ハ紛爭ノ當事者タル國民健康保險組合若ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人又ハ國民健康保險組合聯合會ノ事務所ノ所在地ヲ管轄スル國民健康保險委員會ニ於テ之ヲ爲ス

第三十條　幹旋ノ議事ハ第五條第一項第一號及第二號ノ委員各一人以上竝ニ第四號ノ委員中事件ノ種類ニ應シ關係アル委員（第八條第二項ノ規定ニ依リ第五條第一項第四號ノ委員議事ニ參與スルコトヲ得サル場合ニ於テハ同條第二項ノ臨時委員）一人以上出席スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

第五條第一項第二號ノ委員ハ當分ノ內國民健康保險組合設立發起人又ハ國民健康保險法第五十四條ノ許可ヲ申請セル法人ノ役員中ヨリ選任スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ選任セラレタル委員ノ任期ハ一年トス但シ特別ノ事由アル場合ニ於テハ任期中之ヲ解任スルコトヲ妨ケス

●國民健康保險委員會規程施行規則

（昭和十三年六月二十二日厚生省令第十二號）

第一條　審査ノ請求ハ文書又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第二條　文書ヲ以テ審査ノ請求ヲ爲サントスル者ハ審査請求書ニ記名調印シ證據書類アルトキハ之ヲ添附シ當該國民健康保險委員會ニ提出スヘシ

審査請求書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　審査請求人ノ氏名、住所、生年月日、職業及被保險者又ハ被保險者タリシ者トノ續柄

二　被保險者又ハ被保險者タリシ者ノ氏名、住所、生年月日及職業

三　保險給付ニ關スル決定ヲ爲シタル國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ノ名稱

四　保險給付ニ關スル決定ノ通知ヲ受ケタル年月日

五　請求ノ事件及一定ノ申立

六　請求ノ理由

七　立證

八　年月日

第三條　口頭ヲ以テ審査ヲ請求シタル者アルトキハ書記ハ前條第二項各號ノ事項ヲ記載シタル審査請求調書ヲ作製シ讀聞カセタル上之ニ記名調印セシメ證據書類アルトキハ之ヲ提出セシムヘシ

前項ノ審査請求調書ニハ之ヲ作製シタル書記署名捺印スヘシ

第四條　國民健康保險委員會審査ノ請求ヲ受ケタルトキハ保險給付ニ關スル決定ヲ爲シタル國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ對シ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ヲ送付スヘシ

國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人前項ノ審査請求書又ハ審査請求調書ノ寫ノ送付ヲ受ケタルトキハ十日以內ニ答辯書及證據書類ヲ當該國民健康保險委員會ニ提出スヘシ

第五條　國民健康保險委員會必要アリト認ムルキハ期限ヲ指定シテ當事者交互ニ辯駁書及答辯書ヲ提出セシムルコトヲ得

第六條　審査ノ決定書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　審査請求人ノ氏名、住所及生年月日

二　保險給付ニ關スル決定ヲ爲シタル國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ノ名稱

三　決定主文

四　決定ノ理由

五　年月日

台本

前項ノ決定書ノ原本ニハ會長署名捺印スヘシ

第七條　國民健康保險委員會ハ前條ノ決定書ノ原本ニ基キ正本副本各一通ヲ作製シ國民健康保險委員會ノ印ヲ押捺シ遲滯ナク正本ハ之ヲ審査請求人ニ交付シ副本ハ之ヲ保險給付ニ關スル決定ヲ爲シタル國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ送付スヘシ

審査請求人ニ對シ決定書ヲ交付スルコトヲ得サルトキハ國民健康保險委員會ハ其ノ決定書ヲ掲示板ニ掲示スヘシ

前項ノ掲示アリタル後七日ヲ經過シタルトキハ決定書ノ交付アリタルモノト看做ス

第八條　審査請求人ハ國民健康保險委員會ニ對シ決定書ノ謄本ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

第九條　斡旋ノ請求ハ左ノ事項ヲ明ニシ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

一　斡旋請求者ノ氏名又ハ名稱及住所

二　代表者ニ依リ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ代表者タルコトヲ示スニ足ルヘキ事項

三　相手方タル當事者ノ氏名又ハ名稱及住所

四　紛爭ノ內容

五　紛爭ノ經過概要

六　年月日

第十條　當事者ノ一方ヨリ斡旋ノ請求アリタルトキハ國民健康保險委員會ハ他ノ當事者ニ之ヲ通知スヘシ

第十一條　斡旋ニ關スル國民健康保險委員會ノ議事ヲ開始セントスルトキハ國民健康保險委員會ハ議事開始ノ日ヨリ七日前ニ當事者雙方ニ之ヲ通知スヘシ

第十二條　斡旋ニ付テハ國民健康保險委員會書記其ノ調書ヲ作ルヘシ

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民健康保險委員會職員旅費手當支給規則

（昭和十三年六月二十二日勅令第四百三十五號）

第一條　國民健康保險委員會ノ會長、委員及臨時委員其ノ資格ヲ以テ旅行スルトキハ在職官吏タル者ニハ其ノ本官相當ノ旅費ヲ其他ノ者ニハ別表ニ依ル旅費ヲ支給ス但シ第三條ノ規定ニ依リ日當ヲ受クル場合ニ於テハ別表ニ依ル日當ヲ支給セス

第二條　本令ニ依ル旅費ハ會議ノ爲招集セラレタル場合ニ於テハ會議地又ハ會議地ヲ距ル三里以內ノ地ニ居住スル者ニハ之ヲ支給セス

第三條　國民健康保險委員會ノ委員及臨時委員其ノ職務ヲ執行

台本

シタルトキハ七圓ノ日當ヲ支給ス但シ官吏タル委員ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第四條　本令ニ定ムルモノノ外旅費ノ支給ニ關シテハ內國旅費規則ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

別表

鐵道及船賃	車馬賃（一里ニ付）	日當（一日ニ付）	宿泊料（一夜ニ付）	食卓料（一夜ニ付）
二等	七十五錢	三圓	五圓	二圓

（備考）

鐵道賃及船賃ハ運賃等級ヲ二階級ニ區分スル場合ニハ上級ノ運賃トシ、其ノ等級ヲ區分セサル場合ニハ其ノ乘車又ハ乘船ニ要スル運賃トス

●國民健康保險委員會ニ出頭又ハ出席シタル者ニ對スル旅費支給ノ件

（昭和十三年六月二十八日厚生省令第十三號）

第一條　國民健康保險委員會規程第十七條ノ規定ニ依リ口頭審問ノ爲出頭シタル者又ハ同規程第二十一條若ハ第三十三條ノ規定ニ依リ出席シタル利害關係人若ハ參考人ニ對シテハ本令ニ依リ旅費ヲ支給ス

第二條　旅費ハ鐵道賃、船賃、車馬賃、日當、宿泊料及食卓料ノ六種トシ各其ノ順路ニ依リテ之ヲ支給ス但シ天災事變其ノ他已ムヲ得サル事由ニ依リ順路ニ依リテ旅行シ難キ場合ハ實際ノ經路ニ依ル

第三條　鐵道旅行ニハ鐵道賃及水路旅行ニハ船賃ノ各其ノ最低賃金ニ相當スル額ヲ支給ス

鐵道八十五粁以上、水路五十海里以上ノ旅行ニ在リテハ前項ノ額ノ外普通急行料金ヲ支給ス但シ急行料金ヲ徵セサル線路又ハ航路ニ依ル旅行ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

第四條　陸路旅行ニハ一里ニ付車馬賃三十錢ヲ支給ス但シ片道一里未滿ノ陸路旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

陸路旅行ノ場合ニ於テ通算上一里未滿ノ端數ヲ生シタルトキハ切捨トス

第五條　日當ハ日數ニ應シ一日ニ付七十錢ヲ支給ス

第六條　宿泊料ハ一夜ニ付二圓ヲ支給ス但シ水路旅行ニ付テハ之ヲ支給セス

第七條　食卓料ハ船賃ノ中ニ食費ヲ含マサルトキ又ハ官用ノ船

舶ニ依リ旅行スル場合ニ於テ官ヨリ賄ヲ爲ササルトキハ一夜ニ付一圓ヲ支給ス

第八條　旅行中死亡シタルトキハ其ノ居住地ニ至ル旅費ニ相當スル金額ヲ遺族ニ支給ス

第九條　內國旅費規則第五條及第七條ノ規定ハ本令ニ依ル旅費ノ支給ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ昭和十三年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國民健康保險組合規約例

（一）普通國民健康保險組合規約例

何村國民健康保險組合規約

第一章　總　則

第一條　本組合ハ國民健康保險法ニ基キ本組合ノ被保險者ノ健康保險ヲ行フヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ何村國民健康保險組合ト稱ス

第三條　本組合ノ事務所ハ何縣何郡何村何番地ニ置ク

第四條　本組合ハ地區ハ何縣何郡何村ノ區域ニ依ル

第五條　本組合ニ於テ公示スヘキ事項ハ組合ノ揭示場ニ揭示（何々ニ揭載）ス

第六條　本組合ノ帳簿及書類ノ保存ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　組合員及被保險者

第七條　本組合ハ組合員及其ノ世帶ニ屬スル者ヲ以テ被保險者トス但シ左ニ揭クル者ヲ除ク

一　健康保險ノ被保險者

二　他ノ國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者

三　私傷病ニ付療養ニ關スル給付ヲ爲ス官業共濟組合及警察共濟組合組合員

四　組合ノ地區內ニ轉住シテヨリ一月（何月ヲ經過セサル者）

五　何々

第八條　本組合ニ加入セントスル者ハ其ノ住所及氏名竝ニ被保險者タルヘキ者ノ氏名、男女別、生年月及自己トノ續柄ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ申込ムヘシ

加入ノ申込ヲ爲シタル者ハ其ノ日ヨリ組合員ト爲ルモノトス

加入申込書ニ記載シタル事項中變更アリタルトキハ十日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第九條　新ニ被保險者ト爲リタル者アルトキハ組合員ハ十日以內ニ其ノ被保險者ノ氏名、男女別、生年月及自己トノ續柄ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ記載事項中變

更アリタルトキ亦同シ

第十條　組合員ハ三月前(何月前)迄ニ書面ヲ以テ豫告ヲ爲シ其ノ年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得

第十一條　組合員其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ十日以內ニ資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ

第十二條　組合員其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ新ニ世帶主ト爲リタル者之ニ代リ組合員タラントスルトキハ前條ノ期間內ニ書面ヲ以テ組合員變更ノ屆出ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テハ第八條ノ申込及前條ノ屆出ハ之ヲ要セス

第十三條　被保險者中其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ組合員ハ十日以內ニ其ノ被保險者ノ氏名及資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ

第三章　保險給付及保健施設

第十四條　本組合ハ保險給付トシテ療養ノ給付ヲ爲ス

第十四條　本組合ニ於テ爲ス保險給付ノ種類左ノ如シ

一　療養ノ給付
二　助產ノ給付(助產費ノ支給)
三　葬祭ノ給付(葬祭費ノ支給)
四　何々

第十五條　療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　診察、往診及處方箋ノ交付ヲ含ム)
二　藥劑又ハ治療材料ノ支給、診療以外ノ藥品及寶藥ノ支給ヲ含マス)
三　處置、手術其ノ他ノ手當
四　入院
五　看護
六　被保險者ノ移送
七　何々

處置、手術其ノ他ノ手當ニ付テハ組合ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回十圓(何圓)ヲ以テ限度トス

入院(看護及被保險者ノ移送)ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條　前條第一號乃至第三條ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第　條　療養ノ給付ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日(何日)ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

第十七條　被保險者左ノ場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

一　組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

台本

二　緊急ノ必要アルトキ
三　其ノ他必要ニ依リ組合ノ承認ヲ受ケタルトキ

第十八條　療養費ノ額ハ療養ニ要シタル實費トス但シ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヨリ第十九條ノ規定ニ依ル一部負擔ノ額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　被保險者療養ノ給付ヲ受クルトキハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第十九條　被保險者療養ノ給付ヲ受クルトキハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ何割ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルヘシ

一部負擔金ノ割合(額)及其ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第　條　助產ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　分娩前ノ診察
二　分娩ノ介助
三　分娩後ノ處置

第　條　助產ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル產婆ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第　條　組合ハ療養費ヲ支給スル場合ノ例ニ依リ助產ノ給付ニ代ヘテ助產費ヲ支給ス

助產費ノ額ハ助產ニ要シタル實費トス但シ助產ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

〔**第　條**　助產費ノ額ハ何圓トス〕(註　本條ハ前三條ニ代ルモノトス)

第　條　葬祭ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　葬祭具ノ支給
二　埋葬
三　其ノ他ノ葬儀ノ執行ニ必要ナルモノノ支給

第　條　組合必要アリト認メタル場合ニ於テハ葬祭ノ給付ニ代ヘテ葬祭費ヲ支給スルコトアルヘシ

葬祭費ノ額ハ何圓トシ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス

第　條　葬儀費ノ額ハ何圓トシ葬儀ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス

(註　本條ハ前二條ニ代ルモノトス)

第　條　組合設立後被保險者ト爲リタル者ハ左ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ保險給付ヲ受クルコトヲ得ス但シ出生ニ因リ被保險者ト爲リタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　療養ニ關スル給付ニ付テハ三十日(何日)
二　助產及葬儀ニ關スル給付ニ付テハ九十日(何日)

第二十條　傳染病豫防法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ無償ニテ療養ヲ受クル場合ハ其ノ限度ニ於テ療養ノ給付ハ之ヲ爲サス

台本

第二十一條　組合必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトアルヘシ

第二十五條　各組合員ノ保險料ノ等級ハ資力ヲ標準トシ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム其ノ等級ノ變更ニ付亦同シ

第二十六條　保險料ノ等級及額ヲ決定シタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ組組員ニ通知スヘシ等級又ハ額ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二十六條　保險料ハ毎月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第二十七條　保險料ハ毎年何月ヨリ何月迄ノ分ヲ何月末日迄ニ何月ヨリ何月迄ノ分ヲ何月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第　條　保險料ハ米(何々)ヲ以テ納付スルコトヲ得

換價其ノ他必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第二十八條　納期限ヲ過キ保險料ヲ納付セサル者アルトキハ理事ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

第二十九條　特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第三十條　本章ニ定ムルモノノ外保險料ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　組合會及役員

第三十一條　組合會議員ノ定數ハ何人トス

第三十二條　理事ノ定數ハ何人トス

第三十三條　理事長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘキ理事ハ理事長之ヲ指名ス

第　條　理事中一名ヲ以テ常務理事トシ理事之ヲ互選ス

左ノ事項ハ常務理事ニ於テ專決スルコトヲ得

一　組合員ノ加入及脫退ニ屬スル事項

二　被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

三　保險給付ノ決定ニ關スル事項但シ保險給付ノ不支給ノ決定ヲ除ク

四　收入及支出ノ決定ニ關スル事項

五　何々

六　其ノ他定例ニ屬スル事項又ハ輕易ナル事項

第　條　本組合ハ本組合ニ贊助スル者ヲ以テ贊助員ト爲スコトヲ得

贊助員ハ組合ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十四條　本組合ニ事務員ヲ置クコトヲ得

事務員ハ理事之ヲ任免ス

第六章　雜　則

第三十五條　豫備費ヲ以テ充ツルコトヲ得ル費途左ノ如シ

一　保險給付費

二　保健施設費

第三十六條　組合ノ財產ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ管理ス

一　有價證券ハ郵便局ニ保管ヲ託シ又ハ何々銀行ニ保護預トス

二　現金ハ郵便貯金ト爲シ又ハ何々銀行ニ預入ス

三　前ニ揭クル以外ノ財產ノ管理ハ組合會ノ議決ヲ經タル方法ニ依ル

第　條　本組合ノ施設ヲ被保險者ニ非サル者ヲシテ利用セシメタル場合ニ於ケル利用料ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第三十七條　本章ニ定ムルモノノ外組合ノ會計ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第三十八條　組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五圓以下ノ過怠金ヲ徵收スルコトアルヘシ

一　第九條前段若ハ第十三條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ其ノ屆出ニ虛僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

二　何々

(二)特別國民健康保險組合規約例　(同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル組合ノ場合)

何國民健康保險組合規約

第一章　總　則

第一條　本組合ハ國民健康保險法ニ基キ本組合ノ被保險者ノ健康保險ヲ行フヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ何國民健康保險組合ト稱ス

第三條　本組合ノ事務所ハ何縣何市何町何番地ニ置ク

第四條　本組合ハ何從業員ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　本組合ニ於テ公示スヘキ事項ハ組合ノ掲示場ニ掲示（何々ニ掲載）ス

第六條　本組合ノ帳簿及書類ノ保存ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　組合員及被保險者

第七條　本組合ハ組合員ヲ以テ被保險者トス

第八條　本組合ニ加入セントスル者ハ其ノ住所、氏名、男女別生年月及報酬月額ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ申込ムヘシ

加入ノ申込ヲ爲シタル者ハ其ノ日ヨリ組合員ト爲ルモノトス

加入申込書ニ記載シタル事項中變更アリタルトキハ十日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第九條　組合員ハ三月前（何月前）迄ニ書面ヲ以テ豫告ヲ爲シ其ノ年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得

第十條　組合員其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ十日以內ニ資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ

第三章　保險給付及保健施設

第十一條　本組合ニ於テ爲ス保險給付ノ種類左ノ如シ

一　療養ノ給付（療養費ノ支給）

二　助產ノ給付（助產費ノ支給）

三　葬祭費ノ支給

四　傷病手當金ノ支給

五　何々

第十二條　療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　診察（往診及處方箋ノ交付ヲ含ム）

二　藥劑又ハ治療材料ノ支給（診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ含マス）

三　處置、手術其ノ他ノ手當

四　入院

五　看護

六　被保險者ノ移送

七　何々

處置、手術其ノ他ノ手當ニ付テハ組合ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回十圓（何圓）ヲ以テ限度トス

入院（看護及被保險者ノ移送）ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十三條　前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第　條　療養ノ給付ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日（何日）ヲ經過シ

タルトキハ之ヲ爲サス

第十四條　被保險者左ノ場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

一　組合ニ於ヲ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二　緊急ノ必要アルトキ

三　其ノ他必要ニ依リ組合ノ承認ヲ受ケタルトキ

第十五條　療養費ノ額ハ療養ニ要シタル實費トス但シ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヨリ第十六條ノ規定ニ依ル一部負擔ノ額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十六條　療養ノ給付ヲ受クルトキハ組合員ハ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルヘシ

一部負擔金ノ割合（額）及其ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　療養ノ給付ヲ受クルトキハ組合員ハ其ノ費用ノ一部負擔金ノ割合（額）及其ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

何割ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルヘシ

一部負擔金ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　療養費ノ額ハ左ノ範圍ノ療養ニ要シタル費用ノ何分ノ何トス但シ別ニ定ムル標準額ヲ超ユルコトヲ得ス

一　診察（往診及處方箋ノ交付ヲ含ム）

二　藥劑又ハ治療材料ノ交付（診療以外ノ藥品及賣藥ノ交付ヲ含マス）

三　處置、手術其ノ他ノ手當

四　入院

五　看護

六　移送

七　何々

療養ニ要シタル費用ニシテ必要ノ限度ヲ超ユルト認ムルトキハ療養費ヲ減額スルコトアルヘシ

（註　本條ハ第十二條乃至第十六條ニ代ルモノトス）

第十七條　助產ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　分娩前ノ診察

二　分娩ノ介助

三　分娩後ノ處置

四　入院

入院ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十八條　助產ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル產婆ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第十九條　組合ハ療養費ヲ支給スル場合ノ例ニ依リ助產ノ給付ニ代ヘテ助產費ヲ支給ス

助產費ノ額ハ助產ニ要シタル實費トス但シ助產ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　助產費ノ額ハ何圓トス（註　本條ハ前三條ニ代ルモノトス）

第二十條　葬祭費ノ額ハ何圓トシ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス

第　條　傷病手當金ハ被保險者療養ノ爲業務ニ服スルコト能ハサル場合ニ於テ其ノ期間之ヲ支給ス但シ其ノ期間中報酬ヲ受クル期間ニ付テハ之ヲ支給セス

手當金ノ額ハ一日ニ付報酬月額ノ三十分ノ一ノ六割（何割）ニ相當スル額トシ業務ニ服スルコト能ハサルニ至リタル日ヨリ起算シ第四日（何日）ヨリ之ヲ支給ス

第　條　（療養費及）傷病手當金ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日（何日）ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

第　條　組合設立後加入シタル者ハ左ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ保險給付ヲ受クルコトヲ得ス

一　療養ニ關スル給付（療養費）（及傷病手當金）ニ付テハ三十日（何日）

二　助產及葬祭ニ關スル給付ニ付テハ九十日（何日）

第二十一條　傳染病豫防法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ無償ニテ療養ヲ受クル場合ハ其ノ限度ニ於テ療養ノ給付（療養費ノ支給）ハ之ヲ爲サス

第二十二條　組合必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトアルヘシ

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シテハ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第　條　組合ハ保險料ヲ著シク滯納スル者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十三條　本組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持增進スル爲左ノ施設ヲ爲ス

一　豫防注射

二　健康診斷

三　何々

四　其ノ他健康ノ保持增進ニ關スル施設

第二十四條　本章ニ定ムルモノノ外保險給付及保健施設ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第四章　保險料

第二十五條　組合員ハ每月保險料トシテ報酬月額ノ何分ノ何ニ相當スル額ヲ組合ニ納付スルモノトス

第二十六條　保險料ノ額ヲ決定シタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ組合員ニ通知スヘシ其ノ額ニ變更アリタルトキハ亦同シ

第二十七條　保險料ハ每月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第二十八條　納期限ヲ過キ保險料ヲ納付セサル者アルトキハ理事ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

第二十九條　特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第三十條　本章ニ定ムルモノノ外保險料ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　組合會及役員

第三十一條　組合會議員ノ定數ハ何人トス

第三十二條　理事ノ定數ハ何人トス

第三十三條　理事長故障アルトキハ其ノ職務ヲ代理スヘキ理事ハ理事長之ヲ指名ス

第　條　理事中一名ヲ以テ常務理事トシ理事之ヲ互選ス

左ノ事項ハ常務理事ニ於テ專決スルコトヲ得

一　組合員ノ加入及脫退ニ關スル事項

二　保險給付ノ決定ニ關スル事項但シ保險給付ノ不支給ノ決定ヲ除ク

三　收入及支出ノ決定ニ關スル事項

四　何々

五　其ノ他定例ニ屬スル事項又ハ輕易ナル事項

第　條　本組合ハ本組合ニ贊助スル者ヲ以テ贊助員トス

贊助員ハ組合ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十四條　本組合ニ事務員ヲ置クコトヲ得

事務員ハ理事之ヲ任免ス

第六章　雜　則

第三十五條　豫備費ヲ以テ充ツルコトヲ得ル費途左ノ如シ

一　保險給付費

二　保健施設費

第三十六條　組合ノ財產ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ管理ス

一　有價證券ハ郵便局ニ保管ヲ託シ何々銀行ニ保護預トシ又ハ何々信託會社ニ信託ス

二　現金ハ郵便貯金ト爲シ何々銀行ニ預入レ又ハ何々信託會社ニ預入ス

三　前各號ニ揭クル以外ノ財產ノ管理ハ組合會ノ議決ヲ經タル方法ニ依ル

第　條　本組合ノ施設ヲ被保險者ニ非サル者ヲシテ利用セシメタル場合ニ於ケル利用料ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第三十七條　本章ニ定ムルモノノ外組合ノ會計ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

（三ノ特別國民健康保險組合規約例（同種ノ業務ニ從事スル者ヲ以テ組織スル組合ノ場合））

何國民健康保險組合規約

第一章　總則

第一條　本組合ハ國民健康保險法ニ基キ本組合ノ被保險者ノ健康保險ヲ行フヲ以テ目的トス

第二條　本組合ハ何國民健康保險組合ト稱ス

第三條　本組合ノ事務所ハ何縣何市何町何番地ニ置ク

第四條　本組合ハ何市(何區)何業組合ニ屬スル何業者ヲ以テ之ヲ組織ス

第五條　本組合ニ於テ公示スヘキ事項ハ組合ノ揭示場ニ揭示(何々ニ揭載)ス

第六條　本組合ノ帳簿及書類ノ保存ニ關スル規定ハ別ニ之ヲ定ム

第二章　組合員及被保險者

第七條　本組合ハ組合員及其ノ世帶ニ屬スル者ヲ以テ被保險者トス但シ左ニ揭クル者ヲ除ク

一　健康保險ノ被保險者

二　他ノ國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ノ被保險者

(三　私傷病ニ付療養ニ關スル給付ヲ爲ス官業共濟組合及警察共濟組合ノ組合員)

四　何々

第八條　本組合ニ加入セントスル者ハ其ノ住所氏名竝ニ被保險者タルヘキ者ノ氏名、男女別、生年月及自己トノ續柄ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ申込ムヘシ

加入ノ申込ヲ爲シタル者ハ其ノ日ヨリ組合員ト爲ルモノトス

加入申込書ニ記載シタル事項中變更アリタルトキハ十日以內ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第九條　新ニ被保險者ト爲リタル者アリタルトキハ組合員ハ十日以內ニ其ノ被保險者ノ氏名、男女別、生年月及自己トノ續柄ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ記載事項中變更アリタルトキ亦同シ

第十條　組合員ハ三月前(何月前)迄ニ書面ヲ以テ豫告ヲ爲シ其ノ年度ノ終ニ於テ脫退スルコトヲ得

第十一條　組合員其ノ資格ヲ喪失シタルトキハ十日以內ニ資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ

第十二條　組合員其ノ資格ヲ喪失シタル場合ニ於テ同一世帶內ノ組合員タル資格ヲ有スル者之ニ代リ組合員タラントスルトキハ前條ノ期間內ニ書面ヲ以テ組合員變更ノ屆出ヲ爲スヘシ

此ノ場合ニ於テハ第八條ノ申込及前條ノ屆出ハ之ヲ要セス

第十三條　被保險者中其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ組合員ハ十日以內ニ其ノ被保險者ノ氏名及資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ

第三章　保險給付及保健施設

台本

第十四條　本組合ニ於テ爲ス保險給付ノ種類左ノ如シ

一　療養ノ給付

二　助產ノ給付(助產費ノ支給)

三　葬祭費ノ支給

四　何々

第十五條　療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　診療(往診及處方箋ノ交付ヲ含ム)

二　藥劑又ハ治療材料ノ支給(診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ含マス)

三　處置、手術其ノ他ノ手當

四　入院

五　看護

六　被保險者ノ移送

七　何々

處置、手術其ノ他ノ手當ニ付テハ組合ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回十圓(何圓)ヲ以テ限度トス

入院(看護及被保險者ノ移送)ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第十六條　前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第　條　療養ノ給付ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日(何日)ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

第十七條　被保險者左ノ場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師、齒科醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

一　組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二　緊急ノ必要アルトキ

三　其ノ他必要ニ依リ組合ノ承認ヲ受ケタルトキ

第十八條　療養費ノ額ハ療養ニ要シタル實費トス但シ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヨリ第十九條ノ規定ニ依ル一部負擔ノ額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第十九條　被保險者療養ノ給付ヲ受クルトキハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルヘシ

一部負擔金ノ割合(額)及其ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十九條　被保險者療養ノ給付ヲ受クルトキハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ何割ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スルコトアルヘシ

台本

（一部負擔金ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム）

第二十條　助產ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　分娩前ノ診察

二　分娩ノ介助

三　分娩後ノ處置

四　入院

入院ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第二十一條　助產ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル產婆ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受ルコトヲ得

第二十二條　組合ハ療養費ヲ支給スル場合ノ例ニ依リ助產ノ給付ニ代ヘテ助產費ヲ支給ス

助產費ノ額ハ助產ニ要シタル實費トス但シ助產ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

（第　條　助產費ノ額ハ何圓トス（註　本條ハ前三條ニ代ルモノトス））

第二十三條　葬祭費ノ額ハ何圓トシ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス

第二十四條　傳染病豫防法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ無償ニテ療養ヲ受クル場合ハ其ノ限度ニ於テ療養ノ給付ハ之ヲ爲サス

第二十五條　組合必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトアルヘシ

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シテハ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第　條　組合ハ保險料ヲ著シク滯納スル組合員ノ世帶ノ被保險者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第二十六條　本組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持增進スル爲左ノ施設ヲ爲ス

一　豫防注射

二　健康診斷

三　何々

四　其ノ他健康ノ保持增進ニ關スル施設

第二十七條　本章ニ定ムルモノノ外保險給付及保健施設ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第四章　保險料

第二十八條　組合員ハ每月左ノ等級ニ依ル保險料ヲ納付スルモノトス

第一級　何　錢

第二級　何　錢

第　級　何圓何錢

被保險者數五人（何人）ヲ超ユル世帶ニ在リテハ其ノ一人（何人）ヲ增ス每ニ前項ノ額ニ何錢　何級以下ハ何錢）ヲ加算シタルモノヲ以テ保險料トス

第二十九條　各組合員ノ保險料ノ等級ハ所得ヲ標準トシ組合會

ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム其ノ等級ノ變更ニ付亦同シ

第三十條　保險料ノ等級及額ヲ決定シタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ組合員ニ通知スヘシ等級又ハ額ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二十八條　組合員ハ每月何圓何錢ノ保險料ヲ納付スルモノトス

（被保險者數五人（何人）ヲ超ユル世帶ニ在リテハ其ノ一人（何人）ヲ增ス每ニ前項ノ額ニ何錢ヲ加算シタルモノヲ以テ保險料トス）

第二十九條　保險料ノ額ヲ決定シタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ組合員ニ通知スヘシ其ノ額ニ變更アリタルトキ亦同シ

第三十一條　保險料ハ每月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

第三十二條　納期限ヲ過キ保險料ヲ納付セサル者アルトキハ理事ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

第三十三條　特別ノ事由アル者ニ付テハ組合會ノ議決ヲ經テ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第三十四條　本章ニ定ムルモノノ外保險料ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　組合會及役員

第三十五條　組合會議員ノ定數ハ何人トス

第三十六條　理事ノ定數ハ何人トス

第三十七條　理事長故障アルトキ其ノ職務ヲ代理スヘキ理事ハ理事長之ヲ指名ス

第　條　理事中一名ヲ以テ常務理事トシ理事之ヲ互選ス

左ノ事項ハ常務理事ニ於テ專決スルコトヲ得

一　組合員ノ加入及脫退ニ關スル事項

二　被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

三　保險給付ノ決定ニ關スル事項但シ保險給付ノ不支給ノ決定ヲ除ク

四　收入及支出ノ決定ニ關スル事項

五　何々

六　其ノ他定例ニ屬スル事項又ハ輕易ナル事項

第　條　本組合ハ本組合ニ贊助スル者ヲ以テ贊助員ト爲スコトヲ得

贊助員ハ組合ニ對シ意見ヲ述フルコトヲ得

第三十八條　本組合ニ事務員ヲ置クコトヲ得

事務員ハ理事之ヲ任免ス

第六章　雜　則

第三十九條　豫備費ヲ以テ充ツルコトヲ得ル費途左ノ如シ

一　保險給付費

二　保健施設費

第四十條　組合ノ財產ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ管理ス

一　有價證券ハ郵便局ニ保管ヲ託シ何々銀行ニ保護預トシ又ハ何々信託會社ニ信託ス

二　現金ハ郵便貯金ト爲シ何々銀行ニ預入レ又ハ何々信託會社ニ預入ス

三　前各號ニ掲クル以外ノ財産ノ管理ハ組合會ノ議決ヲ經タル方法ニ依ル

第　條　本組合ノ施設ヲ被保險者ニ非サル者ヲシテ利用セシメタル場合ニ於ケル利用料ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第四十一條　本章ニ定ムルモノノ外組合ノ會計ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第四十二條　組合員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ五圓以下ノ過怠金ヲ徴收スルコトアルヘシ

一　第九條前段若ハ第十三條ノ規定ニ依ル屆出ヲ怠リ又ハ其ノ屆出ニ虚僞ノ記載ヲ爲シタルトキ

二　何々

（備考）

一、第　條、、、、ト記載セルモノハ組合ノ實情ニ依リ斯ノ如キ條項ノ採否自由ナルコトヲ示シタルモノナリ

二、（第何條、、、、）又ハ（第　條、、、、）ト記セルモノハ其ノ前掲ノ一條項又ハ數條項ニ代ヘテ斯ノ如キ條項ト爲ス場合ヲ示シタルモノナリ

三、一條項中ノ項又ハ號ニ括弧ヲ附セルモノハ組合ノ實情ニ依リ斯ノ如キ規定ノ存否自由ナルコトヲ示シタルモノナリ

●國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ産業組合定款變更例

何々組合定款ヲ左ノ如ク改ム

（第一章　總則）　第一條第一項ニ左ノ一號ヲ加フ

國民健康保險法ノ規定ニ依リ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フコト

（第四章　事業執行第　節）　第　條ノ次ニ左ノ一節ヲ加フ

第　節　國民健康保險

第　條ノ二　第一條第一項第　號ノ事業ハ國民健康保險規定ノ定ムル所ニ依リ之ヲ行フ

國民健康保險規程ハ總會（總代會）ニ於テ別ニ之ヲ定ム

第　條ノ三　理事ハ國民健康保險ニ關シ國民健康保險規程ノ定ムル事務ヲ處理セシムヘキ常務理事一名ヲ互選ス

●國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ産業組合國民健康保險規程例

何々組合國民健康保險規程

第一章　被保險者

第一條　本組合ハ組合員及其ノ世帶ニ屬スル者ヲ以テ被保險者トス但シ左ニ掲クル者ヲ除ク

一　健康保險ノ被保險者

二　國民健康保險組合又ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ他ノ法人ノ被保險者

〔三　私傷病ニ付療養ニ關スル給付ヲ爲ス官業共濟組合及警察共濟組合ノ組合員〕

四　何々

第二條　新ニ被保險者ト爲リタル者アルトキハ組合員ハ十日以内ニ其ノ被保險者ノ氏名、男女別、生年月及自己トノ續柄ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ記載事項中變更アリタルトキ亦同シ

第三條　被保險者中其ノ資格ヲ喪失シタル者アルトキハ組合員ハ十日以内ニ其ノ被保險者ノ氏名及資格喪失ノ事由ヲ記載シタル書面ヲ以テ其ノ旨組合ニ屆出ツヘシ

第二章　保險給付及保健施設

第四條　本組合ニ於テ爲ス保險給付ノ種類左ノ如シ

一　療養ノ給付

二　助産ノ給付（助産費ノ支給）

三　葬祭ノ給付（葬祭費ノ支給）

四　何々

第五條　療養ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　診察、往診及處方箋ノ交付ヲ含ム）

二　藥劑又ハ治療材料ノ支給（診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ含マス）

三　處置、手術其ノ他ノ手當

四　入院

（五　看護
六　被保險者ノ移送
七　何々）

處置、手術其ノ他ノ手當ニ付テハ組合ノ承認ヲ受ケタル場合ヲ除クノ外之ニ要スル費用一回十圓（何圓）ヲ以テ限度トス

入院（看護及被保險者ノ移送）ニ付テハ組合ノ承認ヲ受クルコトヲ要ス

第六條　前條第一項第一號乃至第三號ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル醫師、齒科醫師、藥劑師其ノ他ノ者ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第　條　療養ノ給付ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付其ノ給付ヲ始メタル日ヨリ起算シ百八十日（何日）ヲ經過シタルトキハ之ヲ爲サス

第七條　被保險者左ノ場合ニ於テ組合ノ指定セサル醫師、齒科

醫師其ノ他ノ者ノ手當ヲ受ケタルトキハ療養ノ給付ニ代ヘテ療養費ヲ支給ス

一　組合ニ於テ療養ノ給付ヲ爲スコト困難ナリト認メタルトキ

二　緊急ノ必要アルトキ

三　其ノ他ノ必要ニ依リ組合ノ承認ヲ受ケタルトキ

第八條　療養費ノ額ハ療養ニ要シタル實費トス但シ療養ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヨリ第九條ノ規定ニ依ル一部負擔ノ額ヲ控除シタル額ヲ超ユルコトヲ得ス

第九條　被保險者療養ノ給付ヲ受クルトキハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ一部ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ總會（總代會）ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スル事アルヘシ

一部負擔金ノ割合（額）及其ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第九條　被保險者療養ノ給付ヲ受クル時ハ其ノ世帶ノ組合員ハ其ノ費用ノ何割ヲ負擔スルモノトス但シ特別ノ事由アル者ニ付テハ總會（總代會）ノ議決ヲ經テ之ヲ減免スル事アルヘシ一部負擔金ノ徵收方法ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第十條　助產ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　分娩前ノ診察

二　分娩ノ介助

三　分娩後ノ處置

第十一條　助產ノ給付ニ付テハ被保險者ハ組合ノ指定シタル產婆ノ中自己ノ選定シタル者ニ就キ之ヲ受クルコトヲ得

第十二條　組合ハ療養費ヲ支給スル場合ノ例ニ依リ助產ノ給付ニ代ヘテ助產費ヲ支給ス

助產費ノ額ハ助產ニ要シタル實費トス但シ助產ノ給付ヲ爲ス場合ニ要スル額ヲ超ユルコトヲ得ス

〔**第十條**　助產費ノ額ハ何圓トス（註　本條ハ前三條ニ代ルモノトス）〕

第十三條　葬祭ノ給付ノ範圍左ノ如シ

一　葬祭具ノ支給

二　埋葬

三　其ノ他葬儀ノ執行ニ必要ナルモノノ支給

第十四條　組合必要アリト認メタル場合ニ於テハ葬祭ノ給付ニ代ヘテ葬祭費ヲ支給スルコトアルヘシ

葬祭費ノ額ハ何圓トシ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス

〔**第十三條**　葬祭費ノ額ハ何圓トシ葬祭ヲ行フ者ニ之ヲ支給ス（註　本條ハ前二條ニ代ルモノトス）〕

第　條　國民健康保險組合ノ事業開始後被保險者ト爲リタル者ハ左ノ期間ヲ經過スルニ非サレハ保險給付ヲ受クルコトヲ得ス但シ出生ニ因リ被保險者ト爲リタル者ハ此ノ限ニ在ラス

一　療養ニ關スル給付ニ付テハ三十日（何日）

台本

二　助產及葬祭ニ關スル給付ニ付テハ九十日（何日）

第十五條　傳染病豫防法其ノ他ノ法令ノ規定ニ依リ無償ニテ療養ヲ受クル場合ハ其ノ限度ニ於テ療養ノ給付ハ之ヲ爲サス

第十六條　組合必要アリト認ムルトキハ保險給付ヲ受クル者ノ診斷ヲ行フコトアルヘシ

正當ノ理由ナクシテ前項ノ診斷ヲ拒ミタル者ニ對シテハ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第　條　組合ハ保險料ヲ著シク滯納スル組合員ノ世帶ノ被保險者ニ對シ保險給付ノ全部又ハ一部ヲ爲ササルコトアルヘシ

第十七條　本組合ハ被保險者ノ健康ヲ保持增進スル爲左ノ施設ヲ爲ス

一　豫防注射

二　健康診斷

三　何々

四　其ノ他健康ノ保持增進ニ關スル施設

第十八條　本章ニ定ムルモノノ外保險給付及保健施設ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第三章　保險料

第十九條　組合員ハ每月左ノ等級ニ依ル保險料ヲ納付スルモノトス

第一級　何　錢

第二級　何　錢

第　級　何圓何錢

（被保險者數五人（何人）ヲ超ユル世帶ニ在リテハ其ノ一人（何人）ヲ增ス每ニ前項ノ額ニ（何錢何級以下ハ何錢）ヲ加算シタルモノヲ以テ保險料トス）

第二十條　各組合員ノ保險料ノ等級ハ資力ヲ標準トシ總會（總代會）ノ議決ヲ經テ之ヲ定ム其ノ等級ノ變更ニ付亦同シ

第二十一條　保險料ノ等級及額ヲ決定シタルトキハ理事ハ遲滯ナク之ヲ組合員ニ通知スヘシ等級又ハ額ニ變更アリタルトキ亦同シ

第二十二條　保險料ハ每月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ

（**第二十二條**　保險料ハ每年何月ヨリ何月迄ノ分ヲ何月末日迄ニ何月ヨリ何月迄ノ分ヲ何月末日迄ニ之ヲ納付スヘシ）

第　條　保險料ハ米（何々）ヲ以テ納付スルコトヲ得

換價其ノ他必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第二十三條　納期限ヲ過キ保險料ヲ納付セサル者アルトキハ理事ハ期限ヲ指定シテ之ヲ督促スヘシ

第二十四條　特別ノ事由アル者ニ付テハ總會（總代會）ノ議決ヲ經テ保險料ヲ減免シ又ハ其ノ徵收ヲ猶豫スルコトアルヘシ

第二十五條　本章ニ定ムルモノノ外保險料ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第四章　財務

第二十六條　本組合ノ國民健康保險ニ關スル收入支出ハ他ノ事業ニ關スル會計ト區分シ之ヲ經理スルモノトス

第二十七條　本組合ノ國民健康保險ニ關スル會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル但シ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ之ヲ閉鎖ス

第二十八條　豫備費ヲ以テ充ツルコトヲ得ル費途左ノ如シ

一　保險給付費

二　保健施設費

第二十九條　國民健康保險ニ關スル會計ニ屬スル財產ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ管理ス

一　有價證券ハ郵便局ニ保管ヲ託シ又ハ產業組合中央金庫若ハ何々銀行ニ保護預トス

二　現金ハ郵便貯金ト爲シ又ハ產業組合中央金庫、何々信用組合聯合會若ハ何々銀行ニ預入ス

三　前二號ニ揭クル以外ノ財產ノ管理ハ總會（總代會）ノ議決ヲ經タル方法ニ依ル

第三十條　本章ニ定ムルモノノ外國民健康保險ニ關スル會計ニ關シ必要ナル事項ハ別ニ之ヲ定ム

第五章　雜則

第三十一條　左ノ事項ハ常務理事ニ於テ之ヲ專決スルコトヲ得

一　被保險者ノ資格ノ得喪ニ關スル事項

二　保險給付ノ決定ニ關スル事項但シ保險給付ノ不支給ノ決定ヲ除ク

三　收入及支出ノ決定ニ關スル事項

四　何々

五　其ノ他定例ニ屬スル事項又ハ輕易ナル事項

第　條　一世帶ニ二人以上ノ組合員アルトキハ理事ハ保險料及第九條ノ一部負擔金ヲ納付スヘキ組合員ヲ定メ之ヲ其ノ組合員ニ通知スヘシ

第三十二條　本組合ニ於テ國民健康保險ニ關シ公示スヘキ事項ハ本組合ノ揭示場ニ揭示（何々ニ揭載）ス

第三十三條　本組合ハ國民健康保險ニ關スル帳簿及書類ノ保存ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

（備考）

一、第　條ヽヽヽヽト記載セルモノハ組合ノ實情ニ依リ斯ノ如キ條項ノ採否自由ナルコトヲ示シタルモノナリ

二、（第何條ヽヽヽヽ）ト記載セルモノハ其ノ前揭ノ一條項又ハ數條項ニ代ヘテ斯ノ如キ條項ト爲ス場合ヲ示シタルモノナリ

三、一條項中ノ項又ハ號ニ括弧ヲ附セルモノハ組合ノ實情ニ依リ斯ノ如キ規定ノ存否自由ナルコトヲ示シタルモノナリ。

第二款　國民健康保險關係例規及通牒

第一項　國民健康保險ノ組合設立

●國民健康保險組合設立認可後至急措置セシムヘキ事項ニ關スル件

（昭和十三年六月二十二日社發第六四〇號地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合設立認可後左記事項ハ組合ヲシテ至急措置セシムヘキモノニ有之候條御留意相成度爲念

記

一、運滯ナク規約ヲ公示スルコト（施行規則第七條）

二、運滯ナク被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師齒科醫師又ハ藥劑師等ヲ定メ且之ヲ公示スルコト（施行規則第十三條）而シテ右ハ理事ノ職務ヲ行フ發起人ニ於テ專決スルモ可ナルコト

三、保險給付ニ關スル規程其ノ他必要ナル諸規程ヲ定メ組合員ニ周知セシムルコト而シテ右ハ理事ノ職務ヲ行フ發起人ニ於テ專決スルモ可ナルコト（施行規則第八十條）

四、運滯ナク組合會議員選擧ヲ執行スルコト

五、組合會議員選擧執行後運滯ナク組合會ヲ招集シテ施行規則第八條ニ規定スル事項ヲ報告スルコト（理事ノ職務執行者タル發起人カ專決シタル事項アルトキハ之ヲモ報告スルコト）

六、運滯ナク理事及理事長ノ選任ヲ爲スコト

七、議員、理事及理事長就職シタルトキハ之ヲ公示スルコト（施行規則第三十一條及第五十一條）

八、保險料ノ等級及額ヲ決定シ之ヲ組合員ニ通知スルコト

九、被保險者臺帳、歲入簿、歲出簿及現金出納簿其ノ他必要ナル帳簿ヲ調製スルコト（施行規則第七十八條）

●國民健康保險組合ノ事業計畫書及保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面ニ關スル件

（昭和十三年六月三十日社發第六八五號地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險法施行規則第二條、第七十三條及第七十四條ノ規定ニ依リ組合設立認可申請書、組合ノ地區又ハ組合員ノ範圍ノ變更ニ關スル規約變更認可申請書又ハ保險料變更ニ關スル規約變更認可申請書ニ添附スヘキ事業計畫書又ハ保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面ニ付テハ別紙記載例ニ準據シテ作成セシメラレ

度

○國民健康保險組合事業計畫書記載例

何村國民健康保險組合事業計畫書

一、組合地區內世帶數及人口、昭和何年何月何日現在）

區劃別	世帶數	人口
字何々		
字何々		
、、、、		
計		

二、組合員數及被保險者數

區劃別	組合員タル資格ヲ有スル者ノ數	組合員數	被保險者數
字何々			
字何々			
、、、、			
計			

保險料ノ等級別	組合員タル資格ヲ有スル者ノ數	組合員數	被保險者數
第一級ニ該當スル者			
第二級ニ該當スル者			
、、、、			
計			

備考

（一）未加入者ノ未加入理由

（二）將來加入ノ見込アル組合員數　何人

三、當初五年間收支豫想

種別	初年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度
收入 保險料	円	円	円	円	円
收入 療養ノ給付費用一部負擔金					
收入 國庫補助金					
收入 何々補助金					
收入 其ノ他					
收入 計					
支出 保險給付費					
支出 保健施設費					
支出 事務費					
支出 準備金積立					
支出 其ノ他					
支出 計					

四、療養ノ給付方法及一部負擔

イ、診療又ハ藥劑ノ支給ハ何醫師會、何齒科醫師會及何藥劑師會ト契約シ指定ノ醫師、齒科醫師及藥劑師ヲシテ之ニ當ラシムル豫定トス

（イ、診療又ハ藥劑ノ支給ハ何村及何村ノ開業醫師、齒科醫師及藥劑師ヲシテ之ニ當ラシムル豫定トス
ロ、一部負擔ノ割合ハ平均何割程度ニ定ムル豫定トス）

五、助產ノ給付方法

助產ハ何村及何村ノ產婆ヲシテ之ニ當ラシムル豫定トス

六、葬祭ノ給付方法

葬祭ハ何村及何村ノ寺院ニ依囑シ葬儀ノ執行ニ必要ナル用具等ハ組合ニ於テ交付シ又ハ貸與スル豫定トス

七、保健施設

豫防注射、健康診斷等ヲ施行スルノ外衞生思想涵養ノ宣傳等ニ努ムル豫定トス

八、其ノ他

理事長ハ何村村長ヲ以テ之ニ充ツル豫定トス

組合ニ事務員專任何人ヲ置ク豫定トス

事務所ハ何村役場內ニ置ク豫定トス

（注意）

一、「組合地區內世帶數及人口」ト「組合員數及被保險者數」トハ同一ノ日現在ノ調査ニ係ルモノヲ記載スルコト

二、「組合員數及被保險者數」表中「保險料ノ等級別」欄ニハ保險料ニ一定ノ等級ヲ設ケサル組合ニ在リテハ多額ノ收入アル者ナリヤ否ノ別ニ依リ數階級ニ區分シテ之ヲ記載スルコト

三、「未加入者ノ未加入理由」ハ例ヘハ「生活ニ餘裕ナキニ依ルモノ　何人」「事業ニ理解ナキニ依ルモノ　何人」等ノ如キ區別ニ依リ之ヲ記載スルコト

四、本例ハ普通國民健康保險組合ノ場合ノ例ナルモ特別國民健康保險組合ノ場合ニ付テモ之ニ準シテ作成スルコト但シ左記ニ留意スルコト

イ、同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル組合ニ在リテハ「一」ヲ「組合設立ノ基礎タル事業從事員數」トシテ職名別ニ其ノ員數ヲ記載シ、「二」ニハ「職名別」及「報酬額別」（適宜ニ區分スルコト）ニ依リ記載スルコト

ロ、同種ノ業務ニ從事スル者ヲ以テ組織スル組合ニ在リテハ「一」ヲ「組合ノ基礎タル同業組合員數及世帶員數」ノ如

クシテ區、町等ノ區劃別ニ其ノ員數ヲ記載スルコト

○保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面例

（等級ニ依リ保險料ヲ定ムル組合ノ場合）

何國民健康保險組合保險料算出ノ基礎

保險料

等級	等級決定ノ標準	組合員一人ニ付保險料月額	組合員數	總額	摘要
第一級					
第二級					
第　級					
計					

割增保險料（被保險者五人（何人）ヲ超ユル世帶ニ對スルモノ）

世帶人員	第一級—第何級		第何級—第何級		合計	
	組合員一人ニ付割增保險料月額	組合員數 總額	組合員一人ニ付割增保險料月額	組合員數 總額	組合員數	總額
六人（何人）ノ世帶						
七人（何人）ノ世帶						
、、、、、、、						
計						

台本

一、組合員一人ニ付　一ケ月平均何圓何錢

（被保險者一人ニ付　一ケ月平均何　錢）

二、組合員保險料負擔表

基本保險料

一、被保險者數

年齡階級	男	女	計
一〇歲未滿			
二〇歲未滿			
三〇歲未滿			
四〇歲未滿			
五〇歲未滿			
六〇歲未滿			
七〇歲未滿			
八〇歲未滿			
八〇歲以上			
計			

二、被保險者一人ニ付平均療養ノ給付費　年　何圓何錢

三、女子被保險者有夫率　千人ニ付　何人

四、有夫女子被保險者一年間ニ於ケル分娩率　千人ニ付　何人

五、被保險者一年間ニ於ケル死亡率

男千人ニ付　何人

女千人ニ付　何人

平均千人ニ付　何人

六、療養ノ給付費用一部負擔ノ割合　何割何分

七、平均保險料算出順序

療養給付費年額＝被保險者一人當療養ノ給付費年額×被保險者數

助産給付費年額＝分娩一件當給付費額×女子被保險者數×女子被保險者有夫率×一年間分娩率

葬祭給付費年額＝死亡一件當給付費額×被保險者數×被保險者一年間死亡率

保險給付費年額＝療養給付費年額＋助産給付費年額＋葬祭給付費年額

保險料所要年額＝保險給付費年額×（1＋準備金積立額ノ割合＋保健施設費額ノ割合＋事務費額ノ割合）－（療養給付費年額×一部負擔ノ割合）－（被保險者一人當國庫補助金年額×被保險者數）

組合員一人當保險料年額＝$\frac{\text{保險料所要年額}}{\text{組合員數}}$

（被保險者一人當保險料年額＝$\frac{\text{保險料所要年額}}{\text{被保險者數}}$）

注意

一、組合員數增加ノ見込アルトキハ其ノ見込數ヲ等級毎ニ基本保險料表ノ摘要欄ニ記載スルコト

台本

二、被保險者一人ニ付平均療養ノ給付費年額ニ付テハ醫師ニ依ル診療費、歯科醫師ニ依ル診療費、看護費等ニ區別シ詳細ニ說明ヲ附スルコト

三、平均保險料算出順序ハ左ノ例ニ依リ計算式ヲ記載スルコト

療養ノ給付費年額　被保險者一人當療養ノ給付費年額　被保險者數

7,399.26円 ＝ 3.33円 × 2,222

助產給付費年額　分娩一件當給付費額　女子被保險者數　女子被保險者有夫率　一年間分娩率

254.11円 ＝ 3.00円 × 1,234 × 390/1,000 × 176/1,000

四、算出ノ基礎ヲ決定スル爲採リタル材料ノ根據ヲ各事項毎ニ備考トシテ附記スルコト

五、世帶人員ニ依リ保險料ヲ區別セサル組合ニ在リテハ割增保險料ヲ、助產給付又ハ葬祭給付ヲ爲ササル組合ニ在リテハ之ニ關スル事項ヲ夫々記載スルノ要ナキコト

○保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面例

（報酬月額ニ對スル一定割合ノ保險料ヲ定ムル組合ノ場合）

何國民健康保險組合保險料算出ノ基礎

保險料率

組合員報酬月額百圓ニ付　何圓何錢ノ割

一、組合員數　算出ノ基礎

二、被保險者數　何人

年齡階級	男	女	計
一〇歳未滿			
二〇歳未滿			
三〇歳未滿			
四〇歳未滿			
五〇歳未滿			
六〇歳未滿			
七〇歳未滿			
八〇歳未滿			
八〇歳以上			
計			

三、組合員平均報酬月額　男　何圓何錢

女　何圓何錢

平均　何圓何錢

四、被保險者一人ニ付平均療養ノ給付費　年　何圓何錢

五、女子被保險者有夫率　千人ニ付　何人

六、有夫女子被保險者一年間ニ於ケル分娩率　千人ニ付　何人

七、被保險者一年間ニ於ケル死亡率　男千人ニ付　何人　女千人ニ付　何人　平均千人ニ付　何人

八、療養ノ給付費用一部負擔ノ割合　何割何分

九、保險料率算出順序

療養給付費年額＝被保險者一人當療養ノ給付費年額×被保險者數

助產給付費年額＝分娩一件當給付費額×女子被保險者數×女子被保險者有夫率×一年間分娩率

葬祭給付費年額＝死亡一件當給付費額×被保險者數×被保險者一年間死亡率

保險給付費年額＝療養給付費年額＋助產給付費年額＋葬祭給付費年額

保險料所要年額＝保險給付費年額×(1＋準備金積立額ノ割合＋保健施設費額ノ割合＋事務費額ノ割合)－療養給付費年額×一部負擔ノ割合)－(被保險者一人當國庫補助金年額×被保險者數)

保險率＝保險料所要年額 / 組合員平均報酬月額×12×組合員數

注意

一、組合員數增加ノ見込アルトキハ其ノ見込數ヲ備考トシテ附記スルコト

二、被保險者一人ニ付平均療養ノ給付費年額ニ付テハ醫師ニ依ル診療費、歯科醫師ニ依ル診療費、看護費等ニ區分シ詳細ニ說明ヲ附スルコト

三、保險料率算出順序ノ計算ハ左ノ例ニ依リ記載スルコト

療養給付費年額　被保險者一人當療養ノ給付費年額　被保險者數

7,399.26円 ＝ 3.33円 × 2,222

助產給付費年額　分娩一件當給付費額　女子被保險者數　女子被保險者有夫率　一年間分娩率

254.11円 ＝ 3.00円 × 1,234 × 390/1,000 × 176/1,000

四、算出ノ基礎ヲ決定スル爲採リタル材料ノ根據ヲ各事項毎ニ備考トシテ附記スルコト

五、助產給付又ハ葬祭給付ヲ爲ササル組合ニ在リテハ之ニ關スル事項ノ記載ヲ要セサルコト

●國民健康保險組合ノ設立手續

ニ關スル件

（昭和十三年七月一日社發第六八六號）
（地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合設立ノ手續ニ關シテハ左記ニ依ラシメラレ度
追テ本件ニ關シテハ道府縣公報ニ登載スル等一般ニ周知方御
取計相成度

記

一、組合設立ノ發起人ハ本事業ニ理解ヲ有シ組合ノ經營ニ努力シ得ル者ヲ以テ之ニ當ラシムルコト

二、普通國民健康保險組合設立ノ發起人中ニハ特別ノ事由ナキ限リ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲ加フルコト

三、同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合設立ノ發起人中ニハ特別ノ事由ナキ限リ事業主又ハ其ノ指定シタル者ヲ加ヘ同種ノ業務ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合設立ノ發起人中ニハ組合設立ノ基礎ヲ爲ス同業組合等ノ役員ヲ加フルコト

四、組合員タラントスル者ノ同意ヲ得ントスルトキハ發起人ニ於テ組合事業計畫ノ概要ヲ印刷シタルモノ（別紙一ノ例參照）ヲ配付シ且趣旨ノ周知徹底ニ努メタル上同意ヲ求ムルコト

同意ノ表示ハ文書ヲ以テ爲サシメ之ニ記名捺印セシムルノ外被保險者ニ關シ規約上屆出ヲ必要トスル事項モ之ニ附記セシムルコト

五、組合設立認可申請書ハ別紙二ノ例ニ準據シテ作成スルコト

（別紙一）

普通國民健康保險組合設立趣意ニ關スル配付書類記載例

何村國民健康保險組合の設立に就いて

今般村民が病氣に罹つたり分娩をしたりした場合等の費用にお互に困らないやうに平常から掛金を出し合つて置いて醫者や産婆などにはその集つた金の中から支拂ふやうにする組織の國民健康保險組合を本村に設立したいと思ひますから左記事項を讀んで同意して下さい。

同意のお方は末尾にある同意書を切取りそれに必要事項を記載して何月何日迄に事務所（何村役場內）へ提出して下さい。

昭和何年何月何日

發起人　何　某㊞
何　某㊞
、、、、、、

一、組合員になる者
本村に住む世帶主は組合員になることが出來ます。

二、被保險者になる者
世帶主が組合員になりますと主帶主も家族全部も被保險者になります。
唯左記の者は被保險者になれません。
一、工場や鑛山の健康保險の被保險者になつてゐる者

二、何々

三、保險給付の概要（醫者や産婆にかゝる方法）
（一）被保險者になりますと疾病や負傷の場合には何郡內（何村內）のどの醫者にも受診することが出來ます。費用は大部分組合で出しますが唯療養に要した費用の何割（何々については何割）だけは組合員に負擔してねばなりません。
療養の給付は同一傷病なら百八十日（何日）まで致します。
（二）被保險者が分娩する場合には無料で産婆の手當を受けることが出來ます。
（三）尙被保險者が死亡した場合には組員で葬儀の給付を致します。

四、其の他の組合の事業
組合では被保險者の健康を增進させる爲に豫防注射や健康診斷や其の他種々の施設をする豫定です。

五、保險料の概要
組合員は毎月組合へ次の等級によつて保險料を納付すること

第　級	戶數割を何圓まで納めてゐる者	保險料　何　錢
第二級	戶數割を何圓から何圓まで納めてゐる者	〃　何　錢
第　級	右の金額の外に家族が何人より多い家ではその超過人員一人につき何錢づゝを割增納付せねばなりません。	

六、組合の機構の要務
組合には組合會を置いて重要事項はそこで決めます。組合會は組合員から選ばれた議員が集つて開きます。
組合に更に理事を置いて平常の事務を致します。

七、其の他
尙組合には政府から補助金が交付されます。

……（切……取……線）……

同意書

何村國民健康保險組合ヲ設立スルコトニ同意シマス
尙被保險者トナル者ハ左ノ通テス

昭和　年　月　日

住所
氏名　印

何村國民健康保險組合設立發起人殿

被保險者ニ爲ル者ノ氏名	男女別	生年月	世帶主トノ續柄
		年　月	
		年　月	
		年　月	
		年　月	
		年　月	
		年　月	

（注意）被保險者に爲る者の中には世帶主本人も書入れて下さい。

（別紙二）

國民健康保險組合設立認可申請書類記載例

何國民健康保險組合設立認可申請書

何國民健康保險組合設立致度候ニ付認可相成度左記關係書類相添へ申請候也

昭和何年何月何日

發起人

何縣何郡何村何番地

（代表者）職業又ハ職名　何　某　㊞

何縣何郡何村何番地

聯業又ハ職名　何　某　㊞

（以下同樣連名）

何縣知事　殿

記

一、規約
一、事業計畫書
一、保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面
一、組合員タラントスル者ノ同意アリタルコトヲ認ムルニ足ル書類
一、參考表

（以下添附書類）

何國民健康保險組合規約

（組合規約例參照）

何國民健康保險組合事業計畫書

（昭和十三年六月三十日社發第六八五號保險院社會保險局長通牒參照）

保險料算出ノ基礎ヲ示シタル書面

（同　前）

何國民健康保險組合設立同意表示者數

台本

何國民健康保險組合ヲ設立スルコトニ付組合員タル資格ヲ有スル者何人ニ對シ同意ヲ求メタルニ內何人ハ同意シタリ

右相違無之候也

昭和何年何月何日

發起人　何　某　㊞

（以下連名）

參考表

（普通國民健康保險組合ノ場合）

一、組合ノ地區タル何村ノ位置、地形及農山漁村ノ別
二、主要產業別戶數及生產年額表
三、租稅納付狀況（最近年度ニ於ケル賦課額及收納額）
四、戶數割負擔表
五、救護法ニ依ル被救護者數

（特別國民健康保險組合ノ場合）

組合設立ノ基礎ヲ爲ス事業又ハ同業團體ノ概要

●國民健康保險法施行規則第五條ノ解釋ニ關スル件

（昭和十三年十月十三日社國第五六號保險院社會保險局長ヨリ各地方長官宛）

標記ノ件ニ關シ山口縣知事ヨリ別紙甲號ノ通伺出アリタルニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候條爲念及通知候

（甲號）

山口縣知事照會（昭和十三年九月二十一日社第六三三號）

國民健康保險法施行規則第五條ノ規定ニ依ル組合設立ノ際ニ於テ定ムヘキ組合ノ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ發起人之ヲ定ムルノ意義ニ關シ疑義相生シ候條左記何レニ解スヘキヤ折返シ御指示相成度此段相伺候也

記

一、發起人之ヲ定ムトキハ其ノ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス範圍ニ屬スル契約ノ主體ヲナス相手方ノ意志ヲ確定セシメ置クヲ要シ例ヘハ組合設立發起人ニ於テ認可申請前豫メ假契約ノ如キヲ締結シ置クヲ適當トスヘシト解スヘキヤ
若シ然リトセハ認可申請書ニハ假契約書寫ノ如キヲ添付セシムルヲ適當トスヘキヤ

（乙號）

保險院社會保險局長回答（昭和十三年十月十三日社國第五六號）

標記ノ件ニ關シ客月二十一日附社第六、三三三號ヲ以テ伺出相成候處施行規則第五條ニ「診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ハ發起人之ヲ定メ」トアルハ之等ノ醫

師、歯科醫師又ハ藥劑師ヲ包括スル一定範圍ヲ劃定スルノ義ニシテ診療等ノ契約ノ相手方ノ意思ヲ確定セシメ置クカ如キハ其ノ要件ニ無之

追テ組合設立ノ認可又ハ法第五十四條ノ許可アリタルトキハ直ニ其ノ事業ヲ開始スヘキモノニ付之ニ支障ナカラシムル爲成ルヘク法第四十六條ノ認可ノ範圍内ニ於ケル診療契約等ノ締結ニ付事前ニ之カ準備ヲ整ヘ置カシムルヲ適當ト被存候ニ付御含置相成度

第二項　國民健康保險組合ノ事業

第一目　保險給付

●國民健康保險ノ診療ニ關シ診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ爲サシメサルコトニ關スル件

（昭和十三年六月二十四日保社第六二號
地方長官宛保險院長官通牒）

國民健康保險ノ診療ニ關シテハ組合又ハ組合ノ事業ヲ行フ法人ヲシテ診療以外ノ藥品及賣藥ノ支給ヲ爲サシメサル方針ニ有之候ニ付テハ組合規約例又ハ國民健康保險規程例ニ準據シ規約又ハ規程ニ於テ之カ支給ヲ爲ササル旨特ニ明記セシメ斯ノ如キ規定ヲ爲ササルモノニ付テハ組合設立ノ認可又ハ代行ノ許可ヲ爲ササル樣留意相成度

●診療錄閱覽ニ關スル件

（昭和十三年六月二十七日保社第六四號
地方長官宛保險院長官通牒）

國民健康保險組合ニ於テ國民健康保險法施行規則第十五條ノ規定ニ依リ國民健康保險ノ診療ニ關シ診療錄ヲ閱覽スル必要有之場合ハ特ニ左記事項ニ留意セシムル樣致度

追テ右ハ國民健康保險組合ノ事業ヲ行フ法人ニ付テモ同樣ニ有之爲念

記

一、診療錄ノ閱覽ハ診療カ診療契約ニ依據シ適正ニ行ハレ居ルヤ否ヤヲ知得スル限ニ於テ爲スヘキモノニシテ濫ニ之カ閱覽ヲ爲ササルコト

二、診療錄ノ閱覽ハ醫師又ハ齒科醫師タル廳府縣ノ職員ノ立會指揮ノ下ニ之ヲ爲スコト

三、診療錄ノ閱覽ニ依リ知得シタル個人ノ祕密ハ之ヲ漏洩セサルコト

●國民健康保險組合ノ診療組織ニ關スル件

（昭和十三年七月四日社發第七〇二號
地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ノ診療組織ニ關シテハ左記ニ依リ措置相成度

記

一、診療組織ハ被保險者ノ數及其ノ地理的分布狀況等ヲ參酌シ組合ノ實情ニ適セシムルコトヲ旨トシ特ニ左ノ要件ヲ具備セシムルコトニ留意スルコト

イ、被保險者カ其ノ希望スル診療機關ヲ自由ニ選擇シ得ルコト

ロ、醫療ノ內容低下セサルコト

二、診療組織ハ特別ノ事由ナキ限リ既存ノ診療機關ニ被保險者ノ診療ヲ引受ケシムル樣之ヲ組織セシムルコト

診療契約ノ方式ニハ

イ、醫師會、齒科醫師會、藥劑師會等ノ團體ニ診療ヲ委託スルモノ

ロ、醫師、齒科醫師、藥劑師等ニ個別的ニ診療ヲ委託スルモノ

トアリ何レニ依ラシムルヤハ地方ノ實情ニ應シ指導スヘキモノナルモ診療機關指定ノ公正及被保險者ノ診療機關選擇ノ自由ヲ確保セシムル爲成ルヘク被保險者ノ通常利用シ得ヘキ範圍ニ相當スル一又ハ二以上ノ郡市區醫師會（齒科醫師及藥劑師ニ付テハ郡市區ヲ區域トスル齒科醫師又ハ藥劑師ノ團體）ト契約セシムルヲ適當トスルコト

其ノ他被保險者ノ通常利用シ得ヘキ範圍内ニ公立病醫院、日本赤十字社、產業組合等ノ診療機關アルトキハ特別ノ事由ナキ限リ之ト契約セシムルコト

三、組合カ自ラ診療機關ヲ經營スルハ組合ノ地區内ニ診療機關ノ整備シ居ラサル場合等特別ノ事由アルトキニ限ルコト

四、診療報酬ハ組合ノ設立アル地方ニ於ケル標準料金ヲ基礎トシ其ノ地方ニ於ケル料金ノ實情其ノ他支拂狀況等ヲ參酌シ診療內容ノ低下ヲ來スカ如キコトナキ樣適正ニ定メシムルコト

五、診療報酬ノ支拂方式ニハ

イ、診療報酬點數計算規程ヲ設ケ豫メ其ノ單價ヲ何程ト定メ置クモノ（點數定額式）

ロ、診療ノ種類ニ依リ各料金ヲ定メ置クモノ（料金定額式）

ハ、標準料金ノ何割引ト定メ置クモノ（割引式）

ニ、被保險者一人一年當ノ報酬額ヲ何程ト定メ置クモノ（人頭式）

等アリ右ノ中地方ノ實情ニ應シ適當ナル方式ニ依ラシムルコ

ト

六、組合ト醫師會又ハ醫師トノ間ニ於ケル診療契約ハ成ルヘク別紙契約例ニ準シテ之ヲ締結セシムルコト

七、組合ト醫師會トノ間ニ於ケル契約ニ基キ（別紙契約例ノ一第六條參照）組合ニ於テ指定醫ノ指定取消ヲ爲サントスルトキハ豫メ其ノ事由ヲ具シ地方長官ニ內議セシムルコト

八、齒科醫師又ハ藥劑師トノ間ノ保險給付ニ關スル契約ニ付テハ別紙契約例ヲ參照シテ之ニ準シテ締結セシムルコト

○契約例ノ一（點數定額式ニ依リ郡醫師會ト契約スル場合ノ例）

契約書

國民健康保險法ニ基キ何々國民健康保險組合（以下甲ト稱ス）ノ行フ國民健康保險ノ被保險者ノ診療（齒科診療ヲ除ク）ニ關シ甲ト何々郡醫師會（以下乙ト稱ス）トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　乙ハ本契約ノ定ムル所ニ依リ甲ノ被保險者ノ疾病又ハ負傷ノ診療ヲ引受クルモノトス

第二條　前條ニ依リ乙ノ引受クル診療ノ範圍左ノ如シ

一　診察（往診、宅診及處方箋ノ交付ヲ含ム但シ健康診斷ヲ含マス）

二、藥劑又ハ治療材料ノ支給（治療材料中矯正眼鏡、ギブスコルセツト、體溫計、吸入器、氷枕、氷囊ノ類ヲ含マス）

三　處置、手術其ノ他ノ治療（溫泉、鑛泉其ノ他轉地療養ヲ含マス）

四　入院診療（寢具其ノ他ノ設備及賄ヲ含ム「又ハ含マス」）

甲ノ指定シタル醫師（以下指定醫ト稱ス）ハ其ノ診療所ヨリ片道何々以內ノ往診ノ場合ニ在リテハ車馬賃ヲ請求セサルモノトス但シ往診時間外又ハ被保險者ニ於テ特ニ時間ヲ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　乙ハ其ノ會員中ヨリ甲ノ被保險者ニ對シ診療ヲ擔當スヘキ者ヲ定メ甲ニ通知スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ乙ハ特別ノ事由ナキ限リ其ノ會員全部ニ就キ診療ヲ擔當セシムヘキモノトス

第四條　甲ハ特別ノ事由ナキ限リ前條ノ通知アリタル者ヲ總テ指定醫ト爲スモノトス

指定醫ニ關シ通知シタル事項中變更アリタルトキハ乙ハ遲滯ナク之ヲ甲ニ通知スルモノトス

第五條　乙ハ指定醫ヲシテ本契約ニ依ル診療ニ關シ政府ノ定メタル國民健康保險診療取扱指針ニ從ハシムルト共ニ左ノ各號ニ揭クル事項ヲ遵守セシムルモノトス

一　被保險者ヨリ診療ヲ求メラレタルトキハ受診證ヲ提示セシメ診療ヲ受クル資格アルコトヲ確メタル後診療ヲ爲スコト

二　被保險者ニ對シ診療ヲ爲シタルトキハ受診證ニ必要ナル事項ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ被保險者ニ返還スルコト

三　被保險者ヨリ處方箋ノ交付ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得サルコト

四　診療上被保險者ヲ入院セシメ若ハ移送シ又ハ被保險者ニ看護婦ヲ附スルノ必要アリト認ムルトキ及一回ノ費用金十圓（何圓ヲ超ユル處置、手術其ノ他治療ヲ爲サントスルトキハ被保險者ニ助力シテ速ニ成規ノ手續ヲ爲サシムルコト前項ノ移送又ハ看護ニ要シタル費用ニ付其ノ支拂ヲ受クヘキ者ニ對シテハ必要ナル證明ヲ爲スコト

五　被保險者ヨリ何々組合保險給付規程ノ規定ニ依リ保險給付ノ支給ヲ受クルニ必要ナル證明書又ハ意見書ノ交付ヲ求メラレタルトキハ無償ニテ直ニ之ヲ交付スルコト

第六條　乙ハ常ニ指定醫ヲ監督シ指定醫トシテ不適當ト認メタル者ニ對シテハ戒告ヲ與ヘ又ハ其ノ指定取消ノ申出ヲ爲スヘキモノトス

甲ハ前項ノ申出アリタルトキ又ハ指定醫不適當ト認メタルトキハ指定ヲ取消スモノトス

前項後段ノ場合ニ於テハ乙ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第七條　指定醫ヲ辭セントスル者アルトキハ乙ハ其ノ旨ヲ少クトモ三月（何月）前ニ屆出ツルモノトス但シ當該指定醫カ醫業ヲ廢止シ又ハ休止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　甲カ本契約ニ依リ被保險者ノ診療ヲ爲シタル指定醫ニ對シ支拂フヘキ每月分ノ報酬ハ左ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ日本醫師會健康保險診療報酬點數計算規程別表ヲ準用シ一點ノ單價ヲ何錢トシテ之ニ每月指定醫ノ請求ニ係ル點數ヲ乘シテ得タル額トス

一　入院ハ一日ニ付何點トス

二　點數計算規程別表ニ記載ナキ手術料、處置料等ハ點數計算規程別表ニ準シ乙甲ト協議シテ之ヲ定ム

第九條　被保險者ノ診療ヲ爲シタル指定醫ハ每月別ニ定ムル診療報酬請求書ニ必要ナル事項ヲ記載シ翌月五日（何日）迄ニ乙ヲ經由シテ甲ニ提出スルモノトス

診療報酬請求書ノ經由ニ當レル乙ハ診療報酬請求書ヲ受ケタル日ヨリ十日（何日）以內ニ其ノ記載事項ヲ審査シ甲ニ之ヲ發送スルモノトス

甲ハ前項ノ診療報酬請求書ノ送付ヲ受ケ報酬ノ計算ヲ了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ指定醫ニ直接支拂フモノトス

第十條　甲ハ乙ニ對シ本契約ノ定ムル義務ヲ履行スル爲ノ必要ナル事務費トシテ每月金何錢ニ每月ノ診療報酬請求書ノ枚數ヲ乘シテ得タル額ヲ支拂フモノトス

「**第十條**　甲ハ乙ニ對シ本契約ノ定ムル義務ヲ履行スル爲ノ一

必要ナル事務費トシテ毎月第八條ノ規定ニ依ル報酬總額ノ何分ノ何ヲ支拂フモノトス

第十一條　指定醫ハ本契約ニ依ル診療ニ關スル帳簿及書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ十年（何年）間保存スルモノトス但シ甲ニ於テ保存期間ニ付別ニ承認シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　本契約ニ定ナキ事項ニ付テハ必要ノ都度之ヲ協議スルモノトス

第十三條　本契約ノ有效期間ハ昭和何年何月何日ヨリ昭和何年何月何日迄トス但シ有效期間滿了何月前迄ニ何レカ一方ヨリ何等ノ意思表示ヲ爲ササルトキハ本契約ハ更ニ一年間引續キ其ノ效力ヲ有スルモノトス爾後滿期ノトキニ於テモ亦同シ

（註）指定醫ニ於テ一部負擔金ノ收納ニ當ル場合ニハ第七條ノ次ニ左記ノ條項ヲ挿入スルコト

第　條　指定醫ハ甲ノ徵收スヘキ一部負擔金ヲ診療ノ都度診療ヲ受クル被保險者ノ屬スル世帶ノ組合員ヨリ甲ニ代リテ收納シ領收書ヲ交付スルモノトス

前項ノ收納金ハ診療報酬ノ一部ニ充當ス

第　條　指定醫ハ其ノ月中ニ收納シタル一部負擔金及已ムヲ得サル事由ニ因リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ヲ診療報酬請求書ニ附記シ甲ニ報告スルモノトス

前項ノ報告中已ムル得サル事由ニ因リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ニ付テハ甲之ヲ徵收スルモノトス

第　條　指定醫ハ本契約ニ依ル診療ニ關スル帳簿及書類ヲ其ノ收納ノ狀況ヲ明ニシタル帳簿ヲ備ヘ置クモノトス

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書二通ヲ作成シ雙方連名調印ノ上各一通ヲ所持スルモノナリ

昭和何年何月何日

何々　國民健康保險組合
　理事長　何　某㊞
何々　郡醫師會
　會長　何　某㊞

台本

No.　　昭和　年　月分診療報酬請求書

國民健康保險組合　御中

昭和　年　月　日

診療所所在地

指定醫　　印

| | | |

三、被保險者ノ「受診證番號」、「住所」、「氏名」、「性別」、及「生年月」ハ受診被保險者ノ受診證ニ記載アルモノヲ記載スルコト

四、發病ハ能ク事實ヲ尋問シタル結果ニ依リ記入スルコト

五、「初診年月日」ハ其ノ傷病ニ付指定醫自己カ初診シタル年月日ヲ記入スルコト

六、「傷病名」ハ必ス邦字ニテ明記スルコト

七、傷病二以上ニシテ其ノ診療日ノ重複セル場合ニハ必ス之カ重複日數ヲ記入スルコト

八、「當月診療日數」ハ其ノ月ニ於テ現實ニ診療ヲ爲シタル日數ヲ計上スルコト

九、「診療事項」ノ記入上特ニ注意スヘキコト左ノ如シ

(イ)「往診」ハ片道ノ里程ト回數トヲ記入スルコト

「同一家屋」ニハ同一家屋ニ二人以上ノ被保險者タル患者アル場合ニ記入スルコト

(ロ)「藥劑」ハ水藥何日分、點眼藥何劑等ノ如ク記入スルコト

(ハ)「手術」及「處置」ハ其ノ種別及回數

(ニ)注射ハ其ノ藥名、用量ニ差等アルモノハ其ノ用量又ハ號數竝ニ皮下、筋肉內及靜脈內ノ別

(ホ)檢査ノ如キハ其ノ種別及回數ヲ處置欄又ハ手術欄ノ餘白ニ記入スルコト

本項ノ點數ハ總テ日本醫師會健康保險診療點數計算規程別表ニ依リ之ヲ明記スルコト

一〇、「一部負擔金」ハ左ノ如ク記入スルコト

(イ)「總額」ハ診療ノ都度計算シタル金額ノ其ノ月分ノ合計額ヲ記入スルコト

(ロ)「收納濟額」ハ其ノ月ニ於テ現實ニ收納シタル金額ヲ記入スルコト

(ハ)「未收納額」ハ(イ)ノ金額ヨリ(ロ)ノ金額ヲ控除シタル金額ヲ記入スルコト

○契約例ノ二(料金定額式又ハ割引式ニ依リ醫師ト契約スル場合ノ例)

契約書

國民健康保險法ニ基キ何々健康保險組合(以下甲ト稱ス)ノ行フ國民健康保險ノ被保險者ノ診療(齒科診療ヲ除ク)ニ關シ甲ト醫師何某(以下乙ト稱ス)トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　乙ハ本契約ノ定ムル所ニ依リ甲ノ被保險者ノ疾病又ハ負傷ノ診療ヲ引受クルモノトス

第二條　前條ニ依リ乙ノ引受クル診療ノ範圍左ノ如シ

一　診察(往診、宅診及處方箋ノ交付ヲ含ム但シ健康診斷ヲ含マス)

二　藥劑又ハ治療材料ノ支給(治療材料中矯正眼鏡、ギブスコルセツト、體溫計、吸入器、氷枕、氷囊ノ類ヲ含マス)

三　處置、手術其ノ他ノ治療(溫泉、鑛泉其ノ他轉地療養ヲ含マス)

四　入院診療　寢具其ノ他ノ設備及賄ヲ含ム「又ハ含マス」)

乙ハ其ノ診療所ヨリ片道何々以內ノ往診ノ場合ニ在リテハ車馬賃ヲ請求セサルモノトス但シ往診時間外又ハ被保險者ニ於テ特ニ時間ヲ指定シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　乙ハ本契約ニ依ル診療ニ關シ政府ノ定メタル國民健康保險診療取扱指針ニ從フ外左ノ各號ニ揭クル事項ヲ遵守スルモノトス

一　被保險者ヨリ診療ヲ求メラレタルトキハ受診證ヲ提示セシメ診療ヲ受クル資格アルコトヲ確メタル後診療ヲ爲スコト

二　被保險者ニ對シ診療ヲ爲シタルトキハ受診證ニ必要ナル事項ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ被保險者ニ返還スルコト

三　被保險者ノ處方箋ノ交付ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得サルコト

四　診療上被保險者ヲ入院セシメ若ハ移送シ又ハ被保險者ニ看護婦ヲ附スルノ必要アリト認ムルトキ及一回ノ費用金十圓(何圓)ヲ超ユル處置、手術其ノ他ノ治療ヲ爲サントスルトキハ被保險者ニ助力シテ速ニ成規ノ手續ヲ爲サシムルコト

前項ノ移送又ハ看護ニ要シタル費用ニ付其ノ支拂ヲ受クヘキ者ニ對シテハ必要ナル證明ヲ爲スコト

五　被保險者ニヨリ何々組合保險給付規程ノ規定ニ依リ保險給付ノ支給ヲ受クルニ必要ナル證明書又ハ意見書ノ交付ヲ求メラレタルトキハ無償ニテ直ニ之ヲ交付スルコト

第四條　甲カ本契約ニ依リ乙ニ對シ支拂フヘキ每月分ノ報酬額ハ別ニ定ムル國民健康保險診療料金表ニ依リ每月乙ノ請求ニ係ル額トス

料金表中ニ料金ノ定ナキ診療ヲ爲サントスル場合ハ乙ハ甲ト其ノ都度協議シテ之ヲ定ムルモノトス

(註)本條中割書ニテ示シタル右側ハ料金定額式ニ依リ左側ハ割引式ニ依リ報酬ヲ計算セントスル場合ノ例ナリ

第五條　乙ハ每月別ニ定ムル診療報酬請求書ニ必要事項ヲ記入シ翌月十五日(何日)迄ニ甲ニ提出スルモノトス

甲ハ前項ノ診療報酬請求書ノ送付ヲ受ケ報酬ノ計算ヲ了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ支拂フモノトス

第六條　乙ハ本契約ニ依ル診療ニ關スル帳簿及書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ十年(何年)間保存スルモノトス但シ甲ニ於テ保存期間ニ付別ニ承認シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第七條　本契約ニ定ナキ事項ニ付テハ必要ノ都度之ヲ協議スル

モノトス

第八條　本契約ノ有效期間ハ昭和何年何月何日ヨリ昭和何年何月何日迄トス但シ有效期間滿了何月迄ニ何レカ一方ヨリ何等ノ意志表示ヲ爲ササルトキハ本契約ハ更ニ一年間引續キ其ノ效力ヲ有スルモノトス爾後滿期ノトキニ於テモ亦同シ

（註）指定醫ニ於テ一部負擔金ノ收納ニ當ル場合ニハ第三條ノ次ニ左記ノ條項ヲ挿入スルコト

第　條　乙ハ甲ノ徵收スヘキ一部負擔金ヲ診療ノ都度診療ヲ受ケタル被保險者ノ屬スル世帶ノ組合員ヨリ甲ニ代リテ收納シ領收書ヲ交付スルモノトス

前項ノ收納金ハ診療報酬ノ一部ニ充當ス

第　條　乙ハ其ノ月中ニ收納シタル一部負擔金及已ムヲ得サル事由ニ因リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ヲ診療報酬請求書ニ附記シ甲ニ報告スルモノトス

前項ノ報告中已ムヲ得サル事由ニ因リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ニ付テハ甲之ヲ徵收スルモノトス

第　條　乙ハ一部負擔金ノ收納ノ狀況ヲ明ニシタル帳簿ヲ備ヘ置クモノトス

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書二通ヲ作成シ雙方連名調印ノ上各一通ヲ所持スルモノナリ

昭和　何年　何月　何日

何々國民健康保險組合理事長　何　某㊞

醫　師　何　某㊞

●國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依ル認可申請手續ニ關スル件

（昭和十三年七月八日社發第七二四號地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合設立ノ際法第四十六條ノ規定ニ依リ被保險者ニ對シ診療又ハ藥劑ノ支給ヲ爲ス醫師、齒科醫師又ハ藥劑師ノ範圍ノ認可申請ヲ爲ス場合ニ於テハ別紙記載例ニ依リ申請セシメラルルヲ適當ト被存候

○國民健康保險法第四十六條ノ規定ニ依ル認可申請書

何國民健康保險組合ノ被保險者ニ對スル診療及藥劑ノ支給ヘ何郡（及何郡市）ノ範圍內ノ醫師、齒科醫師及藥劑師ヲシテ之ニ當ラシメ度候ニ付認可相成度別紙參考書類相添ヘ申請候也

昭和　何年　何月　何日

何國民健康保險組合設立發起人

（代表者）何　某㊞

何　某㊞

（以下連名）

何縣知事殿

（參考書類）

一、何郡內醫師、齒科醫師及藥劑師數

町村別	醫師數	內譯				齒科醫師數	藥劑師數	備考
		全科	內科	外科	何科			
何村								
何村								
、、、								
、、、								
計								

（備考）

公立病院、產業組合診療所等アルトキハ備考欄ニ其ノ名稱ヲ記載シ且所屬醫師、齒科醫師又ハ藥劑師數ヲ再揭スルコト

二、被保險者ノ從來ノ診療機關利用狀況

區劃別	被保險者概數	利用狀況
字何々		主トシテ何村ノ醫師ヲ利用ス、其ノ他、、、、、、、、
字何々		、、、、、、
、、、		、、、、、、

●國民健康保險組合ノ保險給付ノ標準ニ關スル件

（昭和十三年七月十三日社發第七四〇號
地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ノ行フ保險給付ノ內容等ニ關シテハ組合ノ實情ニ應シ大體組合規約例及別紙保險給付規程例ニ示シタル所ニ依ラシムルノ外特ニ左記標準ニ留意セシメラレ度

記

一、保險給付ハ療養ノ給付、助產ノ給付及葬祭ノ給付ヲ爲スヲ原則トスヘキモ助產ノ給付又ハ葬祭ノ給付ハ組合ノ財政上又ハ地方ノ狀況等ニ依リ之ヲ爲ササルモ可ナルコト

二、療養ノ給付ニ付テハ左記ニ依ルコト

イ、診療ニ關シテハ別紙國民健康保險診療取扱方指針ヲ遵守スルコト

ロ、療養ノ給付ニ支給期間ノ限度ヲ設クル場合ニ於テハ通常百八十日程度ニ之ヲ定ムルヲ適當トスルコト（組合財政上ノ事由等ニ依リ之ヲ短縮スル場合ニ於テモ少クトモ九十日程度以上トスルコト）

ハ、一部負擔ノ割合ハ診察料何錢、藥治料何錢ノ如ク定額ヲ以テ示ス方法ト單ニ一律ノ割合ヲ定ムル方法トアルモ何レノ方法ニ依ルモ其ノ割合ハ成ルヘク二割乃至三割程度トスルヲ適當トスルコト但シ入院、手術其ノ他特別ノ費用ヲ要スル診療ニ付テハ特別ノ割合トスルモ可ナルコト（此ノ場合ニ於テモ五割ヲ超エサルヲ適當トスルコト）

三、法第十八條第三項ノ規定ニ依リ療養費ノ支給ヲ建前トスルハ大都市ニ於ケル組合ニシテ特ニ現金給付ト爲スヲ適當トスルモノニ限ルコト

四、助產ノ給付又ハ葬祭ノ給付ノ何レカ一ヲ爲サレトスル場合ニ於テハ先ツ助產ノ給付ヲ爲スヲ適當トスルコト

五、法第十八條第三項ノ規定ニ依リ助產費ノ支給ヲ建前トスルハ組合財政上ノ事由ニ依リ助產ノ給付ヲ爲スヲ困難トスル場合ニ限ルコト

六、葬祭ノ給付ニ付テハ葬祭ヲ支給スルコトト爲スモ可ナルコト

七、傷病手當金又ハ出產手當金ノ支給ヲ爲スハ主トシテ同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合等ニ於テ之ヲ採用スルノ必要アル場合ニ限ルコト

○何國民健康保險組合保險給付規程例

第一條　組合ハ被保險者ニ對シ受診證ヲ交付ス

第二條　被保險者診療ヲ受ケントスルトキハ組合ノ指定シタル醫師又ハ齒科醫師（指定醫）ニ受診證ヲ提示スヘシ但シ已ムヲ

得サル事由アルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク之ヲ提示スヘシ

第三條　被保險者指定醫ニ診療ヲ受ケタルトキハ受診證ニ必要ナル事項ノ記載ヲ受クヘシ

第四條　被保險者組合ノ指定シタル藥劑師（指定藥劑師）ニ就キ藥劑ノ支給ヲ受ケントスルトキハ指定醫ヨリ處方箋ノ交付ヲ受ケ之ヲ指定藥劑師ニ提示スヘシ

第五條　被保險者一回ノ費用十圓（何圓）ヲ超ユル處置若ハ手術ヲ受ケ（看護若ハ移送ノ給付ヲ受ケ）又ハ病院ニ入院セントスルトキハ之ヲ組合ニ申請スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク申請ヲ爲スヘシ

第　條　被保險者齒科補綴ヲ受ケントスルトキハ組合ノ承認ヲ受クヘシ

第六條　被保險者療養ノ給付ヲ受ケタル場合ハ組合ヨリ其ノ給付ニ對スル一部負擔金額ヲ告知ス

前項ノ告知アリタルトキハ遲滯ナク一部負擔金ヲ納付スヘシ

第六條　被保險者指定醫ノ診療又ハ指定藥劑師ヨリ藥劑ノ支給ヲ受ケタルトキハ其ノ都度一部負擔金ヲ其ノ指定醫又ハ指定藥劑師ニ支拂ヒ領收書ヲ受クヘシ

已ムヲ得サル事由ニ依リ指定醫又ハ指定藥劑師ニ支拂フコト能ハサリシ一部負擔金ハ之ヲ組合ニ納付スヘシ

第七條　療養費支給申請書ニハ療養ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

組合療養費ノ支給ヲ爲ストキハ受診證ヲ提示セシメ之ニ必要ナル事項ヲ記載スルモノトス

第　條　被保險者助產ノ給付ヲ受ケントスル時ハ受診證ヲ組合ノ指定シタル產婆（指定產婆）ニ提示スヘシ但シ已ムヲ得サル事由アルトキハ其ノ事由止ミタル後遲滯ナク之ヲ提示スヘシ

第　條　助產費支給申請書ニハ助產ニ要シタル費用ノ額ニ關スル證憑書類ヲ添附スヘシ

第　條　被保險者死亡シタルトキハ葬祭ノ給付又ハ之ニ代ヘテ葬祭費ノ支給ヲ受ケントスル者ハ組合ニ之ヲ申請スヘシ

前項ノ申請書ニハ受診證及死亡診斷書又ハ埋火葬認許證ノ寫ヲ添附スヘシ

第八條　受診證及保險給付ニ關スル申請書ノ樣式左ノ如シ

（表）

一、受診證

（注意　「ニ療養在表面トリノ給付ヲ受ケントスル者ハ裏面ノ「注意事項」ヲ參照スルコト）

何第何號		
被保險者	氏名	
	住所	何村何々
資格取得年月日	昭和何年何月何日	

受診證

何國民健康保險組合印

（折……量……ノ）

昭和何年何月何日交付

注意事項

一、この證は醫師や齒科醫師や（産婆）に受診するときこの證を出來る證でしますから大切に持つてゐなければなりません

二、見せなければなりません　受診するときはこの證を醫師や齒科醫師や（産婆）に不明なことは組合か受診先きにてお聞き下さい

三、同一傷病については百八十日までは受診出來ます

四、被保險者でなくなつた者はこの證を直ぐ組合に返して下さい

五、ときは組合に記載事項に變更を生じたときは組合に屆けて再交付を受けなさい

（面）

（裏）

給付記錄

傷病名	開始日	認印	終了事由	認印	備考

（注意）本組合の療養の給付期間は同一の傷病及之に因り發したる疾病に付當八十日迄とす

給付記

傷病名	開始日	認印	終了日	備考

（面）

備考

一、何第何號トアルハ被保險者臺帳ニ記載シタル組合員番號ヲ記載スルモノトス

二、裏面ノ事項ハ同一ノ傷病及之ニ因リ發シタル疾病ニ付一欄ヲ使用スルモノトス

三、「開始日」欄ニハ最初ニ診療ニ當リタル指定醫ニ於テ記入シテ「認印」欄ニ捺印シ「終了日」欄及「終了事由」欄ニハ最後ニ診療ニ當リタル指定醫ニ於テ記入シテ「認印」欄ニ捺印スルモノトス

四、「終了事由」欄ニハ治癒、期間滿了、死亡等ノ別ヲ記載スルモノトス

五、傷病名ヲ變更シタルトキハ其ノ指定醫ニ於テ其ノ傷病名及變更年月日ヲ「備考」欄ニ記入シ捺印スルモノトス

六、療養費支給ノ場合ハ組合ニ於テ必要事項ヲ朱記シ「備考」欄ニ「療養費」ト附記スルモノトス

二、入院又ハ一回ノ費用十圓ヲ超ユル處置、手術承認申請書

入院
一回ノ費用十圓ヲ超ユル處置　承認申請書
手術

受診證番號		傷病名	發病又ハ負傷年月日
醫師ノ意見	初診年月日		發病又ハ負傷年月日
	入院所要日數		處置手術ノ種類
	入院又ハ處置手術ヲ要スル理由		
	年月日　診療所在地醫師氏名印	費用見積額	入院料
			處置料
			手術料
			計

右申請候也

昭和　年　月　日

被保險者
住所氏名印

何國民健康保險組合　御中

（看護又ハ移送承認申請書）

看護
移送　承認申請書

合本

受診證番號		傷病名	發病又ハ負傷年月日
醫師ノ意見	看護ヲ要スル日數		發病又ハ負傷年月日
	移送區間	看護又ハ移送ヲ要スル理由	
	移送方法		
	移送年月日	費用見積額	
	年月日　診療所在地醫師氏名印		

右申請候也

昭和　年　月　日

被保險者
住所氏名印

何國民健康保險組合　御中

三、指定外醫師、歯科醫師（又ハ產婆）承認申請書

醫師
指定外　歯科醫師　承認申請書
（產婆）

受診證番號		發病年月日（分娩豫定年月日）
傷病名		
醫師、歯科醫師（產婆）住所氏名		
理由		

四、療養費又ハ（助產費）支給申請書

療養費
（助產費）　支給申請書

受診證番號		發病又ハ負傷年月日（分娩年月日）
手當ノ內容及傷病（分娩）經過	因難ナリシ理由	
	緊急ナリシ理由	
	承認濟ナラバ其ノ旨	
手當ヲ受ケタル期間	手當ニ要シタル費用	
醫師、歯科醫師（產婆）住所氏名		

右申請候也

昭和　年　月　日

被保險者
住所氏名印

何國民健康保險組合　御中

合本

（葬祭ノ給付又ハ葬祭費支給申請書）

葬祭給付申請書

被保險者氏名		受診證番號		申請人ト被保險者ノ續柄
死亡年月日		葬祭ノ給付葬祭費ノ別		
死亡ノ原因		葬儀執行年月日		

右申請候也

昭和　年　月　日

申請人
住所氏名印

何國民健康保險組合　御中

國民健康保險診療取扱指針（齒科ヲ除ク）

國民健康保險ノ診療ハ國民健康保險法令及組合規約ニ依ルノ外本方針ニ從ヒ之ヲ爲スヘキモノトス

國民健康保險ノ診療ハ妥當適正ナルモノタルヘク且國民ノ健康保持增進上最モ適切ナルモノタルコトヲ要スルモノトス

國民健康保險ノ診療ハ醫師ニ於テ診斷ノ結果疾病ト認メラルル程度ノモノニ對シテノミ之ヲ爲スモノトス

國民健康保險ノ診療ニ際シテハ療養上必要ナル事項ハ之ヲ被保險者ニ了解シ易キ樣詳細ニ說示スヘキモノトス

第一　往診

緊急ノ場合及重症ノ患者ニシテ必要アリト認ムル場合竝ニ患部ノ關係上必要アリト認ムル場合ハ往診ヲ爲スコト

第二　投藥

イ　內科的疾患ニ對スル投藥ハ慢性病タルト急性病タルニ拘ラス治療上數劑ヲ投與スル必要アリト認メラルル場合ハ數劑ヲ投與シ一劑ヲ以テ足ル場合ニ數劑ヲ投與セサルコト

ロ　外用藥ノ投與ハ必要アリト認ムル場合ノ外一病一劑トスルコト

第三　注射

イ　注射ハ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ行フコト

ロ　「サルバルサン」ノ如キ砒素劑ノ注射ハ特別ノ事由ナキ限リ普通一週一回ヲ標準トシテ之ヲ行フコト

第四　手術及處置

イ　手術ハ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ爲スコト

ロ　外科的處置又ハ繃帶交換ハ必要ノ程度ニ之ヲ爲スコト

ハ　小外傷ハ通常ノ場合ニ於テハ外用藥ノ投與又ハ單ニ患部處置ノミヲ爲スコト

ニ　洗眼及尿道洗滌ハ普通一日一回ヲ標準トスルコト

第五　理學的療法

理學的療法ハ特ニ必要アリト認ムル場合ニ之ヲ行フコト

第六　特殊療法、新藥、新製劑、特殊藥

特殊療法又ハ新藥、新製劑若ハ特殊藥ノ使用ハ醫學上一般ニ其ノ價值ヲ認メラレサル限リ之ヲ爲ササルコト

國民健康保險齒科診療取扱指針

國民健康保險ノ診療ハ國民健康保險法令及組合規約ニ依ルノ外本方針ニ從ヒ之ヲ爲スヘキモノトス

國民健康保險ノ診療ハ妥當適正ナルモノタルヘク且國民ノ健康保持增進上最モ適切ナルモノタルコトヲ要スルモノトス

國民健康保險ノ診療ハ齒科醫師ニ於テ診斷ノ結果治療ヲ必要ト認メラルル程度ノモノニ對シテノミ之ヲ爲スモノトス

國民健康保險ノ診療ニ際シテハ療養上必要ナル事項ハ之ヲ被保險者ニ了解シ易キ樣詳細ニ說示スヘキモノトス

第一　投藥

イ　投藥ハ必要アル場合ノ外之ヲ爲ササルコト

ロ　含嗽藥及罨法藥ハ特別ノ場合ノ外一日分二百瓦ヲ標準トシ一回ニ二日分ヲ超エテ投與セサルコト

ハ　拔齒後ヂ場合ニ於ケル含嗽藥及罨法藥ノ投與ハ特別ノ場合ノ外四百瓦ヲ限度トスルコト

第二　注射

拔齒ノ際以外ノ注射ハ特ニ必要アリト認ムル場合ノ外之ヲ爲ササルコト

第三　手術及處置

手術、處置若ハ繃帶交換ハ必要ノ程度ニ止ムルコト

第四　治療、充塡

イ　治療日數ハ成ルヘク短縮スル樣之ヲ爲スコト

ロ　齒冠恢復又ハ保存ノ見込ナキ齒牙ニ對シテハ充塡ヲ爲ササルコト

第五　特殊療法

醫學上一般ニ其ノ價值ヲ認メラレサル新藥（注射藥ヲ含ム）ノ使用其ノ他ノ特殊療法ハ之ヲ行ハサルコト

第六　補綴

補綴及補綴ノ修理ハ齒牙ノ喪失又ハ齒冠ノ破壞ニ因リ咀嚼能率カ低下シタリト認メラルル場合之ヲ行フコト

●國民健康保險組合ノ指定醫ノ指定取消ニ關シ內議アリタル場合ノ之ガ措置ニ關スル件

（昭和十三年七月二十二日社發第七八八號）
（地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ニ於テ指定醫ノ指定取消ヲ爲サントスルトキ

ノ措置ニ付テハ本月四日附社發第七〇二號ヲ以テ通牒致置候處右指定取消ハ醫師ノ業務ニ影響スル所甚大ナルモノアルヲ以テ之カ內議アリタル場合ニハ貴廳限ニ於テ之ヲ處理スルコトナク當該事件ニ關スル詳細ナル具體的事實及關係者ノ陳述書寫ヲ添付シ意見ヲ具シ其ノ旨當局ニ內議相成樣致度

●組合ト歯科醫師會トノ間ニ於ケル診療契約例ニ關スル件

（昭和十三年十一月九日社國第七五號地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ト歯科醫師會トノ間ニ於ケル診療契約例ニ關シ日本歯科醫師會長ヨリ別紙寫ノ通報告有之候條參考ノ爲及送付候

寫

日歯發第三七八號
昭和十三年十月二十一日

日本歯科醫師會長

保險院社會保險局長殿

國民健康保險組合トノ契約書案ニ關スル件

國民健康保險法ノ實施ニ伴ヒ全國各地ニ設立セラルヘキ國民健康保險組合ト道府縣歯科醫師會トノ間ニ締結スヘキ契約書案ニ付キ別紙ノ通リ道府縣歯科醫師會ニ通知致シ候條御諒承相願度此段及報告候也

（別紙）

日歯發第二六五號
昭和十三年九月　日

日本歯科醫師會長

道府縣歯科醫師會長殿

國民健康保險組合トノ契約書案ニ關スル件

標記ノ契約書案ニ付テハ保險院ト協議ノ上別冊ノ如ク大體ニ於テ醫師會トノ契約書例ニ準シ決定致シ候間將來國民健康保險組合トノ契約ノ場合ハ之ニ據リ善處セラレ度申進候

追而歯科診療報酬ハ契約書案第八條ニ示シタル從來ノ健康保險ニ於ケル點數計算規程別表ヲ準用シ難キ場合又ハ同別表ニ定メ無キ診療種目ノ決定等ニ付テハ別紙國民健康保險歯科診療參考點數表ヲ適宜御參酌相成度此段申添候

契約書（案）

國民健康保險法ニ基キ何國民健康保險組合（以下甲ト稱ス）ノ行フ國民健康保險ノ被保險者ノ歯科診療ニ關シ甲ト何道府縣歯科醫師會（以下乙ト稱ス）トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　乙ハ本契約ノ定ムル所ニ依リ甲ノ被保險者ノ歯科診療

ヲ引請クルモノトス

第二條　前條ニ依リ乙ノ引請クル診療ノ範圍左ノ如シ

一、診療（處方箋ノ交付ヲ含ミ齒牙口腔ノ健康診斷ヲ含マス）
二、藥劑又ハ治療材料ノ支給
三、處置、手術其ノ他ノ治療
四、充塡、インレー
五、補綴

（註）組合ノ事情ニヨリ前記診療ノ範圍ハ適宜取捨スルコト

第三條　乙ハ何支部會員（及何支部會員）中ヨリ甲ノ被保險者ニ對シ歯科診療ヲ擔當スヘキ者ヲ定メ甲ニ通知スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ乙ハ特別ノ事由ナキ限リ其ノ支部會員全部ニ就キ歯科診療ヲ擔當セシムヘキモノトス

（註）本條中何支部會員トアルハ支部ナキ場合ニ於テハ其ノ郡（市）歯科醫師團トスコト

第四條　甲ハ特別ノ事由ナキ限リ前條ノ通知アリタル者ヲ總テ指定歯科醫トナスモノトス

指定歯科醫ニ關シ通知シタル事項中變更アリタルトキハ乙ハ遲滯ナク之ヲ甲ニ通知スルモトノス

第五條　乙ハ指定歯科醫ヲシテ本契約ニ依ル歯科診療ニ關シ政府ノ定メタル國民健康保險歯科診療取扱指針ニ從ハシムルト共ニ左ノ各號ニ揭クル事項ヲ遵守セシムルモノトス

一、被保險者ヨリ歯科診療ヲ求メラレタルトキハ受診證ヲ提示セシメ歯科診療ヲ受クル資格アルコトヲ確メタル後其ノ診療ヲ爲スコト

二、被保險者ニ對シ歯科診療ヲ爲シタルトキハ受診證ニ必要ナル事項ヲ記載シ遲滯ナク之ヲ被保險者ニ返還スルコト

三、被保險者ヨリ處方箋ノ交付ヲ求メラレタルトキハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得サルコト

四、歯科診療上被保險者ヲ入院セシメ若ハ移送シ又ハ被保險者ニ看護婦ヲ附スルノ必要アリト認ムルトキ及一回ノ費用金十圓（何圓）ヲ超コル處置、手術其ノ他ノ治療（又ハ補綴）ヲ爲サントスルトキハ被保險者ニ助力シテ速ニ正規ノ手續ヲ爲サシムルコト

前項ノ移送又ハ看護ニ要シタル費用ニ付其ノ支拂ヲ受クヘキ者ニ對シテハ必要ナル證明ヲ爲スコト

五、被保險者ヨリ何々組合保險給付規程ノ規定ニ依リ保險給付ノ支給ヲ受クルニ必要ナル證明書又ハ意見書ノ交付ヲ求メラレタルトキハ無償ニテ直ニ之ヲ交付スルコト

第六條　乙ハ常ニ指定歯科醫ヲ監督シ指定歯科醫トシテ不適當ト認メタル者ニ對シテハ戒告ヲ與ヘ又ハ其ノ指定取消ノ申出ヲ爲スヘキモノトス

甲ハ前項ノ申出アリタルトキ又ハ指定歯科醫不適當ト認メタ

ルトキハ指定取消ノ手續ヲ爲スモノトス
前項後段ノ場合ニ於テハ乙ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第七條　指定齒科醫ヲ辭セントスル者アルトキハ乙ハ其ノ旨少クトモ三月(何月)前ニ屆出ツルモノトス但シ當該指定齒科醫カ齒科診療所ヲ廢止シ又ハ休止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　甲カ本契約ニ依リ被保險者ノ診療ヲ爲シタル指定齒科醫ニ對シ支拂フヘキ每月分ノ報酬額ハ左ニ揭クルモノヲ除クノ外ハ日本齒科醫師會健康保險診療報酬點數計算規定別表ヲ準用シ一點ノ單價ヲ何錢トシテ之ニ每月指定齒科醫ノ請求ニ係ル點數ヲ乘シテ得タル額トス

一、點數計算別表ニ記載ナキ齒科診療報酬ハ點數計算規定別表ニ準シ何支部(及何支部)甲ト協議シテ之ヲ定ム

第八條　甲カ本契約ニ依リ被保險者ノ診療ヲ爲シタル指定齒科醫ニ支拂フヘキ每月分ノ報酬額ハ別ニ定ムル國民健康保險齒科診療料金表(又ハ何道府縣齒科醫師會所定料金ノ何割引)ニ依リ每月指定齒科醫ノ請求ニ係ル額トス

料金表中ニ料金ノ定ナキ齒科診療ヲ爲サントスル場合ハ何支部(及何支部)ハ甲ト其ノ都度協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第九條　被保險者ノ齒科診療ヲ爲シタル指定齒科醫ハ每月別ニ定ムル診療報酬請求書ニ必要ナル事項ヲ記載シ翌月五日(何日)迄ニ乙ヲ經由シテ甲ニ提出スルモノトス

齒科診療報酬請求書ノ經由ニ當レル乙ハ齒科診療報酬請求書ヲ受ケタル日ヨリ十日(何日)以內ニ其ノ記載事項ヲ審査シ甲ニ之ヲ發送スルモノトス

甲ハ前項ノ齒科診療報酬請求書ノ送付ヲ受ケ報酬ノ計算ヲ了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ指定齒科醫ニ直接支拂フモノトス

第十條　甲ハ乙ニ對シ本契約ノ定ムル義務ヲ履行スル爲ノ必要ナル事務費トシテ每月金何錢ニ每月ノ齒科診療報酬請求書ノ枚數ヲ乘シテ得タル額ヲ支拂フモノトス

(**第十條**)甲ハ乙ニ對シ本契約ノ定ムル義務ヲ履行スル爲ノ必要ナル事務費トシテ每月第八條ノ規定ニ依ル報酬總額ノ何分ノ何ヲ支拂フモノトス

第十一條　指定齒科醫ハ本契約ニ依ル齒科診療ニ關スル帳簿及書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ十年(何年)間保存スルモノトス但シ甲ニ於テ保存期間ニ付別ニ承認シタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　本契約ニ定ナキ事項ニ付テハ必要ノ都度之ヲ協議スルモノトス

第十三條　本契約ノ有效期間ハ昭和何年何月何日ヨリ昭和何年何月何日迄トス但シ有效期間滿了一月(何月)前迄ニ何レカ一方ヨリ何等ノ意思表示ヲ爲ササルトキハ本契約ハ更ニ一年間引續キ其ノ效力ヲ有スルモノトス爾後滿期ノトキニ於テモ亦

同シ

(註)指定齒科醫ニ於テ一部負擔金ノ收納ニ當ル場合ニハ第七條ノ次ニ左ノ條項ヲ挿入スルコト

第　條　指定齒科醫ハ甲ノ徵收スヘキ一部負擔金ヲ齒科診療ノ都度齒科診療ヲ受クル被保險者ノ屬スル世帶ノ組合員ヨリ甲ニ代リテ收納シ領收書ヲ交付スルモノトス

前項ノ收納金ハ齒科診療報酬ノ一部ニ充當ス

第　條　指定齒科醫ハ其ノ月中ニ收納シタル一部負擔金及已ムヲ得サル事由ニ依リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ヲ齒科診療報酬請求書ニ附記シ甲ニ報告スルモノトス

前項ノ報告中已ムル得サル事由ニ依リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ニ付テハ甲之ヲ徵收スルモノトス

第　條　指定齒科醫ハ一部負擔金ノ收納ノ狀況ヲ明ニシタル帳簿ヲ備ヘ置クモノトス

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書貳通ヲ作成シ双方連名調印ノ上各壹通ヲ所持スルモノナリ

昭和何年何月何日

何々國民健康保險組合
理事長　何　　某㊞
何々道府縣齒科醫師會
會長　何　　某㊞

覺書(案)

何國民健康保險組合(以下甲ト稱ス)ノ被保險者ノ齒科診療ニ關シ甲ト何道府縣齒科醫師會(以下乙ト稱ス)トノ間ニ契約ヲ締結シタルニ付テハ左記ノ條々履行可致覺書ヲ締結スルコト次ノ如シ

一、契約ノ實行竝其ノ改善ニ關スル交涉ハ何支部(支部ナキ場合ニ於テハ其ノ郡、市)齒科醫師團(以下同シ)其ノ衝ニ當ルモノトス

二、契約書第一項ニ依ル診療報酬請求書ハ指定齒科醫ヨリ何支部ニ之ヲ提出スルモノトス

三、契約書第九條第二項ニ依ル診療報酬請求書ノ審査ハ何支部之ヲ行フモノトス

診療報酬請求書ヲ審査シタル何支部ハ之ヲ甲ニ提出スルモノトス

四、契約書第十條ニ依ル事務費ハ前項ニ依リ審査ヲ行フ何支部ニ甲之ヲ支拂フモノトス

右覺書ノ確實ヲ證スル爲本書貳通ヲ作成シ双方連名調印ノ上各壹通ヲ所持スルモノナリ

昭和何年何月何日

何々國民健康保險組合
理事長　何　　某㊞

何々道府縣齒科醫師會
會長何　某㊞

注意

一、契約ニ於ケル齒科診療報酬ノ形式ハ成ルヘク點數定額式ニ據ラレ度シ
但シ組合ノ事情ニ依リ料金定額式ニ據ル場合ニハ別紙點數表ヲ標準トシ其ノ點數ヲ料金ニ換算シタル金額トスルコト
若シ割引式ニ據ル場合ハ其ノ道府縣齒科醫師會標準報酬料金ノ何割引トスルコト

二、診療ノ種目決定ニ付テハ國民健康保險齒科診療參考點數表ノ診療種目ヲ參照セラレ度シ

三、診療回數ニ制限ヲ附スル場合ニ於テハ契約書等表面ニ規定スルコトナク審査方針中ニ規定セラレ度シ
國、政府ノ示シタル診療報酬請求書ノ樣式ハ指定醫用ノモノナルニ付指定齒科醫用トシテハ左記ノ個所訂正ヲ要スルモノトス

1) 轉歸ノ內容
2) 種別ノ項目
(3) 若シ契約書案(第八)即チ料金定額式又ハ割引式ニ據ルモノハ點數ヲ料金トスルコト

(日本齒科醫師會編國民健康保險法令ト解說第二六五頁又ハ第一四七頁參照)

	點數
○診察檢査及文書料	
初診料	五・
往診料(二キロ以上ハ二キロ未滿ニ付一〇點ヲ加フ)	九・乃至一〇・
レントゲン檢査	一三・五乃至五〇・
處方箋	五・
診斷書(普通診斷書及死亡診斷書(一通))	九・乃至一〇・
診斷書(訴訟等ニ關スル特別ノ診斷書)	二七・乃至三〇・
○藥　治　料	
內服劑　一劑一日分	一・五
頓服劑　一回分	一・
含嗽劑　四百瓦ニ付(容器ヲ必要トスル場合ハ一回限リ容器代ヲ含ム)	二・
黴法劑　四百瓦ニ付(同右)	二・
(特ニ高價藥ヲ使用スル場合ハ組合ト齒科醫師會ト協定スルモノトス)	
○治療及手術料	
治　療　一齒一回ニ付	二・五
齒齦炎　一部域一回ニ付	二・五

齒槽膿漏手術(浸潤麻醉ヲ含ム)	九・乃至五〇・
同處置	四・五乃至五・
同固定處置　一齒ニ付	六五・乃至一五〇・
口內炎　一回ニ付	二・五
舌　炎　一回ニ付	二・五
口腔內消炎手術(麻醉ヲ含ム)　一個ニ付	
限局(齒齦膿瘍、口蓋膿瘍齒槽膿瘍(雜生智齒、齒齦辨切除等	一〇・
廣汎　骨髓炎骨膜炎蜂織窩炎等	三〇乃至二〇〇・
右前後處置料　一回ニ付	二・五乃至一〇・
膿瘍手術(麻醉ヲ含ム)	
齒根囊腫、濾胞性齒牙、囊腫齒齦腫等)	六五・乃至五〇〇・
顎骨骨折手術(固定裝置ヲ含ム)	一八〇・乃至七〇〇・
拔齒(浸潤麻醉ヲ含ム)	
乳永久齒　一齒ニ付	四・五乃至五・
〃前齒	八・乃至二〇・
〃同臼齒	一〇・乃至二〇・
〃雜生智齒	三〇・乃至一〇〇・
拔齒前(一齒	二・五
後處置(雜生智齒　一回ニ付	四・五乃至五・
傳達麻醉	九・乃至一〇・
注射(藥液ノ價ヲ含ム)	一〇乃至二五・

綳帶材料　簡易ナルモノ	四・
三角巾ヲ使用スルモノ	五・
卷軸帶ヲ使用スルモノ	六・
光線療法　一回ニ付	四・五乃至五・
レントゲン　治療一回ニ付	二〇・乃至三〇・
○充　塡　料	
グツタペルカ　一窩洞ニ付	五・
セメント〃	一〇・
アマルガム〃	一五・
シリケートセメント〃	一八・乃至二〇・
金インレー〃	五〇・乃至二〇〇・
合金インレー〃(甲種	四〇〇・乃至一〇〇・
〃(乙種	三〇〇・乃至五〇〇・
○補　綴　料	
ゴム床義齒局部義齒(一床一齒ニ付	一五・
(一齒ヲ增ス每ニ	七・
ゴム床全部義齒(上下顎	一〇五・
	二一〇・
合金床義齒局部義齒(五齒マテ	二二〇・乃至二五〇・
(以上一齒ヲ增ス每ニ	二七・乃至三〇・
合金床全部義齒(一顎	五〇〇・乃至五二〇・
(上下顎	一、〇〇〇・乃至一〇四〇・
金鉤(前齒　一個ニ付	三〇・
〃臼齒	五〇・

合金鉤、前齒、白齒共一齒ニ付	一〇・
齒冠補綴（全陶齒冠　一齒ニ付	六〇・
〃（前裝陶齒冠　〃	五〇・乃至二五〇・
ジヤケットクラウン　一齒ニ付	二五〇・乃至三五〇・
金冠（一齒ニ付）	
（前齒	八〇・
（小白齒	一〇〇・
（大白齒	一五〇・
合金冠（一齒ニ付）	
（前齒	五五・乃六〇・
（小白齒	七五・乃至八〇・
（大白齒	九〇・乃至一〇〇・
架工齒　一齒ニ付	八〇・乃至一五〇・
○矯正料	
施術　一顎ニ付	五〇〇・乃至一五〇〇・
處置　一顎一回ニ付	五・乃至二〇・
保定　一顎ニ付	三〇〇・乃至五〇〇・

●組合ト藥劑師會トノ間ニ於ケル藥劑支給契約例ニ關スル件

（和和十三年十二月二十一日社發第一四二二號各地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ト藥劑師會トノ間ニ於ケル藥劑支給契約例ニ關シ日本藥劑師會長ヨリ別紙寫ノ通報告有之候條參考ノ爲及送付候

（日藥發・昭一三・第三六號）
昭和十三年十二月十二日

日本藥劑師會長 ㊞

保險院社會保險局長殿

國民健康保險組合ノ契約書案ニ關スル件

國民健康保險組合ト道府縣藥劑師會トノ間ニ締結スヘキ契約書案ニ付別紙ノ通道府縣藥劑師會ニ通知致候間御諒承相願度此段及報告候也

（日藥發・昭一三・第三六號）
昭和十三年十二月十二日

日本藥劑師會長

藥劑師會長殿

國民健康保險組合トノ契約書案ニ關スル件

標記ノ契約書案ニ關シ保險院ト協議ノ上別冊ノ通決定致シ候間將來國民健康保險組合ト藥劑支給契約締結ノ場合ハ之ニ據リ善處セラレ度申進候

追而　契約書案第十一條ニ依ル「藥劑支給報酬請求書」雛形

右契約書案ト併テ決定致シ候ニ付別冊添附御送付申上候

契約書（案）

國民健康保險法ニ基キ何々國民健康保險組合（以下甲ト稱ス）ノ行フ國民健康保險ノ被保險者ニ對スル療養ノ給付中藥劑ノ支給ニ關シ甲ト何縣藥劑師會（以下乙ト稱ス）トノ間ニ契約ヲ締結スルコト左ノ如シ

第一條　乙ハ本契約ノ定ムル所ニ依リ甲ノ被保險者ニ對シ甲ノ指定醫又指定齒科醫ノ交付シタル處方箋ニ依ル藥劑ノ支給ヲ引受クルモノトス

第一條　乙ハ本契約ノ定ムル所ニ依リ甲ノ被保險者ニ對スル療養ノ給付中藥劑ノ支給ヲ引受クルモノトス

前項ノ藥劑ノ支給ハ甲ノ指定醫又ハ指定齒科醫ノ交付シタル處方箋ニ依ルモノトス

（註）本條ノ如ク規定スル場合ニ於テハ組合ト醫師會トノ契約ニ關シ診療ノ範圍中「藥劑ノ支給」ノ部ニ左記趣旨ノ但書ヲ附スルカ又ハ其ノ旨ノ覺書ヲ取換ス樣留意セレタキコト

記

「但シ藥劑ノ支給ハ診療上處方箋ノ交付ニ依ルコトヲ得サル場合ニ限ル」

第二條　乙ハ何郡內ノ會員中ヨリ甲ノ被保險者ニ對シ藥劑ノ支給ヲ擔當スヘキ者ヲ定メ甲ニ通知スルモノトス

前項ノ場合ニ於テ乙ハ特別ノ事由ナキ限リ何郡內ノ會員全部ニ就キ藥劑ノ支給ヲ擔當セシムヘキモノトス

第三條　甲ハ特別ノ事由ナキ限リ前條ノ通知アリタル者ヲ總テ指定藥劑師ト爲スモノトス

指定藥劑師ニ關シ通知シタル事項中變更アリタルトキハ乙ハ遲滯ナク之ヲ甲ニ通知スルモノトス

第四條　乙ハ指定藥劑師ヲシテ被保險者ヨリ藥劑ノ支給ヲ求メラレタルトキハ甲ノ指定醫又ハ指定齒科醫ノ交付シタル處方箋ヲ提示セシメ藥劑ノ支給ヲ受クル資格アルコトヲ確メタル後藥劑ノ支給ヲ爲サシムルモノトス

第五條　乙ハ常ニ指定藥劑師ヲ監督シ指定藥劑師トシテ不適當ト認メタル者ニ對シテハ戒告ヲ與ヘ又ハ其ノ指定取消ノ申出ヲ爲スヘキモノトス

甲ハ前項ノ申出アリタトキ又ハ指定藥劑師不適當ト認メタルトキハ指定ヲ取消スモノトス

前項後段ノ場合ニ於テハ乙ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第六條　指定藥劑師ヲ辭セントスル者アルトキハ乙ハ其ノ旨少クトモ三月（何月）前ニ甲ニ屆出ツルモノトス但シ當該指定藥劑師カ其ノ業務ヲ廢止シ又ハ休止スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　指定藥劑師ハ甲ノ徵收スヘキ一部負擔金ヲ藥劑支給ノ

都度藥劑ノ支給ヲ受クル被保險者ノ屬スル世帶ノ組合員ヨリ甲ニ代リテ收納シ領收書ヲ交付スルモノトス

前項ノ收納金ハ藥劑支給報酬ノ一部ニ充當ス

第八條　指定藥劑師ハ其ノ月中ニ收納シタル一部負擔金及已ムヲ得サル事由ニ因リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ヲ藥劑支給報酬請求書ニ附記シ甲ニ報告スルモノトス

前項ノ報告中已ムヲ得サル事由ニ因リ收納スルコト能ハサリシ一部負擔金ニ付テハ甲之ヲ徵收スルモノトス

第九條　指定藥劑師ハ一部負擔金ノ收納ノ狀況ヲ明ニシタル帳簿ヲ備ヘ置クモノトス

第十條　甲カ本契約ニ依リ被保險者ニ藥劑ノ支給ヲ爲シタル指定藥劑師ニ支拂フヘキ毎月分ノ報酬額ハ何々（例ヘハ保險院簡易保險局ト日本藥劑師會トノ間ニ締結セラレタル調劑ニ關スル協約書四ノ別表處方箋ニ據ル調劑藥價協定書）ノ定ムル額ニ依ルモノトス

第十一條　被保險者ニ藥劑ノ支給ヲ爲シタル指定藥劑師ハ毎月別ニ定ムル藥劑支給報酬請求書ニ必要ナル事項ヲ記載シ翌月五日（何日）迄ニ乙ヲ經由シテ甲ニ提出スルモノトス

藥劑支給報酬請求書ノ經由ニ當レル乙ハ藥劑支給報酬請求書ヲ受ケタル日ヨリ十日（何日）以內ニ其ノ記載事項ヲ審査シ甲ニ之ヲ發送スルモノトス

甲ハ前項ノ藥劑支給報酬請求書ノ送付ヲ受ケ報酬ノ計算ヲ了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ指定藥劑師ニ直接支拂フモノトス

第十二條　甲ハ乙ニ對シ本契約ノ定ムル義務ヲ履行スル爲ニ必要ナル事務費ヲ支拂フモノトス但シ其ノ金額ハ毎月協議シテ之ヲ定ムルモノトス

第十三條　指定藥劑師ハ本契約ニ依ル藥劑ノ支給ニ關スル帳簿及書類ヲ其ノ完結ノ日ヨリ十年間保存スルモノトス但シ甲ニ於テ保存期間ニ付別ニ承認シタルモノニ付テハ此限ニ在ラス

第十四條　本契約ニ定メナキ事項ニ付テハ必要ノ都度之ヲ協議スルモノトス

第十五條　本契約ノ有效期間ハ昭和何年何月ヨリ昭和何年三月三十一日迄トス但シ有效期間滿了一月前迄ニ何レカ一方ヨリ何等ノ意思表示ヲ爲ササルトキハ本契約ハ更ニ一年間引續キ其ノ效力ヲ有スルモノトス爾後滿期ノトキニ於テモ亦同シ

右契約ノ確實ヲ證スル爲本書二通ヲ作成シ雙方連名調印ノ上各一通ヲ所持スルモノナリ

昭和　年　月　日

何々國民健康保險組合
理事長　何　某印
何縣藥劑師會
會長　何　某印

台本

No.　昭和　年　月分藥劑支給報酬請求書

調劑年月日	月日	月日	月日	月日	月日
調劑數量					
散劑	錢	錢	錢	錢	錢
水劑	〃	〃	〃	〃	〃
劑	〃	〃	〃	〃	〃
劑	〃	〃	〃	〃	〃
劑	〃	〃	〃	〃	〃
代他器ノ容其	〃	〃	〃	〃	〃
計合	〃	〃	〃	〃	〃
一部負擔金 總額	〃	〃	〃	〃	〃
一部負擔金 收納額	〃	〃	〃	〃	〃
一部負擔金 未收納額	〃	〃	〃	〃	〃
備考					

調劑報酬

何々國民健康保險組合　御中

昭和　年　月　日

藥局所在地
指定藥劑師　印

被保險者	受診證	第　號	住所	
			氏名	
	性別	男女 生年月	明治 昭和	年　月
指定齒科	氏名			
	住所（察所診所在地）			
處方				
使用期間	自昭和　年　月　日 至昭和　年　月　日			

台本

●國民健康保險法第五十條ノ解釋ニ關スル件

（昭和十四年一月二十四日社國第三三號　保險院社會保險局長。各地方長官宛）

標記ノ件ニ關シ岡山縣知事ヨリ別紙甲號ノ通伺出アリタルニ對シ別紙乙號ノ通回答致置候條爲念及通知候

（甲號）

岡山縣知事照會（昭和十四年一月十七日社第二二九號）

國民健康保險法第五十條中「保險給付ニ關スル契約ニ關シ紛爭ヲ生シタルトキ」トアルハ廣義ニ解シ契約締結行爲ヲモ含ムヤ否ヤ聊カ疑義相生シ候條至急何分ノ御指示相煩度此段相伺候也

（乙號）

保險院社會保險局長回答（昭和十四年一月二十四日社國第三三號）

標記ノ件ニ關シ本月十七日日附社第二二九號ヲ以テ伺出相成候處保險給付ニ關スル契約ノ內容タルヘキ事項ニ付契約ノ申込者ト其ノ相手方トノ意思表示カ合致セサルコトニ因リ生シタル紛爭ハ國民健康保險委員會ニ於テ處理セラルヘキ斡旋ノ目的タリ得ルモノニ有之

第二目　保險料

●國民健康保險組合ノ保險料ニ關スル件

（昭和十三年七月十五日社發第七三九號
地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ノ保險料ニ關シテハ地方ノ實情ニ即應セシムヘキモノナルモ左記事項留意セシメラレ度

追テ組合ニハ別紙ノ例ニ倣ヒ保險料徵收簿ヲ備付ケラレ度

記

一、保險料ノ賦課

（一）普通國民健康保險組合ノ保險料ハ原則トシテ組合員ノ資力ヲ標準トシテ十階級程度ノ等級ニ分ツヲ適當トスルコト但シ其ノ最高額ニ付テハ不當ニ之ヲ多額ナラシメサルコト

（二）世帶人員數ニ依リ割增保險料ヲ徵收スル場合ニ在リテハ世帶人員一人毎ノ割增月額ハ五錢乃至十錢程度ヲ適當トスルモ其ノ總額ハ基本保險料總額ノ一割程度ニ止ムルコト

（三）資力又ハ所得ヲ標準トシテ各組合員ノ保險料額ヲ決定スル組合ニ在リテハ其ノ資力又ハ所得ハ大體左記ニ依リ認定スルコト

イ、普通國民健康保險組合ニ在リテハ組合ノ地區タル町村ニ於テ賦課セラレツツアル戶數割額（戶數割ヲ賦課セサル町村ニ在リテハ其ノ他資力認定ノ標準ト爲ルヘキ地方ノ慣行ニ依ルコト）

ロ、同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員カ事業主ヨリ受クル報酬ノ額ハ、同種ノ業務ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ營業收益又ハ收入額

（四）新ニ加入シタル者ニ對スル保險料ノ等級ノ決定ニ付テハ其ノ都度理事ニ於テ決定シ得ル樣組合會ニ於テ豫メ包括委任シ置クモ可ナルコト

（五）各組合員ヨリ徵收スヘキ保險料ノ等級及額ノ通知ハ其ノ決定又ハ變更ノ都度之ヲ爲スヲ以テ足リ徵收ノ都度之ヲ爲スノ要ナキコト

二、保險料ノ徵收

（一）普通國民健康保險組合ニ在リテハ保險料ノ徵收ハ之ヲ役員等ヲシテ町村ノ部落別ニ分擔收納セシムルヲ便宜トスルコト

（二）同一ノ事業ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合ニ在リテハ報酬ヨリ保險料控除方ヲ事業主ニ委託スルヲ便宜トスルコト

（三）同種ノ業務ニ從事スル者ヲ以テ組織スル特別國民健康保險組合ニ在リテハ同業組合等ニ於ケル組合費ノ徵收方法等ニ準シテ取扱フヲ便宜トスルコト

（四）保險料ヲ收納シタルトキハ領收書ヲ交付スルコト

三、減免、徵收猶豫及滯納處分

（一）保險料ノ減免ハ貧困其ノ他ノ事由ニ因リ保險料ヲ納付スル能ハサル者ニ對シ其ノ事情ヲ參酌シテ之ヲ爲スコト

右ノ決定ハ每年度組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ爲スコト但シ年度中ニ於テ決定ノ要アルモノニ付テハ豫メ理事ニ之ヲ包括委任シ置クモ可ナルコト

（二）保險料ノ徵收猶豫ハ非常ノ災害其ノ他已ムルヲ得サル事由ニ因リ保險料ヲ一時納付スル能ハサル者ニ對シ其ノ期間中之ヲ爲スコト

右ノ決定ニ付テハ組合會ニ於テ豫メ理事ニ包括委任シ置クモ可ナルコト

（三）故ナク保險料ヲ滯納スル者ニ對シテハ法第八條ノ規定ニ依リ滯納處分ノ手續ヲ爲スヘキモ滯納處分ニ付テハ組合員ノ事情ヲ充分參酌シテ愼重ヲ期シ且必ス組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ措置スルコト

保險料徵收簿ノ例

番號		組合員氏名		等級	

月別	調定濟額		徵收 年月日	徵收 金額		摘要
四月分						
五月分						
六月分						
七月分						
八月分						
九月分						
十月分						
十一月分						
十二月分						
一月分						
二月分						
三月分						

備考　1　本簿ハ一組合員毎ニ一枚ヲ用ヒテ加除式ト爲シ完結シタルモノハ之ヲ拔取リ別綴ト爲シ置クヲ便宜トスルコト

2　減免ヲ爲シタルトキハ其ノ旨及減免額ヲ、徵收猶豫ヲ爲シタルトキハ其ノ旨及期限ヲ夫々摘要欄ニ記載スルコト

第三項　國民健康保險組合ノ管理

●國民健康保險組合ノ組合會及役員ニ關スル件

（昭和十三年八月六日社發第八四〇號
地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ノ組合會及役員ニ關シテハ左記ニ留意セシメラレ度

記

一、組合會ニ關スル事項

（一）組合會議員ノ定數ハ各組合ノ事情ニ依リ夫々適當數ヲ定ムヘキモ普通國民健康保險組合ニ在リテハ大體組合ノ地區タル町村ニ於ケル町村會議員等ノ數ヲ參酌シテ之ヲ定ムルコト

（二）選擧區ヲ設クル場合ニ於テハ規約中ニ左ノ如キ規定ヲ設クルコト而シテ各選擧區ニ於テ選擧スヘキ議員ノ數ハ組合員ノ數ニ比例シテ之ヲ定ムルコト

第　條　組合會議員ハ各選擧區ニ於テ之ヲ選擧ス

選擧區及各選擧區ヨリ選擧スヘキ議員ノ數左ノ如シ

何々　何人

（三）議員ノ選擧ニ關シテハ成ルヘク選擧規定ヲ設クルコト此ノ場合ニ於テハ別紙規程例ニ準シテ之ヲ定ムルコト

（四）組合會會議規則ハ別紙規則例ニ準シテ之ヲ定ムルコト

（五）組合會會議錄ニハ左ニ揭クル事項ヲ記載スルコト

イ、開會ノ日時及場所

ロ、議員ノ定數

ハ、出席シタル議員ノ數

ニ、議事ノ要領（議案ノ說明、質問、討議、採決ノ樣樣等ニ付其ノ要點ヲ記載スルコト）

ホ、議決シタル事項及賛否ノ數

ヘ、其ノ他必要ナル事項

二、役員ニ關スル事項

（一）理事ノ定數ハ原則トシテ組合會議員ノ定數ノ半數以下ニ於テ適當數ヲ定ムルコト

（二）理事ノ選任ニ付テハ組合ノ實情ニ應シ適當ナル方法ヲ定ムルコト從ツテ指名推薦等ノ方法ニ依ルモ可ナルコト

（三）普通國民健康保險組合ニ於テ關係市町村長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル吏員ヲシテ理事長タラシムルコトヲ得サル特別ノ事由アルトキハ其ノ事由ヲ豫メ地方長官ニ具申スルコト

（四）理事長及理事就職、退職又ハ死亡ノ場合ニ於ケル屆書ニ

ハ左記事項ヲ記載スルコト

イ、氏名

ロ、就職、退職又ハ死亡ノ年月日

ハ、就職ノ場合ニ於テハ其ノ職業又ハ職名、住所及任期

三、其ノ他

（一）議員、理事及事務員ノ旅費ノ支給額及支給方法ニ付テハ其ノ支給規則ヲ定ムルコト

（二）組合ニ事務員ヲ置ク場合ニ於テハ必スシモ專任タルコトヲ要セス市町村ノ吏員又ハ他ノ團體ノ事務員ニ之ヲ委囑スルモ可ナルコト

（三）組合ノ事務所ハ成ルヘク普通國民健康保險組合ニ在リテハ町村役場內又ハ團體等ノ事務所內ニ、特別國民健康保險組合ニ在リテハ組合員ノ從事セル事業ノ事務所又ハ組合員ノ組織セル同業組合等ノ事務所內ニ之ヲ置クヲ便宜トスルコト

○國民健康保險組合組合會議員選擧規程例

何國民健康保險組合組合會諸員選擧規程

第一條　組合會議員ノ選擧ノ執行ハ法令及規約ニ規定アルモノノ外本規程ニ依ル

第二條　選擧ニ際シ必要アリト認ムルトキハ選擧人ニ對シ豫メ選擧會場入場券ヲ交付ス

第三條　投票用紙ハ別記樣式ニ依ルモノヲ用フ

第四條　投票函ハ內蓋ト外蓋トヲ爲シ得ル裝置ノモノトシ投票口ハ內蓋ニ之ヲ設ケ開閉シ得ルモノトス

投票函ノ內蓋及外蓋ニハ各異ル鎖鑰ヲ設ケ蓋ハ箱ニ密著シ得ルモノトス

第五條　投票ノ記載場所ハ選擧人ノ投票ヲ覗ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他不正手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲ス

第六條　選擧長ハ投票ノ開始ニ先チ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ選擧立會人ト共ニ確メタル後內蓋ヲ鎖シ選擧立會人ノ列席スル面前ニ之ヲ置クヘシ

第七條　選擧人ハ選擧會場ニ於テ投票用紙ノ交付ヲ受クヘシ

選擧人投票用紙ノ交付ヲ受ケントスルトキハ選擧長ニ對シ住所及氏名ヲ述フヘシ

選擧長選擧人ニ投票用紙ヲ交付スル場合ニ於テハ選擧立會人ノ面前ニ於テ之ヲ交付スヘシ但シ選擧會場入場券ヲ交付シアルトキハ之ヲ提出セシメタル後投票用紙ヲ交付スヘシ

第八條　投票ハ選擧長及選擧立會人ノ面前ニ於テ選擧人自ラ之ヲ投函スヘシ

第九條　選擧人誤リテ投票用紙ヲ汚損シタルトキハ其ノ引換ヲ請求スルコトヲ得

第十條　投票時間內ニ選擧會場ニ入リタル選擧人ハ其ノ時間ヲ過クルモ投票ヲ爲スコトヲ得

第十一條　選擧人ハ選擧會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ喧擾ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他選擧會場ノ秩序ヲ紊ス行爲ヲ爲スコトヲ得ス

前項ニ該當スル選擧人アル場合ニ於テハ選擧長ハ之ヲ制止シ仍其ノ命ニ從ハサルトキハ其ノ者ヲ選擧會場外ニ退出セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ退出セシメラレタル者ハ最後ニ至リ投票ヲ爲スコトヲ得但シ選擧長ニ於テ選擧會場ノ秩序ヲ紊スノ虞ナシト認ムルトキハ適宜ノ時間ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ得

第十二條　選擧人投票用紙ノ交付ヲ受ケタル後投票前ニ選擧會場ヲ退出セントスルトキ又ハ選擧會場外ニ退出ヲ命セラレタルトキハ投票用紙ヲ返付スヘシ

第十三條　投票終リタルトキハ選擧長ハ投票函ノ內蓋ノ投票口及外蓋ヲ鎖シ其ノ內蓋ノ鑰ハ選擧立會人之ヲ保管シ外蓋ノ鑰ハ選擧長之ヲ保管スヘシ

第十四條　開票ハ特別ノ場合ヲ除クノ外投票ヲ終リタル後直ニ之ヲ行フ

第十五條　開票ノ場合ニ於テハ選擧長ハ選擧立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ヲ計算シ投票人ノ總數ト比較シ次ニ投票ノ點檢ヲ行ヒ同一被選擧人ノ得票數ヲ計算スヘシ

第十六條　前條ノ計算終リタルトキハ選擧長ハ各被選擧人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十七條　投票ノ調査總テ終リタルトキハ選擧長ハ有效投票ト無效投票トヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ選擧立會人ト共ニ之ニ封印ヲ施スヘシ

第十八條　選擧人ハ選擧會ノ參觀ヲ求ムルコトヲ得但シ開票開始前ハ此ノ限ニ在ラス

第十九條　選擧長選擧錄ヲ調製シタルトキハ之ヲ投票ト共ニ理事ニ提出スヘシ

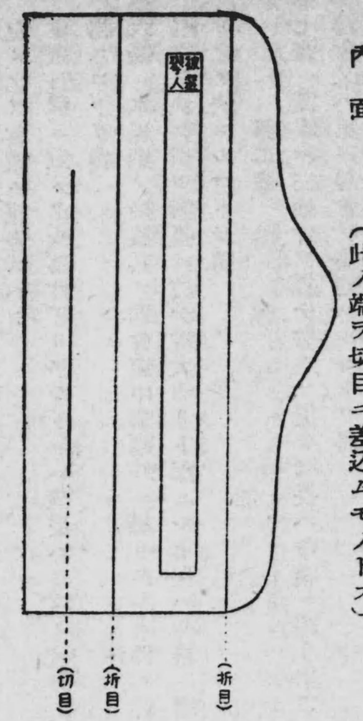
本台

（別記）

投票用紙ノ樣式

開票シタル場合ノ樣式

內面



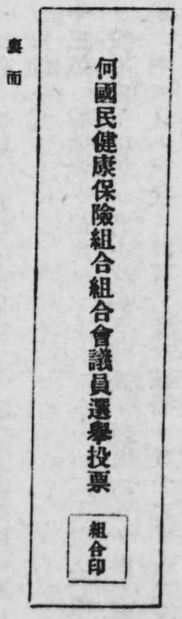
外面

（此ノ端ヲ切目ニ差込ムモノトス）

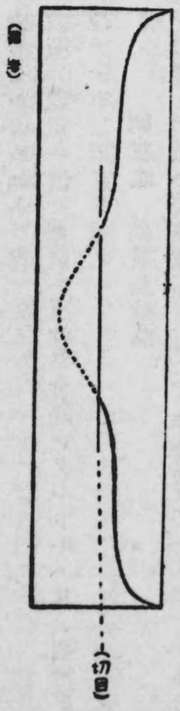
（此ノ端ヲ切目ニ差込ムモノトス）

折疊ミタル場合ノ樣式

表面



裏面



（備考）

用紙ハ折疊ミタル場合ニ於テハ外部ヨリ被選擧人ノ氏名ヲ透視シ得サル紙質ノモノヲ用フ

○國民健康保險組合組合會會議規則例

何國民健康保險組合組合會會議規則

第一章　總　則

第一條　議員ノ席次ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定メ一任期間据置ク

補缺議員ノ席次ハ前任者ノ席次ニ據ル但シ補缺ノ爲同時ニ議員ト爲リタル者二人以上アルトキハ其ノ席次ハ議長ノ定ムル所ニ依ル

議員ノ定數增加ニ依リ選擧セラレタル議員ノ席次ハ議長ノ定

台本

ム ル所ニ依ル

第二條　議員ノ著席ハ振鈴ヲ以テ報ス

第三條　議案又ハ報告書ハ開議前議長之ヲ議員ニ配付スヘシ

第四條　議長會議ヲ開カントスルトキハ開議ノ旨ヲ宣告スヘシ議案又ハ報告書ハ議長付議ノ後組合ノ事務員ヲシテ之ヲ朗讀セシムヘシ但シ議長ノ意見ニ依リ朗讀ヲ省略スルコトヲ得

第五條　會期ヲ定メテ招集シタル會議ニ在リテハ議長ハ次日ノ會議日程及開議ノ時間ヲ定メ之ヲ會議ニ報告スヘシ會議日程ニ定メタル事件ニシテ當日開議スルコト能ハサルトキ又ハ其ノ事件ノ會議了ラサルトキハ議長ハ更ニ會議日程ヲ定メ之ヲ會議ニ報告スヘシ

會議日程ニ定メタル事件了リタルトキハ議長ハ日程ノ追加ヲ爲スコトヲ得

第六條　本規則ノ疑義其ノ他會議中議題外ニ起リタル事件ハ議長之ヲ決ス但シ議長ニ於テ重大ナリト認ムル事件ハ會議ニ諮リ之ヲ決スルコトヲ得

第二章　讀會

第七條　議案ハ三讀會ヲ經テ確定ス但シ議長ハ會議ニ諮リ第二讀會又ハ第三讀會ヲ省略スルコトヲ得

第八條　第一讀會ニ於テハ議案ノ大體ニ就キ審議シ第二讀會ヲ開クヤ否ヤヲ決ス

第九條　第二讀會ニ於テハ議案ノ條項ヲ逐次審議ス但シ議長ハ會議ニ諮リ條項ノ順序ヲ變更シ又ハ數條項ヲ一括シ若ハ一條項ヲ分割シテ議事ニ付スルコトヲ得

第十條　第三讀會ニ於テハ議案ノ全體ニ就キ議決ス

第三讀會ニ於テハ字句ノ更正ノ外修正ノ動議ヲ提出スルコトヲ得ス但シ議長ノ許可ヲ受ケタルトキハ之ヲ提出スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ二人以上（何人以上）ノ贊成者アルニ非サレハ議題ト爲サス

第十一條　議案ニシテ特ニ審査ヲ要スルモノハ第一讀會ニ於テ議長ハ會議ニ諮リ又ハ會議ノ議決ニ依リ委員ヲ互選シテ之ニ審査セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ委員ニ事件ヲ付託シタルトキハ其ノ報告ヲ待チテ第二讀會ヲ開ク

第三章　動議及建議

第十二條　動議ハ贊成者（何人以上ノ贊成者）アルニ非サレハ之ヲ議題ト爲サス

第十三條　建議案ヲ提出セントスルトキハ二人以上（何人以上）ノ贊成者ト連署シタル文書ヲ議長ニ提出スヘシ但シ事件ノ簡單ナルモノハ議長ノ許可ヲ受ケ議場ニ於テ之ヲ述フルコトヲ得

第十四條　議題ト爲リタル動議又ハ建議ハ議長ノ許可ヲ受クルニ非サレハ之ヲ撤回スルコトヲ得ス

第十五條　動議又ハ建議ニシテ否決セラレタルモノハ其ノ會期中再ヒ之ヲ提出スルコトヲ得ス

第四章　發言及討論

第十六條　議長ニ於テ開議ヲ宣告セサル間ハ議員ハ發言スルコトヲ得ス

第十七條　議員發言セントスルトキハ起立シテ議長ト呼ヒ自己ノ氏名又ハ席次番號ヲ告ケ議長ノ許可ヲ受クヘシ

二人以上同時ニ發言ヲ求ムルトキハ議長ハ其ノ一人ヲ指定シテ發言セシムヘシ此ノ場合ニ於テハ議員ハ發言ノ前後ニ關シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十八條　理事發言ヲ求ムルトキハ議長ハ直ニ之ヲ許可スヘシ但シ之カ爲議員ノ發言ヲ中止セシムルコトヲ得ス

第十九條　討論ハ議題外ニ渉ルコトヲ得ス

議員ノ討論冗長ニ渉リ又ハ不必要ノ論議ト認ムルトキハ議長ハ之ヲ制止スルコトヲ得

第二十條　討論未タ終ラスト雖モ議長ニ於テ論旨盡キタリト認ムルトキハ討論ノ終局ヲ宣告スルコトヲ得

第五章　採決

第二十一條　否決ノ動議ハ修正動議ニ先チ採決スヘシ

第二十二條　修正ノ動議ハ原案ニ先チ採決スヘシ

同一ノ議題ニ關シ修正ノ動議數箇提出アリタルトキハ議長ニ於テ原案ノ趣旨ニ最モ遠シト認メタルモノヨリ順次採決スヘシ

第二十三條　否決ノ動議及修正ノ動議總テ否決セラレタルトキハ原案ニ就キ採決スヘシ

第二十四條　議長ニ於テ採決ヲ爲サントスルトキハ其ノ議題及採決スヘキ旨ヲ會議ニ宣告スヘシ前項ノ宣告後ハ其ノ議題ニ關シ議員ハ發言スルコトヲ得ス

第二十五條　會議ニ列席スル議員ハ採決スヘキ議題ニ付可否ヲ表明スヘシ

第二十六條　表決ノ方法ハ起立ヲ以テ之ヲ爲ス但シ議長ノ意見ニ依リ他ノ方法ヲ用フルコトヲ得

第二十七條　採決ノ結果ハ議長之ヲ宣告スヘシ

第六章　秩序

第二十八條　議員招集ニ應スルコト能ハス又ハ招集ニ應シタルモ會議ニ出席スルコト能ハサルトキハ定刻前其ノ事由ヲ議長ニ屆出ツヘシ

第二十九條　議員ハ會議中私語其ノ他議事ヲ妨クルノ言動ヲ爲スコトヲ得ス

第三十條　議員ハ會議中無禮ノ語ヲ用ヒ又ハ他人ノ一身上ニ渉リ討論スルコトヲ得ス

台本

第三十一條　會議中本規則ニ違背シ其ノ他議場ノ秩序ヲ紊ス議員アルトキハ議長之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ當日ノ會議ノ終ル迄發言ヲ禁止シ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第三十二條　議場喧騒ニ渉リ整理シ難キトキハ議長ハ當日ノ會議ヲ中止シ又ハ之ヲ閉ツルコトヲ得

●國民健康保險組合ノ財務ノ取扱ニ關スル件

（昭和十三年七月十三日社發第七三六號地方長官宛保險院社會保險局長通牒）

國民健康保險組合ノ財務ノ取扱ニ付テハ法令及規約ニ規定アルモノノ外左記ニ依リ取扱ハシメラレ度

記

第一　豫算ノ編成

一、收入支出ハ一切之ヲ豫算ニ計上スルコト

二、收入特ニ補助金及繰越金ハ過大ニ見積ラス確實ナル基礎ニ依リ之ヲ計上スルコト

三、一部負擔金收入ハ療養ノ給付ニ要スル費用豫算額ニ一部負擔ノ割合ヲ乘シテ得タル額ヲ超エサルコト

四、準備金ノ利子ハ原則トシテ準備金ニ繰入ルルコト但シ準備金法定額ニ達シタル場合ニ於テハ此ノ限ニ在ラサルコト

五、事務費（事務所費、事務所營繕費、組合會費、組合會議員選擧費ノ類）ハ原則トシテ保險給付費ノ百分ノ十以內ニ止ムルコト

六、保險給付費ハ最近ノ實績ヲ基礎トシ將來ノ增減ヲ確實ニ見積リ之ヲ計上スルコト

七、保健施設費ハ原則トシテ保險給付費ノ百分ノ十以內ニ止ムルコト

八、豫備費ハ保險給付費ノ百分ノ五以上ヲ計上スルコト

九、豫算ノ更正又ハ追加ハ年度經過後ニ於テ爲スコトヲ得サルコト

十、豫算ハ樣式第一號ノ例ニ倣ヒ之ヲ調製スルコト

第二　豫算ノ執行

一、收入ノ所屬年度ハ收入スヘキ權利ノ生シタル日ノ屬スル年度ニ依ルコト但シ預金利子等ノ收入ニ付テハ之ヲ領收シタル日ノ屬スル年度ニ依ルコト

二、支出ノ所屬年度ハ支出スヘキ義務ノ生シタル日ノ屬スル年度ニ依ルコト但シ契約ニ依リ別ニ支拂期日ノ定マレルモノニ付テハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度ニ依ルコト

三、歲計剩餘金ハ成ルヘク多額ヲ準備金ニ積立ツルコト此ノ場合ニ於テハ翌年度ノ收入ニ編入セスシテ決算殘金處分ニ依リ直ニ之ヲ積立ツルコト

四、年度初ニ於テ其ノ年度ニ屬スル支拂上ノ現金ニ不足アル場合ニ於テハ前年度ノ收支殘金ヲ以テ支拂ニ充ツルコトヲ得ルコト但シ前年度ノ支拂ニ支障ナキ限度ニ於テ之ヲ爲スコト

五、一時借入金ヲ爲シ得ヘキ限度ハ每年度組合會ノ議決ヲ經ヘキコト但シ借入ノ豫定ナキトキハ其ノ手續ヲ要セサルコト

六、費目流用又ハ豫備費充當ハ必要ノ都度必要額ニ限リ出納閉鎖期日迄之ヲ流用又ハ充當シ得ルコト

七、組合事務所外遠隔ノ土地ニ於テ支拂ヲ爲ス經費、旅費、訴訟費用、前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ難キモノ等ニ付テハ假拂ヲ爲シ得ルコト

八、誤收入又ハ過收入ハ之ヲ收入シタル科目ヨリ拂戻スコト

九、誤拂若ハ過渡又ハ假拂ハ之ヲ支出シタル科目ニ戻入スルコト

十、出納閉鎖期日後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ收入支出ト爲スコトハ第八項ノ拂戻金又ハ前項ノ戻入金ニシテ出納閉鎖期日後ニ係ルモノ亦同シ

第三　現金出納

一、收支ノ命令者ト現金出納者トハ同一人ヲ以テ之ヲ兼ネシメサルコト

現金出納ハ事務員ヲシテ之ニ當ラシムル場合ニ於テモ收支命令及通帳、印鑑等ノ保管ハ理事之ニ當ルコト

二、支拂餘裕金ハ日常ノ支拂ニ必要ナルモノヲ除クノ外郵便局等ニ預入シ置クコト

三、支拂ニ當リテハ必ス領收證ヲ徵スルコト

第四　決算ノ調製

一、決算ハ出納閉鎖期日前ト雖モ出納ヲ完了シタルトキハ遲滯ナク之ヲ調製スルコト

二、決算ハ豫算ト同一ノ樣式ヲ用ヒ之ヲ調製スルコト

三、決算殘金ノ處分ハ決算トハ別個ノ議案トシテ組合會ノ議決ヲ經ヘキコト

第五　組合財產

一、組合設立後三年度迄ニ於ケル準備金ノ積立額ハ左ノ如ク算定スルコト

イ、初年度ニ於テハ其ノ年度ノ保險給付費支出額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額（但シ剩餘金ノ額カ右ノ百分ノ五ニ相當スル額ニ達セサルトキハ其ノ全額トス以下之ニ同シ）

ロ、第二年度ニ於テハ初年度ノ保險給付費支出額ヲ一年度分ノ額ニ換算シタル額ト第二年度ノ保險給付費支出額トノ合計額ノ二分ノ一ノ額ノ百分ノ五以上ニ相當スル額

ハ、第三年度ニ於テハ初年度ノ保險給付費支出額ヲ一年度

分ノ額ニ換算シタル額ト第二年度ノ保險給付費支出額ト第三年度ノ保險給付費支出額トノ合計額ノ三分ノ一ノ百分ノ五以上ニ相當スル額

二、組合ノ重要ナル財產ノ處分方ニ付監督官廳ノ認可ヲ受ケタル後之ヲ實行シタルトキハ遲滯ナク其ノ結果ヲ報告スルコト

三、組合ハ樣式第二號ノ例ニ倣ヒ準備金、土地、建物、機械器具、備品等ノ如キ組合ノ主要ナル財產ニ關スル臺帳ヲ備フルコト

第六　會計帳簿及收支證憑書類

一、歲入簿、歲出簿、現金出帳簿ノ記入ハ收入支出ノ都度之ヲ爲シ且其ノ記入ヲ誤ラサル樣注意スルコト

二、歲入簿及歲出簿ニハ月計及通計ヲ附スルコト

三、現金出納簿ニハ準備金其ノ他ノ財產ニ屬スル出納ヲ記載セサルコト但シ準備金ヲ繰替使用スル場合及其ノ戻入ヲ爲ス場合ニ於テハ其ノ受拂ニ付記載スルコト

四、會計諸帳簿ハ樣式第三號ニ依リ之ヲ調製スルコト

五、會計ニ關スル諸帳簿書類ノ記載事項ニ付訂正、挿入又ハ削除ヲ爲サントスルトキハ二線ヲ劃シテ其ノ右側又ハ上位ニ正書シ其ノ削除ニ係ル文字ハ仍明ニ讀得ヘキ樣字體ヲ存スルコト

六、證憑書類ハ後日査閱ニ便ナル樣支出月別又ハ費目別ノ明瞭ナル樣整理編綴シ文書保存ニ關スル規程ニ定ムル期間之ヲ保存スルコト

（樣式第一號）

昭和何年度何國民健康保險組合收入支出豫算書

收　入

一金　　圓　收入豫算高

支　出

一金　　圓　支出豫算高

收入支出差引

豫算ヲ經常、臨時ノ二部ニ分チタル場合ハ次ノ如ク記載スルコト

收　入

一金　　圓　經常部豫算高

一金　　圓　臨時部豫算高

合計金　　圓

支　出

一金　　圓　經常部豫算高

一金　　圓　臨時部豫算高

合計金　　圓

收入支出差引

昭和何年度何國民健康保險組合收入支出豫算

支　出

豫算		豫算				豫算說明
科目		種目	本年度豫算額	前年度豫算額	增減	附記
款	項					
			円	円	円	
一國民健康保險收入						
	一保險料					
		一保險料				組合員一人當何程
	二一部負擔金收入					
		一一部負擔金收入				療養ノ給付費用ノ何分ノ何
	三過怠金					
		一過怠金				
二補助金						
	一國庫補助					
		一國庫補助				被保險者一人當何程
	二道府縣補助					
		一道府縣補助				

| | | |

| | | |

		一電燈費	
		二何々	
		三雜費	
三保險給付費			
	一療養諸費		
		一療養給付費	被保險者一人當何程
		二療養費	被保險者一人當何程
	二助產諸費		
		一助產給付費	被保險者一人當何程
		二助產費	被保險者一人當何程
	三葬祭諸費		
		一葬祭給付費	被保險者一人當何程
		二葬祭費	被保險者一人當何程
	四何々		
		一何々	被保險者一人當何程
四保健施設費			

		一保健施設費	
		一保健宣傳費	冊子配付費何程、講演會開備費何程、何費何程
		二健康診斷費	醫師手當何程
		三何々	
五拂戻保險料			
		一拂戻保險料	
		一拂戻保險料	組合員何人一人當平均何程
六組合債費			
	一元金償還		
		一元金償還	昭和何年度起償何々ノ爲ノ分
	二利子		
		一利子	昭和何年度起償何々ノ爲ノ分元金何程ニ對スル利子
七積立金			
	一準備金繰入		
		一準備金繰入	
八何々			

| | | |